

平成 30 年度本部事業報告書

社会福祉法人 ささゆり会

平成 30 年度の運営スローガンは、『活力ある職場を提供し、生産性を上げる』になっております。生産性向上の為にサンライフ西庄から ICT 導入を行い、生産性向上を行いました。

平成 30 年 4 月から介護報酬の改定があり、施設系サービスは、プラス 0.54%改定となりました。そして、在宅系サービスはマイナスの改定となりました。特にデイサービスでは、大幅なマイナス改定になりました。ただし、自立支援に向けた介護には、新しく加算が出来、お世話型の介護から自立支援型の介護へのシフトした施設が加算を多く取得できるようになっています。

8 月 1 日にはベトナムからの EPA(経済連携協定)候補生が各事業所に配属になりました。法人全体で 15 名の EPA の候補生が来ました。サンライフ御立に 5 名、サンライフ土山に 5 名、サンライフ魚崎に 5 名配属になりました。EPA 候補生の日本語及び介護福祉士の資格取得の勉強にも力を入れています。

介護現場では、介護の見える化を進める為に iPad mini の導入を行いました。サンライフ西庄では、超低床ベッド、並びに ICT の導入を促進し、カメラ、眠りスキャン(心拍数、脈拍)、iPad mini を導入しています。業務中に iPad mini で記録を行い、業務改善を行います。今までの仕事方法を見直すことで、職場環境を整え、改善に向けた取り組みを行います。平成 30 年 6 月からは、子供食堂「レストランテ・ヴォーノ」をサンライフ西庄で開設し、平成 31 年 2 月には福祉無料なんでも相談所を姫路駅前のキャスパビル 1 階に開設をし、地域貢献事業を行なっています。

介護看護人材の確保は、益々難しくなっています。新入職員は、姫路で 7 名、魚崎 5 名がささゆり会に入社しました。

H30 年度ささゆり会重点課題は、事業計画に挙げた下記 3 つの重点項目である。

1. 施設運営の改革に不可欠な諸事業の充実
 - ・サンライフ西庄の全床開設
 - ・外国人技能実習生受け入れの為に協同組合の開設
2. 主体的経営の基盤強化に不可欠なシステム及び仕組みの構築
 - ・ICT 導入による業務改善
3. 施設の運営や活動に不可欠な人材育成と確保
 - ・新卒者、中途者採用促進の為に専門担当者の配置推進
 - ・EPA(経済連携協定)の研修生の採用と育成

以下、平成 30 年度の事業推進結果を主要運営の経緯・施設経営と介護サービス・会議と大別して、その概要を報告する。

I. 主要運営の経緯

1. 定款の変更と諸規程の改正

- H30. 4. 24 社会福祉法人ささゆり会諸規程の改定について
- H30. 6. 11 社会福祉法人ささゆり会定款変更について
社会福祉法人ささゆり会諸規程の改定について
- H30. 6. 26 社会福祉法人ささゆり会定款変更について
社会福祉法人ささゆり会諸規程の改定について
- H30. 8. 17 社会福祉法人ささゆり会諸規程の制定について
社会福祉法人ささゆり会諸規程の改定について
- H30. 9. 11 社会福祉法人ささゆり会諸規程の改定について
定款施行細則の変更について
- H30. 11. 16 社会福祉法人ささゆり会定款変更（削除）について
社会福祉法人ささゆり会諸規程の制定・改定について
- H31. 2. 22 社会福祉法人ささゆり会諸規程の改定について
- H31. 3. 14 社会福祉法人ささゆり会諸規程の改定について
社会福祉法人ささゆり会定款細則の変更について

2. その他行事等の主要運営

- H30. 3. 26 入社式・サンライフ西庄竣工式
- H30. 4. 2 サンライフ魚崎入社式
- H30. 4. 24 第 1 回理事会 社会福祉法人ささゆり会諸規程の改定について
姫路市指導監査結果報告について
江戸川区の特養建設における土地について
サンライフ西庄駐車場前道路の土地取得について
協同組合における出資引受金について
- H30. 6. 1 監事会監査 平成 29 年度事業報告・決算などの監査
- H30. 6. 2 御立祭り
- H30. 6. 11 第 2 回理事会 平成 29 年度監事監査報告について
平成 29 年度事業報告承認について
平成 29 年度会計決算承認について
福祉充実計画の評議員会への上程議案の承認について
社会福祉法人ささゆり会定款変更について
社会福祉法人ささゆり会諸規程の改定について
くすのき介護福祉事業協同組合の出資について
定時評議員会について
会計監査人の選任について
- H30. 6. 14 ふれあい子供食堂（レストランテヴォーノ西庄）開設
- H30. 6. 26 定時評議員会 平成 29 年度監事監査報告
平成 29 年度事業報告承認について
平成 29 年度会計決算承認について
福祉充実計画の承認について
社会福祉法人ささゆり会定款変更について

		会計監査人の選任について
		くすのき介護福祉事業協同組合への出資について
		社会福祉法人ささゆり会諸規程の改定について
H30. 6. 27	サンライフ魚崎納涼祭	
H30. 8. 7	サンライフ魚崎 EPA 候補生入社式	
H30. 8. 17	第 3 回理事会	社会福祉法人ささゆり会諸規程の制定について 社会福祉法人ささゆり会諸規程の改定について 看護専門学校の入学生試験について 魚崎事業所管理者変更について
H30. 9. 8	敬老会	
H30. 9. 11	第 4 回理事会	姫路市岡田字松ケ坪の土地における小規模多機能型居宅、 介護事業所、デイサービス、居宅介護支援事業所、ヘルパー ステーション、保育所（他法人）開設の応募について 看護専門学校の入学生試験（回答）について 社会福祉法人ささゆり会諸規程の改定について 定款施行細則の変更について 地域貢献事業 介護・保育・障害についての相談事業所の開 設について
H30. 9. 12	彼岸法要	
H30. 9. 21	サンライフ魚崎敬老祭り	
H30. 10. 27	HCC（播磨介護技術競技大会）	
H30. 11. 16	第 5 回理事会	社会福祉法人ささゆり会定款変更（削除）について 評議員会書面決議について 社会福祉法人ささゆり会諸規程の制定・改定について 税理士契約書について 介護保険サービス事業者の現地指導の結果について 地域貢献事業 介護・保育・障害についての相談事業所（キ ャスパビル 138 号室）の内装について
H30. 11. 29	第 1 回介護保険推進委員会（魚崎）	
H30. 12. 2	第 6 回理事会	平成 30 年度上半期監事監査報告について 平成 30 年度上半期事業報告について 平成 30 年度上半期会計決算報告について 平成 30 年度第一次補正予算承認について 職員の異動について 臨時評議員会の招集日時、場所、議題等の決定について
H30. 12. 3	監事監査	上半期事業推進状況の監査 事業計画に基づく諸事業の実施状況と課題
H30. 12. 13	サンライフ魚崎クリスマス会	
H30. 12. 14	クリスマス会	
H30. 12. 28	もちつき大会	
H31. 1. 8	第 1 回臨時評議員会	平成 30 年度上半期事業報告について 平成 30 年度上半期会計決算報告について 平成 30 年度第一次補正承認について
H31. 1. 16	神戸市監査	
H31. 2. 2	福祉無料なんでも相談所 開設	
H31. 2. 22	第 7 回理事会	社会福祉法人ささゆり会諸規程の改定について
H31. 3. 8	第 2 回介護保険推進委員会	
H31. 3. 12	HDC（播磨料理競技大会）	

- H31.3.14 第8回理事会 平成31年度本部・施設事業計画案承認について
平成30年補正予算案承認について
平成31年度会計予算案承認について
社会福祉法人ささゆり会諸規程の改定について
社会福祉法人ささゆり会定款細則の変更について
臨時評議員会の招集日時、場所、議題等について
- H31.3.22 第2回臨時評議員会 平成31年度本部・施設事業計画案承認について
平成30年補正予算案承認について
平成31年度会計予算案承認について
- H31.3.23 彼岸法要

Ⅱ. 施設経営と介護サービス

1. 施設運営の改革に不可欠な諸事業の充実

平成30年4月1日よりサンライフ西庄を開設しました。平成30年6月に子ども食堂「リストランテ・ヴォーノ」をサンライフ西庄で開設。平成31年2月に福祉無料なんでも相談所を姫路駅前のキャスパビル1階で開設。

2. 主体的経営の基盤強化に不可欠なシステム及び仕組みの構築

サンライフ西庄にiPad miniで業務を行えるための設備を施行しました。また、入所者様の身体状況が分かるためにICT活用を行い、パラマウンドベッド株式会社の眠りSCANを導入しました。また、日々の記録から業務のオペレーション等、全く新しい仕組みをサンライフ西庄にて始めています。サンライフ御立でもiPad miniの導入を行い、業務改善を行なっています。

3. 施設の運営や活動に不可欠な人材育成と確保

新入職員の入社は、姫路が7名、魚崎5名となっています。EPA候補生は、姫路10名、魚崎5名の入社となりました。EPA候補生の受け入れ人数は増加しています。前年度と比べて、高校生、大学生とも入社人数が減って来ているように思えます。

4. 地域貢献事業等の推進（介護実習等）

姫路事業所

受 入 先	人数
神戸学院大学	2
兵庫県立飾磨高等学校	3
姫路保育福祉専門学校	4
ハーベスト医療福祉専門学校	1
NHK 学園	1

魚崎事業所

受 入 先	人数
兵庫県新任職員研修	2
甲子園短期大学	3
神戸常盤大学	2
兵庫県立総合衛生学院	4
関西福祉科学大学	2

関西福祉大学	2
姫路市医師会看護専門学校	24
兵庫大学	1
姫路大学	1
兵庫県立大学	1
姫路しらさぎ特別支援学校	1
合計	41

西神戸高等特別支援学校	1
神戸市立本庄中学校	3
神戸市立魚崎中学校	1
合計	18

ふれあい子供食堂（レストランテ・ヴォーノ西庄）

	6/14	7/12	7/26	8/9	9/13	10/11	11/8	12/13	1/10	2/14	3/14	合計
子ども人数	16	17	21	16	17	16	16	24	21	22	26	212
ボランティア	12	15	12	12	10	8	11	10	9	15	17	121

ボランティア：民生委員、飾磨高校学生、地域住民（西庄地域）

福祉無料なんでも相談所

	相談経路		相談種別					相談項目				
	電話	来所	高齢者	障がい者	児童	精神	その他	生活	介護	入所	虐待	その他
2月	4	10	8	0	0	4	2	8	2	0	0	4
3月	13	20	22	4	0	7	3	7	3	5	0	14

5. 職員の資格取得への取組について

・介護福祉士

御立事業所：中尾 螢 木村 仁志 森下 絵里 馬場 大輔
丸尾 佳奈 鈴木 健司 亀井 亮佑 高橋 秀友
田中 正美 矢田 彩夏 田代 美香 木村 嘉恵
（小計 12名）

魚崎事業所：藤本 久美子 山本 梓 青野 綾雅 木造 常善
（小計 4名）

・介護支援専門員

神戸事業所：上原 優也（小計 1名）

合計 17 名

Ⅲ. 会議

定款の変更、規定の改正、事業計画及び事業報告、会計予算及び決算、介護に関する業務の執行状況や財産状況の整理のため、以下の会議を行った。

ア. 監事会・理事会・評議員会

会議名	内 容	期 日	場 所
第 1 回理事会	1. 社会福祉法人ささゆり会諸規程の改定について 2. 姫路市指導監査結果報告について 3. 江戸川区の特養建設における土地について 4. サンライフ西庄駐車場前道路の土地取得について 5. 協同組合における出資引受金について	H30. 4. 24	御 立 2 F 会議室
第 1 回監事会	1. 平成 29 年度事業報告・決算などの監査	H30. 6. 1	
第 2 回理事会	1. 平成 29 年度監事監査報告について 2. 平成 29 年度事業報告承認について 3. 平成 29 年度会計決算承認について 4. 福祉充実計画の評議員会への上程議案の承認について 5. 社会福祉法人ささゆり会定款変更について 6. 社会福祉法人ささゆり会諸規程の改定について 7. くすのき介護福祉事業協同組合の出資について 8. 定時評議員会について 9. 会計監査人の選任について	H30. 6. 11	御 立 2 F 会議室
定時評議員会	1. 平成 29 年度監事監査報告 2. 平成 29 年度事業報告承認について 3. 平成 29 年度会計決算承認について 4. 福祉充実計画の承認について 5. 社会福祉法人ささゆり会定款変更について 6. 会計監査人の選任について 7. くすのき介護福祉事業協同組合への出資について 8. 社会福祉法人ささゆり会諸規程の改定	H30. 6. 26	御 立 2 F 会議室

	について		
第 3 回理事会	1. 社会福祉法人ささゆり会諸規程の制定について 2. 社会福祉法人ささゆり会諸規程の改定について 3. 看護専門学校の入学生試験について 4. 魚崎事業所管理者変更について	H30. 8. 17	御 立 2 F 会議室
第 4 回理事会	1. 姫路市岡田字松ケ坪の土地における小規模多機能型居宅介護事業所、デイサービス、居宅介護支援事業所、ヘルパーステーション、保育所（他法人）開設の応募について 2. 看護専門学校の入学生試験（回答）について 3. 社会福祉法人ささゆり会諸規程の改定について 4. 定款施行細則の変更について 5. 地域貢献事業 介護・保育・障害についての相談事業所の開設について	H30. 9. 11	御 立 2 F 会議室
第 5 回理事会	1. 社会福祉法人ささゆり会定款変更（削除）について 2. 評議員会書面決議について 3. 社会福祉法人ささゆり会諸規程の制定・改定について 4. 税理士契約書について 5. 介護保険サービス事業者の現地指導の結果について 6. 地域貢献事業 介護・保育・障害についての相談事業所（キャスパビル 138 号室）の内装について	H30. 11. 16	御 立 2 F 会議室
第 2 回監事監査報告	1. 上半期事業推進状況の監査 2. 事業計画に基づく諸事業の実施状況と課題	H30. 12. 3	御 立 2 F 会議室
第 6 回理事会	1. 平成 30 年度上半期監事監査報告について 2. 平成 30 年度上半期事業報告について 3. 平成 30 年度上半期会計決算報告について	H30. 12. 20	御 立 2 F 会議室

	て 4. 平成30年度第一次補正予算承認について 5. 職員の異動について 6. 臨時評議員会の招集日時、場所、議題等の決定について		
第1回臨時評議員会	1. 平成30年度上半期事業報告について 2. 平成30年度上半期会計決算報告について 3. 平成30年度第一次補正承認について	H31.1.8	御立 2F 会議室
第7回理事会	1. 社会福祉法人ささゆり会諸規程の改定について	H31.2.22	御立 2F 会議室
第8回理事会	1. 平成31年度本部・施設事業計画案承認について 2. 平成30年補正予算案承認について 3. 平成31年度会計予算案承認について 4. 社会福祉法人ささゆり会諸規程の改定について 5. 社会福祉法人ささゆり会定款細則の変更について 6. 臨時評議員会の招集日時、場所、議題等について	H31.3.14	御立 2F 会議室
第2回臨時評議員会	1. 平成31年度本部・施設事業計画案承認について 2. 平成30年補正予算案承認について 3. 平成31年度会計予算案承認について	H31.3.22	御立 2F 会議室

イ.介護保険推進委員会

会 議 名	内 容	期 日	場 所
第1回介護保険推進委員会	平成29年度上半期事業推進状況報告と課題検討	H29.11.29	ケアハウス魚崎 4F会議室
第2回介護保険推進委員会	平成30年度事業計画の策定案について	H30.3.9	御立 2F 会議室

以上

平成 30 年度 特別養護老人ホームサンライフ御立

事業報告書

平成 30 年度ささゆり会経営スローガンである「活力ある職場を提供し、生産性を上げる」を基に活力ある職場作りとして、家族様・職員に匿名のアンケートを実施し、それを基により良い職場環境に努め、利用者様・家族様に安心して頂けるサービスを提供した。サンライフ西庄の竣工により、経験ある職員の異動がありサービスの質を確保することが重要課題になったが、指導方法の見直しを行い職場での悩みを聞くことにより、「見てくれている人がいる」・「聞いてくれる人がいる」という安心感を持ってもらうことで仕事へのやりがいに繋げることが出来た。

嘱託医の変更に伴い、施設での点滴や、内服指示による対応が可能となった事や、近場の診療所への受診が出来た事により入院数の減少へと繋ぐことができた。しかし、入院となった場合の受け入れ先がなく、何件もの病院から受け入れ拒否となったため、協力病院との話し合いを行い、受け入れ先を検討していく必要が今後の課題としてあげられる。

1. 収入

(単位：千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
平成 29 年度実績	34,976	36,474	35,554	36,520	33,020	34,495	211,039
平成 30 年度目標	35,700	36,818	35,721	36,801	36,890	35,642	217,572
平成 30 年度実績	36,188	37,224	35,956	37,617	37,920	36,601	221,506
前年度との差異	1,212	750	402	1,097	4,900	2,106	10,467
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 29 年度実績	36,291	35,124	36,897	36,898	33,528	37,027	426,804
平成 30 年度目標	36,881	35,641	36,890	36,818	33,360	36,818	433,980
平成 30 年度実績	37,376	36,775	37,711	36,779	33,995	37,568	441,710
前年度との差異	1,085	1,651	814	-119	467	541	14,906

2. 利用者数

(単位：人)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
平成 29 年度	2,937	3,501	2,946	3,031	2,706	2,869	17,990
平成 30 年度	2,973	3,043	2,927	3,068	3,100	2,995	18,106
前年度との差異	36	-458	-19	37	394	126	116
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 29 年度	3,032	2,934	3,078	3,089	2,803	3,077	36,003
平成 30 年度	3,049	2,990	3,068	2,990	2,769	3,065	36,037
前年度との差異	17	56	-10	-99	-34	-12	34

3. 入院者数

(単位：人)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
平成 29 年度	66	71	92	100	390	139	858
平成 30 年度	48	58	68	25	0	4	203
前年度との差異	-20	-13	-24	-75	-390	-135	-655
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 29 年度	104	110	25	27	9	28	546
平成 30 年度	47	17	42	136	32	35	386
前年度との差異	-57	-93	17	109	23	7	-648

4. 稼働率

(単位：%)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
平成 29 年度	97.90	98.42	98.20	97.77	87.29	95.63	95.87
平成 30 年度	99.10	98.16	97.57	98.97	100	99.83	98.94
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 29 年度	97.81	97.80	99.29	99.65	100.11	99.77	97.47
平成 30 年度	98.35	99.67	98.97	96.45	98.89	99.0	98.75

5. 特養空床数

(単位：床)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	合計
平成 29 年度	70	34	58	62	414	134	772
平成 30 年度	25	46	62	29	0	1	163
前年度との差異	-45	12	4	-33	-414	-133	-609
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 29 年度	100	77	24	32	5	28	1,038
平成 30 年度	43	9	25	125	28	17	410
前年度との差異	-57	-68	1	93	23	-11	-628

6. 平成30年度 事故分類別発生数

	A	B	C	合計
合計	2	36	185	223

A：入院加療を要する事故 B：受診・通院を要する事故 C：受診・通院を要さない事故

Aランク：右大腿骨骨折、左大腿骨頸部骨折

7. 平成30年度 退所者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
看取り介護	0	1	0	0	1	0	2
その他	0	1	4	3	0	1	9
合計	0	2	4	3	1	1	11
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
看取り介護	0	0	1	0	1	0	4
その他	0	1	0	3	2	0	15
合計	0	1	1	3	3	0	19

サンライフ御立ショートステイ

平成 30 年度事業報告書

30 年度は、人員が安定せず少ない人数で業務に追われてしまうことがあったものの、「また利用したいと思えるショートステイ」を目指し、サービスの強化に取り組むことができた。数名であるが感染症が発生し、利用が大きく制限され、稼働率が落ちてしまう事態となってしまった。

I また利用したいと思えるショートステイ

生活の場の提供であっても、楽しく過ごして頂くことが大切であるという意識を、職員に繰り返し伝え、エンターテイメントの部分に力を入れて取り組んだ。おやつレクや外出、企画週間などを行うことで喜んで頂くことができた。また、それを掲示し、後日見て楽しんで頂いたり、家族様やケアマネにも喜んでいただくことができた。職員も自分の企画したことで反応を得て、各自が手ごたえを感じたようだ。認知症対応についても、かなり良くなってきたと感じる。どんな方でも安心して過ごせる場所であるように今後も指導を徹底していきたい。

家族様とのコミュニケーションについては、職員の中で差ができています。同じように、ロングショート担当利用者との関わりかたにも差がみられる。EPA 職員も含め、利用者様をよく見て積極的に関わりを持ち、状態変化に対応していけるようにする必要があります。

楽しみの部分に力を入れたことは良い結果となったが、生活の基本である衣食住の部分での抜け落ちが目立った。口の周りが汚れたままであったり、衣服が乱れていたり、介護職が守るべき利用者様の尊厳がおろそかになっていた。体交をせず麻痺側の手が内出血してしまうなど介護の基本ができていないことによる事故もあり、徹底的な改善が必要である。

II 活力ある職場作りで生産性をあげる

昨年同様リフレッシュ休暇の全員取得が適った。ショートステイに配属されて 1 年以上の職員も増えた為、誰もが簡単な予約受けやケアマネからの電話対応ができるようになってきている。簡単な対応マニュアルを電話付近に掲示し継続していく。EPA 職員については、3 年目の職員は 3 月から遅出帯の一人勤務を開始した。送迎確認のためにかけた電話のコールバックが 19 時過ぎにあることも想定し、掛かってきた電話の簡単な受け答えをロールプレイで練習している。夜勤については、ショートステイでは今後も日本人職員との 2 人体制の日に限り行うこととする。

Ⅲ事故防止の取り組み

ヒヤリハット 1 日 5 件の記入と毎月のポスター掲示を 1 年間継続して行った。月一回のフロア会議で事故の振り返りをし、昨年度の 106 件から 83 件に 2 年連続減少することができた。ただ、新規ロング利用の方の対応方法が確定するまで転倒転落の事故が続く傾向はあいかわらずで、センサーマット程度しか対応方法がなく非常に困難である事が多い。ショートは事故が多いと諦めてしまわず、原因の分析と対策の徹底により防止できるようにしていきたい

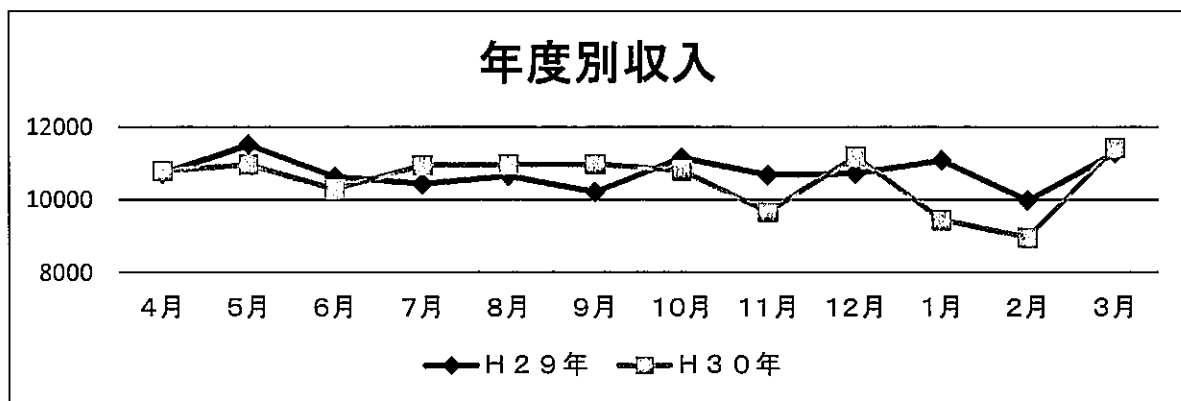
Ⅳ感染症対策

1 月に感染症が発生し、利用が大きく制限されることとなった。最初の特養でのインフルエンザ発症により、ショートステイでの発症者がいなくても、併設ということで大事をとってキャンセルされる方が続出した。その後、ショートの多床室で 2 名インフルエンザを発症、今回特例で短期利用の方もサンライフ御立の嘱託医で薬の処方を受けられ、本部長の判断により予防薬がロング利用の方と職員に処方され、拡がりを抑えることはできた。ただし、2 名であっても、フロア内に発症者がいるということで、やはりキャンセルされる方が相次ぎ、大きく利用人数を減らし稼働率が 100%を切ることとなってしまった。フロアや居室の温度湿度管理、手指消毒等には力を入れていたが、面会者や短期利用など外部からの持ち込みに対し、さらに対策強化が必要である。面会者のマスクの徹底や、利用者様のマスク使用など早い時期から対策を実施していかなければならない。感染症が発生してしまった場合の隔離対応もよりスムーズに行う必要がある。

Ⅴ収入の確保について

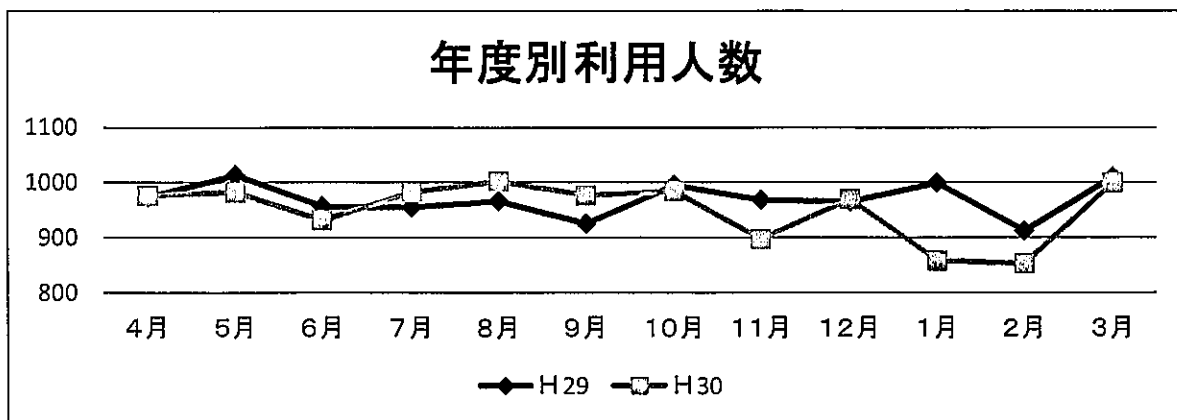
上半期は稼働率も昨年度より高く安定していたが、下半期で、11 月に長期利用の方の入院や死亡退所により次期ロング候補の方との調整がうまくできずに稼働率が落ちたことと、1 月 2 月に感染症が発生したことで稼働率を大きく下げることとなった。介護報酬の改定で多床室の報酬が個室に合わせて下げられたことは年間約 70 万近くの減収となった。それらを含めトータル約 250 万円の減収となった。定期的に短期利用していた方がロングショートから特養入所に変わったりと、今後短期利用の方をどう広げていくかが課題となる。依然として、『用事がないのに泊まらせることへの抵抗』が家族様にはみられ、レスパイト利用をいかに呼びかけていくか、罪悪感の払拭が必要だと思われる。昨年度と変わらず一か月約 2 名以上の方が特養入所としてロング利用を終えるため、特養主任相談員と協力して、次の待機者をスピーディに確保するべく面談に出向いていかなければならない。ホームページ配信や広告作成はあまり効果を得られていないので、さらに今後力をいれているレクリエーションなども大きくアピールしていきたい。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
H29年度	10717	11510	10633	10432	10655	10207	64154
H30年度	10787	10964	10290	10947	10966	10978	64932
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H29年度	11152	10679	10721	11081	9974	11281	129042
H30年度	10800	9659	11183	9440	8953	11423	126390



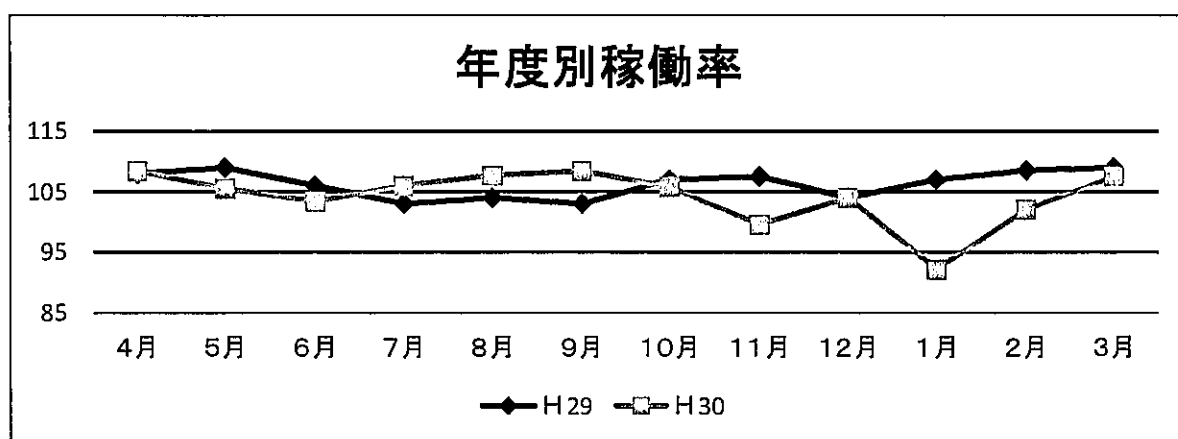
●年度別利用人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
H29 年度	973	1013	956	955	966	925	5788
H30 年度	976	982	931	982	1002	976	5849
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H29 年度	995	968	965	999	912	1010	11637
H30 年度	984	897	969	858	853	1000	11410



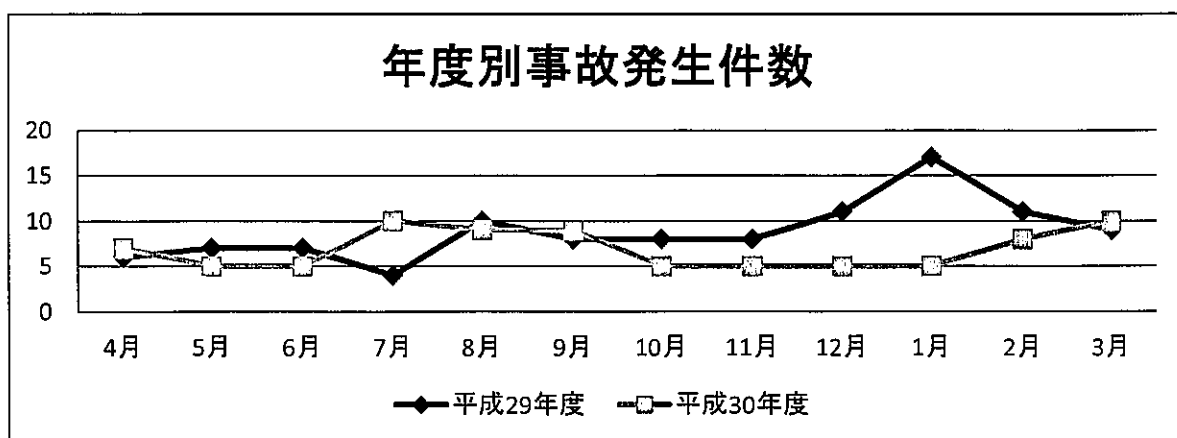
●年度別稼働率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	平均
H29 年度	108	109	106	103	104	103	105.5
H30 年度	108.4	105.5	103.4	106	107.7	108.4	106.5
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
H29 年度	107	107.5	104	107	108.5	109	106.3
H30 年度	105.8	99.6	104	92.2	102	107.5	104.2



●年度別事故発生数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
平成 29 年度	6	7	7	4	10	8	42
平成 30 年度	7	5	5	10	9	9	45
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 29 年度	8	8	11	17	11	9	106
平成 30 年度	5	5	5	5	8	10	83



●平成 30 年度 ショートステイ 分類別発生件数

	A	B	C	合計
4 月			7	7
5 月			5	5
6 月	1		4	5
7 月			10	10
8 月			9	9
9 月			9	9
10 月			5	5
11 月			5	5
12 月			5	5
1 月		1	4	5
2 月			8	8
3 月			10	10
計	1	1	81	83

【A】入院・加療を伴う事故

- ・夜間帯、立位の取れない方が、ベッドから起きようとして転倒。本人曰く靴下を履こうと思ったとのこと。

【B】受診・通院が必要な事故

- ・体動がない方をオムツ交換の際麻痺側の手を体の下にしまい夜間ずっと体交をせずそのまま圧迫した形となり掌全体に大きな血腫が複数発生した

【C】受診・通院を要さない事故

- ・新規利用の方の事故が続く傾向がある。尻もちや、ベッドからのずり落ちなど対策の困難なことが多くある。
- ・服薬ミスの事故も目立つ。誤薬ではなく、飲まずにあとから薬が出てきたなど管理方法、医務との情報共有が必要である

平成 30 年度 特別養護老人ホームサンライフ御立（医務）

事業報告書(案)

医務室では、平成 30 年度法人の運営方針である「活力ある職場を提供し、生産性をあげる」というスローガンを全員で共有し、日々業務に励んでまいりました。

今年度を振り返るにあたり、事業計画書で列挙した以下の目標に沿って評価・考察を行い、来年度以降へ繋げていきたいと考えています。

1. 看護体制の構築と他職種との連携と協働を強化しベッド稼働 98%を目指す

I 嘱託医と連携を図り施設で出来る範囲での医療処置を実施し入院数を減らす。

II 介護職及び他職種（理学療法士・管理栄養士・歯科衛生士）と協働し入居者の生活支援の充実に取り組む。

今年度の大きな変化としては、平成 30 年 1 月より嘱託医の変更がありました。嘱託先が遠方ということもあり、施設で実施できる医療行為及び医療処置などを最大限取り組んでまいりました。結果として、入院数は前年度の 82 人から今年度は 36 人へと大幅に減少し、それに伴い年間平均ベッド稼働率は 97.47%から 98.75%へ増加しました。（表 1）

理由を考察するにあたって嘱託医の変更も転機として考えられますが、大きな要因としては日々の看護師の観察のみならず、常時介護職や他職種と介護業務を協働することによって円滑なコミュニケーションや情報交換等が実施できたこと。その結果が異常の早期発見・早期対応・早期受診へ繋がり、ベッド稼働率の維持に直結したと考えています。

しかし、嘱託医変更に際して近医受診数の増加や緊急時搬送先の煩雑化など、今後継続する課題も浮上しています。実際に今年度の受診数は合計 209 件と昨年度の 122 件と比べ 2 倍近く増加しており、日中の看護師数の希薄化に繋がっています。

2. 充実した看取りケアを提供する

I その人らしさを大切に、本人及び家族の意思を尊重した看取りを提供する。

II 家族の参画を促し、入居者・家族に安心できる環境を提供する。

III 他職種と情報を共有し、統一したケアを提供する。

IV 家族・職員にとっても悔いのない満足のいく終焉を迎えられるケアの提供。

年々利用者様の介護度も上がり、ADL や嚥下機能低下、食事摂取困難等が目立つようになった際、医務ではご家族様と相談し看取りの意向を伺っています。

今年度 1 年間で看取りでなくなった方は 10 名でした。その人らしさや本人様、ご家族様の意思の尊重を目指し、時に家族様の泊まり込みや嗜好品の持ち込みなどを通してご家族様参画型で看取りの対応を行う事ができました。

また、年々EPA や職員の入れ替わりが増加している中でも統一した看取りケアが提供できるよう、看取り委員会を通してエンゼルケアや霊安室のマニュアルを作成しました。

3. 健康管理

I 利用者様の健康診断を年 1 回実施

II 職員の健康診断を年 2 回（深夜業に従事する者を含む）

利用者様は 9 月 20・27 日に、職員は 12 月 7 日に嘱託医協力のもと健康診断を実施しました。毎年実施することによって潜在性疾患を継続的に検索し、異常の早期発見・早期対応に繋げることができています。さらに、要精密検査や要受診の所見がある職員に対しては、個別に書類を送付し受診を促すことで安全な就労への啓発を行いました。この活動によって、生活習慣病や腰痛などの職業病改善への意欲向上に繋がれると期待しています。

また、今年度は人間ドッグの助成対象が 40～70 歳へ拡大したことにより福利厚生がさらに充実し、人間ドッグの希望・実施者は昨年度の 4 名から今年度 10 名へと増加しました。しかし、自己の体調管理に対する意欲や周知は依然職員全体へとは進んでいない現状も見受けられるため、来年度以降も情報の発信や自己の体調管理への啓発に努めていきます。

4. 感染予防

I インフルエンザ予防接種

II ノロウイルスなどの他の感染症に対しても「一行為一手洗い」・嗽の励行を徹底し、施設内感染が最小限にとどまるよう環境整備に努める。

利用者様に対しては家族の協力を得て予防接種を促し職員に対しても予防接種の励行、感染対策マニュアルの周知を促し感染に対する意識を高める。

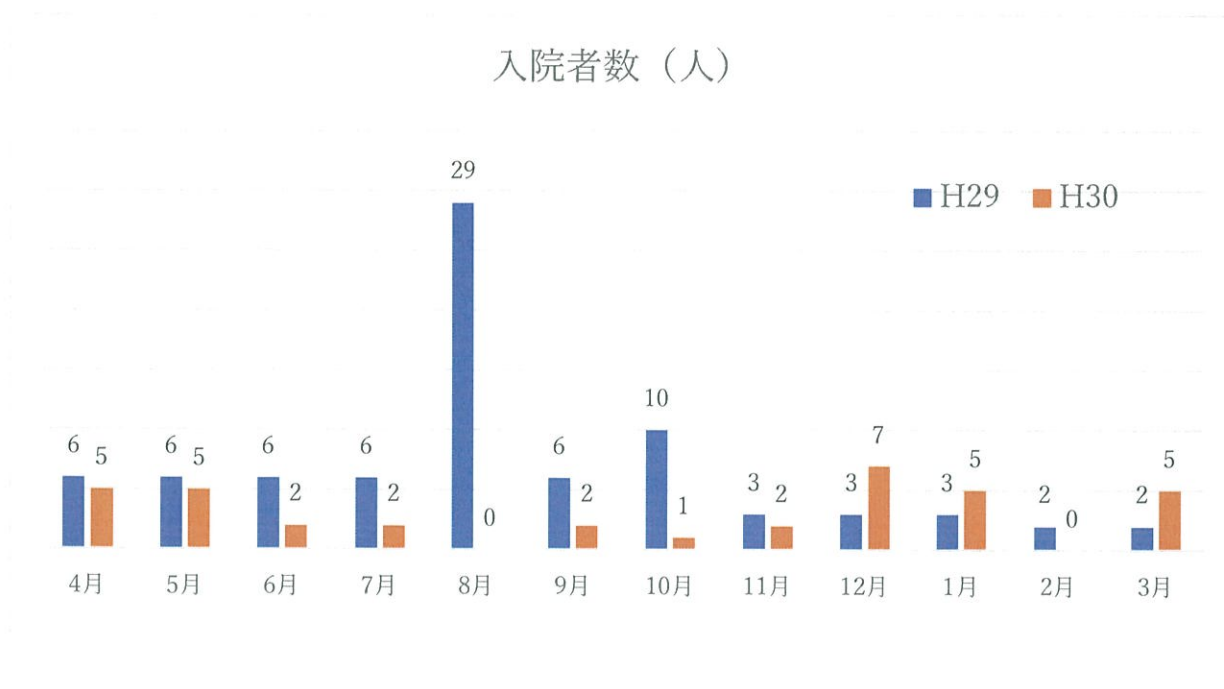
平成 31 年 1 月に特養で利用者様 29 名、職員 5 名のインフルエンザ感染がありました。感染発覚直後から今年度作成したインフルエンザ対応マニュアルの徹底を呼び掛け、感染者には嘱託医の指示のもとタミフルを配薬しました。隔離対応や面会謝絶を行うことで班や居室の垣根を越えての感染拡大は少なかったですが、同室者

への感染が多く結果的に規模が大きくなってしまったと考えています。

そのため、2月のショートステイで利用者様2名のインフルエンザ感染の際では1月の反省を活かし、本部長・嘱託医と連携し職員や感染者だけでなく同室者にもタミフルを配薬することによって感染の長期・拡大化の防止を図る事ができました。来年度以降も他部署や嘱託医と連携し、感染範囲を少しでも縮小できるよう努めていきます。

感染が拡大してしまう原因として、認知機能の低下が見られる入居者様が感染予防に対してのコンプライアンスを遵守することは難しく、また職員も隔離対応に追われる中で細部までの見守りは困難であることなどが挙げられます。そのため、来年度以降も平時から「一行為、一手洗い」の徹底を呼びかけるなど、まずは感染源を持ち込まないよう継続的に勉強会の実施や注意喚起を行っていきます。

表1. 入院者数前年度比較（人）



平成30年度 特別養護老人ホームサンライフ御立(厨房)

事業報告書

人材の定着を事業計画に挙げ一旦は落ち着いていたが、一部の時間帯・業務で不足している状態が続いている。職員の入れ替わりが多く業務マニュアルが疎かになってきているため、在籍している職員の定着・育成、さらなる人員の確保に努めつつ業務マニュアルの徹底に取り組んでいる。

また、褥瘡予防・対策を検討し取り組む予定であるが、人材不足の為疎かになっている。今後、出来ることはないか検討していくとともに新たな製品などの情報を集めて提案できるようにしたい。

1 人材の定着・育成

厨房の職員の入れ替わりや新規採用した職員の退職により、人員の確保・定着には至らなかった。また、業務の引き継ぎの時間が取れず、一部職員に負担が偏っている。引き継ぎ時間の短縮、時間外労働の削減につなげるために、それぞれの勤務時間の業務マニュアルの作成を行っていく。また、調理現場の統率がとれる人材の育成に力を入れていきたい。

2 献立の充実

献立がパターン化していたのが課題であったが、調理ができる職員が増えたことにより以前より献立が充実したように思う。調理技術も安定してきており、個人差も少なくなっている。引き続き職員の調理技術の向上を図り、利用者様への嗜好調査の結果も踏まえた献立作りを心がけていきたい。

3 衛生管理

基本的な衛生管理が徹底できていないため、異物混入の報告が多かった。再度、職員には衛生管理マニュアルに沿って、現在の衛生状態の見直し、周知を行う。職員同士の身だしなみのチェックや盛り付け時に異物の混入がないか確認することで、利用者様に配膳される前に防ぐようにする。また、適正在庫を把握するために在庫管理表の作成や、保存方法を詳細に記載するなど誰が見ても分かるようにする。

平成 30 年度 デイサービスセンターサンライフ御立

事業報告書

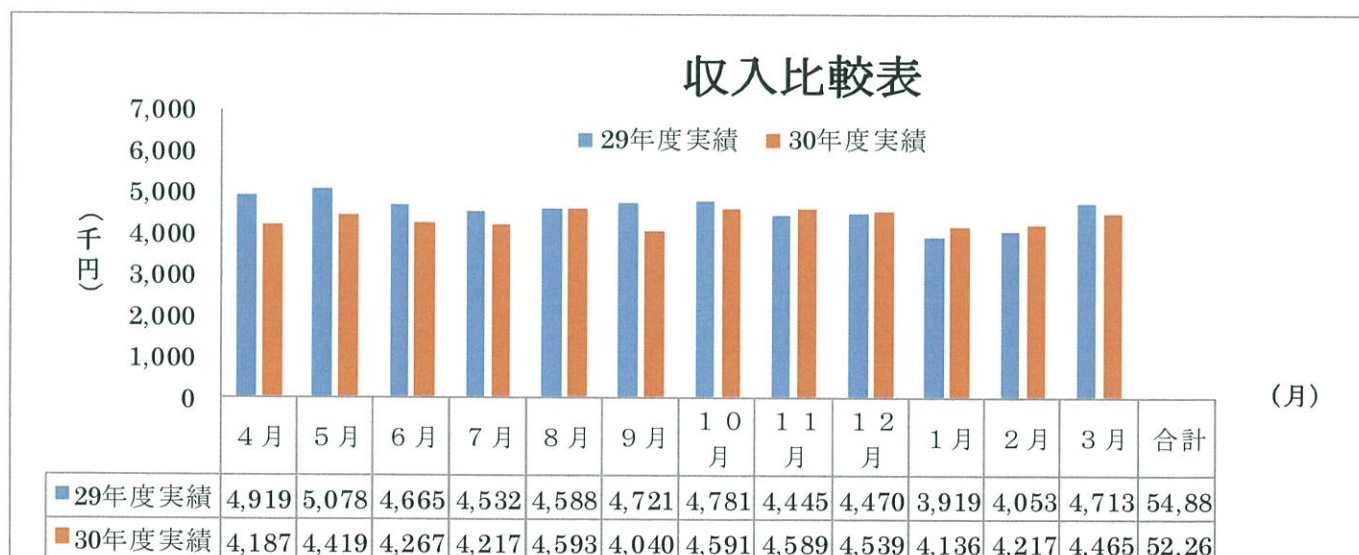
今年度は新サービスや介護保険外サービスの導入を目標としてきたが、希望者が少なく、また職員の異動などにより実施が難しい状況となった。利用者様より希望の多い外出レクリエーションの実施も職員の減少により困難な状況があったが職員の補充により外出レクリエーションも定期的に実施可能な状態になっており今後も継続していきたい。加算取得に関しては介護福祉士の割合が40%を維持できており30年度よりサービス提供体制強化加算1-Iを取得できている。

利用者獲得に関しては写真やちらしでの営業を継続して行う事ができず新規利用者獲得が難しく、また長期入院の方も増えており前年度より収入、利用者数ともに減少となった。

今後は利用者様の満足度向上を目指しサービスの質の向上を図るとともに、積極的な営業活動を行い新規利用者獲得に努めていきたい。

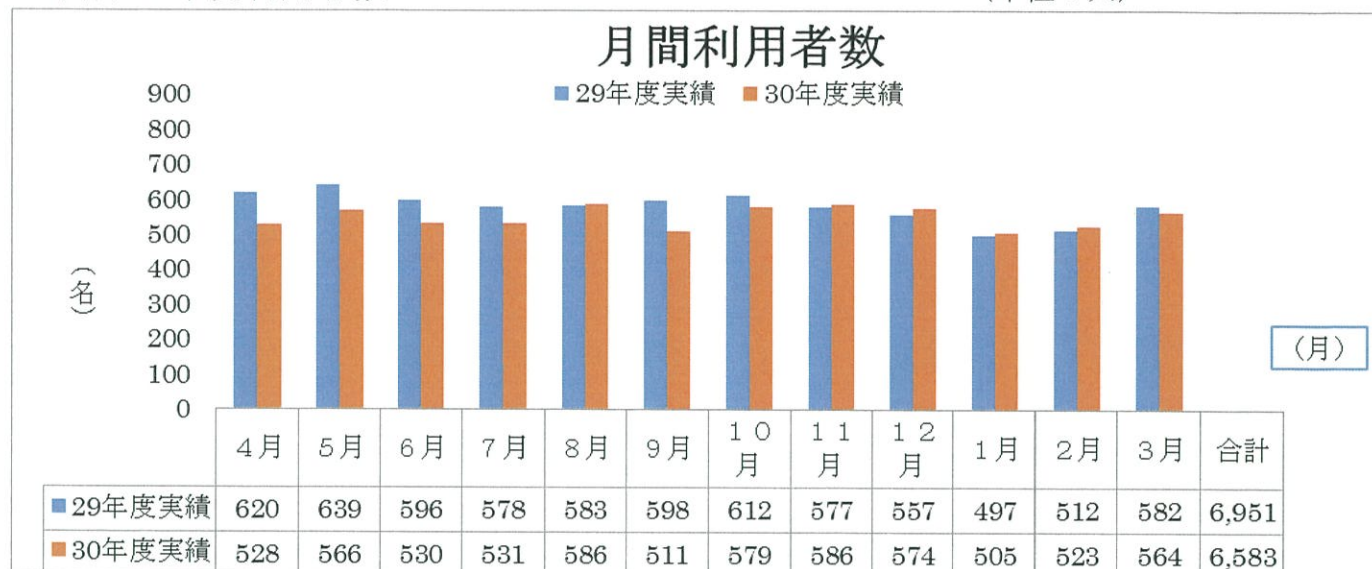
1. 平成 30 年度収入

(単位：千円)



2. 平成 30 年度利用者数

(単位：人)



3. 介護度別平均年齢及び利用者数

平成30年度介護度別平均年齢及び実利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
事業対象者	89.2 (1)	89.3 (1)	89.3 (1)	89.4 (1)	89.5 (1)	89.6 (1)	89.7 (1)	89.8 (1)	89.8 (1)	89.9 (1)	90.0 (1)	90.1 (1)	89.7 (12)
要支援 1	86.9 (3)	87.0 (3)	87.1 (3)	87.1 (3)	87.2 (3)	87.3 (3)	87.4 (3)	87.5 (3)	87.4 (2)	87.5 (2)	87.6 (2)	87.7 (2)	87.3 (32)
要支援 2	85.3 (8)	85.4 (8)	84.8 (7)	84.9 (7)	83.6 (8)	87.1 (8)	87.5 (9)	87.2 (9)	87.3 (9)	87.4 (9)	87.3 (8)	87.0 (10)	85.0 (100)
要介護 1	85.0 (17)	85.7 (20)	85.6 (21)	85.7 (21)	86.3 (21)	87.1 (20)	87.1 (18)	87.0 (19)	87.1 (20)	86.9 (19)	86.8 (17)	86.0 (18)	86.3 (231)
要介護 2	88.4 (10)	88.5 (10)	87.8 (9)	87.7 (8)	88.0 (9)	89.6 (8)	87.3 (10)	87.4 (11)	87.1 (10)	87.1 (9)	88.0 (11)	87.0 (12)	87.8 (117)
要介護 3	78.8 (5)	78.9 (5)	77.5 (4)	78.5 (5)	80.4 (6)	84.6 (9)	81.6 (9)	81.2 (8)	82.7 (10)	80.3 (7)	80.0 (8)	80.1 (5)	80.5 (81)
要介護 4	86.5 (8)	85.1 (10)	85.0 (11)	84.0 (10)	82.6 (9)	82.4 (11)	83.3 (11)	83.4 (9)	85.3 (8)	85.6 (9)	85.5 (10)	86.2 (6)	84.4 (112)
要介護 5	77.3 (2)	86.5 (1)	86.6 (1)	86.7 (1)	91.2 (1)	91.3 (2)	91.4 (2)	91.5 (2)	91.5 (2)	91.6 (2)	89.4 (3)	89.5 (3)	89.1 (23)
合計	85.2 (54)	85.6 (58)	85.3 (57)	85.1 (56)	85.3 (59)	85.5 (62)	85.6 (63)	85.7 (62)	86.1 (62)	85.9 (58)	85.8 (60)	85.9 (57)	85.6 (708)

上段の数字は平均年齢、() 内の数字は実利用者人数を示しています。

4.職員充足度

デイサービスサンライフ御立

(職員 16 名)

【内訳】正職員 2 名

非常勤看護師 3 名

非常勤介護職 11 名 (内入浴介助 3 名事務員 1 名)

							個別機能指導員（看護師）1 名含まない	
	営業 日数	利用者/ 月	職員総時間数/ 月	利用者/ 日	職員 /日	職員 一人 対	職員/日	職員一人対
4 月	25	528	1448	21.2	8.6	2.5	7.6	2.8
5 月	27	566	1490	20.9	8.9	2.3	7.9	2.6
6 月	26	530	1453.5	20.4	8.7	2.3	7.7	2.6
7 月	25	531	1396.5	21.3	8.3	2.6	7.3	2.9
8 月	27	586	1338.5	21.7	8.0	2.7	7.0	3.1
9 月	24	511	1162.5	21.3	6.9	3.1	5.9	3.6
10 月	27	579	1288	21.4	7.3	2.9	6.3	3.4
11 月	26	586	1193.5	22.5	7.0	3.2	6.0	3.8
12 月	26	574	1334	22.0	7.5	2.9	6.5	3.4
1 月	25	505	1383.5	20.2	8.2	2.5	7.2	2.8
2 月	24	523	1495	21.8	8.9	2.4	7.9	2.8
3 月	26	564	1626	21.7	9.7	2.2	8.7	2.5

平成 30 年度 サンライフ御立ケアハウス

事業報告書

入居者が、快適かつ安心して生活できる様 ADL の低下抑制を重点項目に掲げた。
各種行事への参加を促し、相談サービスの充実や各部署との連携を図った。

行事やクラブ活動等を計画し、メリハリのある楽しい日常生活が送れる様サポートした。毎日の生活にリズムができる様、体操や学習療法を取り入れ身体的機能の現状維持を図った。

又、日頃の生活状態の変化に気付き、身元保証人との連携を密にして対応した。

1. 健康面や精神面の相談サービスの充実

大半の入居者は、かかりつけの病院に定期受診をして健康管理がなされていた。月 2 回健康チェックを実施し、体調の変化に留意した。参加率を上げ、日頃から入居者の身体面や精神面の変化や悩みをくみ取り、安心した生活ができる様サポートした。

ケアハウスにおいての生活に不安を覚えるようになる前に身元保証人との話し合いを行ない、介護認定申請を行う等の支援をした。

骨粗鬆症予防や骨折予防の為、毎日の散歩を奨励した。ホール、廊下等のウォーキングの習慣化につなげられる様アドバイスをした。

ケアマネジャーとの連携を密にし、入居者の状態に合わせヘルパー、ディサービス、グループホーム、ショートステイ等との相談サービスの充実を図った。

①介護認定状況 (H30. 3. 31 現在)

単位：人

	自立	支援 1	支援 2	介護 1	介護 2, 3	合計
5 階	4	5	3	3	3	18
6 階	5	3	5	3	1	17
合計	9	8	8	6	4	35

②サービス利用状況 (H30. 3. 31 現在)

単位：人

	ヘルパー	訪問看護	ディサービス	生きがいディ	福祉用具貸与
5 階	10	3	8	0	6
6 階	10	1	6	0	5
合計	20	4	14	0	11

③入居者年齢・性別状況(H30.3.31 現在)

単位:人

	～74才	～79才	～84才	～89才	～94才	合計	平均年齢
男性	1	1	4	1	1	8	80.5才
女性	3	1	5	9	9	27	85.3才
合計	4	2	9	10	10	35	84.2才

最高年齢:94才(女性)

最低年齢:63才(男性)

2. 各種行事・クラブ活動への参加支援

現行の行事やクラブ活動を充実させ継続する様努めた。加えて、10月～「手作り教室」を月1回スタートした。毎回テーマを決めて実施(ぬり絵、はり絵、フェルト手芸等)。

年6回の誕生会、季節ごとの外食やバスハイク等の行事を行った。

学習療法は12年目になるが、内容を見直し自由にプリントを持ち帰れるようにし、入居者の意欲を高める支援をした。前年度同様の参加者があった。

フラワーアレンジメント教室は、生花に触れることの癒し効果を期待できるので継続実施した。

買物サービスを月2回実施。快適な生活が送れる様に支援ができた。

うたの会は、1月より新しい先生を迎え継続実施した。

3. 相談サービスの充実

様々な悩みや不安を、少しでもやわらげ安心感をもって生活できるように相談業務を充実させた。入居者の年齢の幅が大きくなり、それ故のトラブルも発生している。

ケアハウス職員会議を開き、意識統一を図り、職員間の対応の差をなくした。

ケアマネジャーとの連携を密にし、入居者の状態に合わせヘルパー、ディサービス、グループホーム、ショートステイ等との相談サービスの充実を図った。

4. 空室ゼロの対策

情報誌「リビング姫路」に年間4回入居者募集を掲載した。地域包括、居宅事業所、病院の地域連携室(計188件)にメール便にて空室状況を送付した。その為、入居に関しての問合せ及び見学は順調だったが、入居に至らないケースも多かった。

如何に退去からその後の入居を短期間でやり遂げるかがポイントだったが、やはり退去者の荷物の搬出、リフォームに時間を要した。

平成30年度 実績収入

単位:千円

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
平成29年度実績	4,417	4,261	4,498	4,263	4,394	4,177	26,010
平成30年度実績	4,615	4,384	4,581	4,450	4,757	4,580	27,367
差額	198	123	83	187	363	403	1,357

	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 29 年度実績	4,455	4,498	4,857	4,544	4,584	5,484	54,432
平成 30 年度実績	4,797	4,643	4,905	4,500	4,423	4,798	55,433
差額	342	145	48	-44	-161	-686	1,001

平成 27 年度実績収入及び平成 28 年度目標収入

単位：千円

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
平成 27 年度	4,225	3,862	3,968	3,865	4,024	3,878	23,822
平成 28 年度	4,226	3,974	4,192	3,947	4,232	4,084	24,655

	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 27 年度	4,030	3,897	4,185	3,523	4,543	4,343	48,343
平成 28 年度	4,234	4,013	4,277	4,057	4,239	4,091	49,566

平成 30 年度 ユニット型老人ホームサンライフひろみね

事業報告書

平成 30 年度ささゆり会経営スローガンである「活力ある職場を提供し、生産性を上げる！」を元に活力ある職場作りへ取り組んだ。派遣社員ではなく直接雇用の職員を充足させ人員不足を解消に取り組んだ。個別機能訓練の質を向上する為、外部の理学療法士と連携し生活機能向上に取り組んだ。栄養マネジメントを継続することで適切な栄養環境が得られるように支援した。また、嘱託医が医療法人社団綱島会から医療法人社団奉志会へ変更したが、特に大きな問題は生じず入院者も無く看取り介護も今までと同様に実施できた。

I. 科学的介護の実践について

- (1)施設全体で日中おむつ外しに取り組むことで、日中おむつ率 0%を目指したが、年間で 4%となった。一時的におむつを着用することになったとしてもトイレでの排泄が再度適うように努力する。
- (2)統計を出し視覚化することによって介護の質の向上を目指す。
- (3)出ている症状の原因を検証し対策を施すことでより効果的なケアを実践する。

II. 職員教育・組織体制作りにについて

- (1)個々の役割を明確化することで組織としての運営を効率よく行う。
- (2)情報共有の効率化として介護支援ソフトの活用を行う。
- (3)人員募集を行うことで人員確保に努め、過不足のない人員体制を構築し職員・利用者に負担が生じないように努めたい。
- (4)新入職員へのマンツーマン指導を行うことで、基本的な介護技術や理念の習得を図ると共に、不安や疑問をすぐに相談できるよう配慮し、安心して意欲的に働ける職場環境作りを目指す。
- (5)職員個人の特性や意欲的な思いが活かせるよう、また、各ユニットのチーム力を強化する為、ユニットリーダーを中心に月 1 回のユニット会議に加え緊急時のユニット会議を設ける。また、他ユニットとの情報の共有や協力体制を継続するため、リーダー会議を継続していく。
- (6)ユニットリーダー研修に参加することで現在のユニットリーダーの知識・技術を向上し当施設のサービス向上に努めたい。

- (7)受験資格要件が緩和した介護福祉士については、実務者研修費用の半額負担を行ったり介護支援専門員受験資格取得者に対しては、サンライフ御立での勉強会への参加を勧め、資格取得をサポートする。
- (8)平均要介護度が 4.48 と重度者が多い為、重介護に対する介護職員の腰痛を予防するためスライディングボードの定着や青山流等の介護者の負担を軽減できる介助方法の研修や体操、腰痛ベルトの貸与、介護ロボットの導入を検討する。
- (9) ヒヤリ・ハットの収集方法を検討し提出する習慣をつけて原因を追究し対策をとることで事故予防や再発予防に努める。
- (10)虐待は介護者と認知症高齢者の間に上下関係ができてしまうことで生じる可能性がある。ニックネームの使用禁止や言葉遣いについての指導、認知症についての研修を行うことで認知症高齢者の理解を図り、職員・利用者間において上下関係の構築を予防し虐待の発生を防ぎたい。
- (11)新しい嘱託医との連携体制を構築し終末期の医療やターミナルケアを安心して受けられるように努めたい。 また、看取りについての研修に参加しスキル向上を目指す。デスカンファレンスを行い、職員の負担軽減やターミナルケアの質の向上に努めたい。
- (12)記録の再確認を行い、記入漏れや間違いがないかを確認する。
- (13)人員を確保して外部研修への参加回数を増加する。
- (14)防犯訓練を行うことで利用者や職員の安全が守られる体制を継続したい。

IV. 地域貢献について

- (1)2 か月に 1 回、運営推進会議を開くことで施設の情報提供し地域の方や民生委員、家族、利用者、地域包括支援センターとの関係を築く。
- (2)地域の方と交流をもつため地域行事へ参加する。
- (3)広報誌を自治会の回覧に入れてもらうことで情報の公開を図る。
- (4)地域の防災訓練に参加することで災害時の連携体制を整える。
- (5)姫路市医師会看護専門学校の実習を受け入れることで地域医療の発展に貢献する。

V. 介護統計について

平成 30 年度介護状況目標

項目		平成 30 年 3 月末状況	平成 31 年 3 月末目標
日中オムツ使用率		0 名 (0%)	0 名
入浴統計	特浴	0 名 (0%)	0 名 (0%)
	リフト付個浴	29 名 (100%)	29 名 (100%)
	個浴	0 名	0 名 (0%)
食事形態	普通食	17 名 (59%)	22 名 (76%)
	刻み食	0 名	0 名
	極刻み食	11 名 (38%)	7 名 (24%)
	ミキサー食	1 名 (3%)	0 名
	経管栄養	0 名	0 名
褥瘡者		0 名 (0%)	0 名
身体拘束		0 名	0 名
看取り介護実施 ※		3 名 (75%)	(100%)

※看取り介護実施率=看取り介護実施者／全退所者（急死を除く）

VI. 事業運営について

平成 30 年 4 月から介護報酬の改定がある為変更手続きを適正に行えるように努めたい。開設から 10 年が経ち、車椅子を御利用の方が増え建物や物品の劣化が進んでいる。その為、畳部屋のフローリング化、電化製品の買い替えを行う必要がある。嘱託医の変更に伴い医療連携体制を再構築し、入居者様に適切な医療が提供できるように努めて行きたい。

平成30年度 デイサービスサンライフ田寺

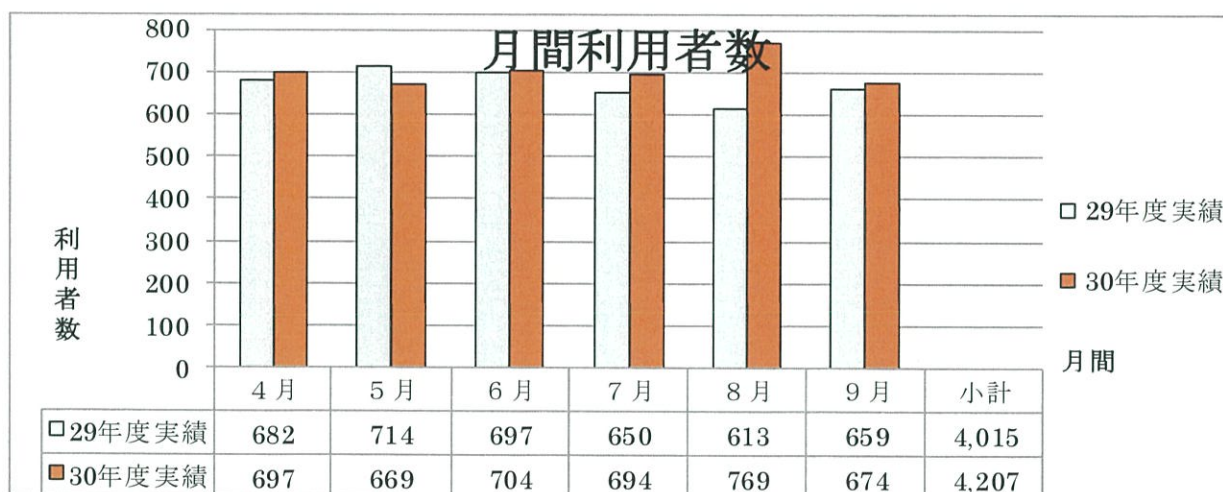
事業報告書

平成30年度は、職員在籍の安定と利用人数の増加に努めた。前年度、職員の入れ替えが激しく職員教育に時間を要したことから、7月からのQC活動では職員の満足度の向上のテーマで取り組んだ。

ワクワク系実践講座で絆を深めることを勉強し、毎月のお知らせ用紙に職員の情報やクイズを載せることで、コミュニケーションツールの一つとなった。また、壁に外出先の写真を掲載することで、思い出話を利用者様同士でできる環境にした。

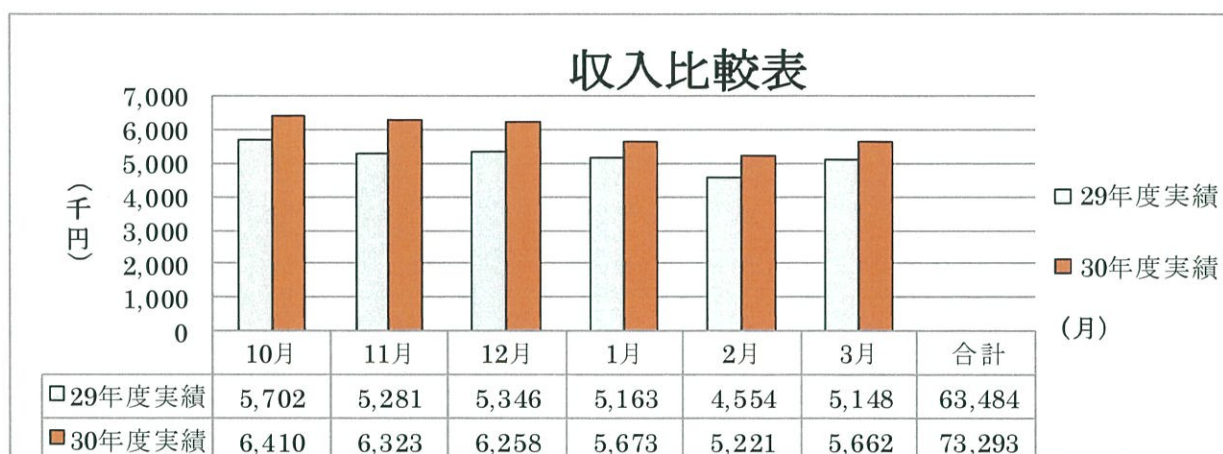
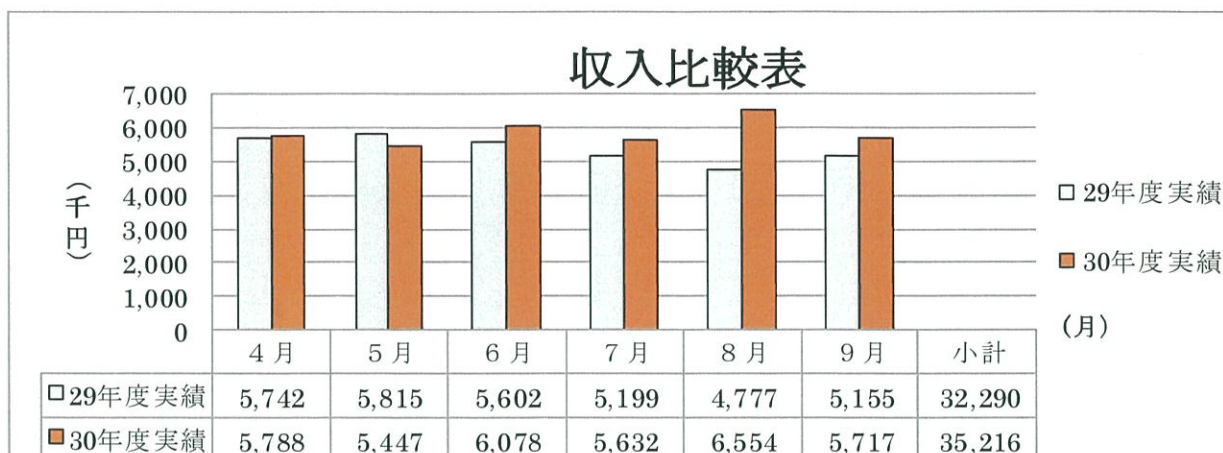
収支に関しては、月の利用者様平均が前年度の25.5名～今年度27名と増加することができ収入増となった。しかし、紹介などの人件費や車輛修理などの支出も大幅に増加している。現状より多くの利用人数獲得を図りつつ職員の質の向上を目指して、さらなるサービス向上を図っていきたい。

1. 利用者数



2. 収入

(単位：千円)



3. 介護度別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
要支援1	37 (8)	30 (8)	32 (9)	38 (8)	29 (7)	27 (7)	193 (47)
要支援2	75 (11)	81 (10)	96 (12)	104 (14)	85 (11)	74 (11)	515 (69)
要介護1	206 (31)	193 (31)	219 (30)	212 (31)	257 (34)	234 (32)	1321 (189)
要介護2	189 (19)	163 (16)	155 (16)	161 (17)	159 (16)	134 (16)	961 (100)
要介護3	95 (10)	92 (11)	100 (10)	76 (9)	92 (8)	62 (6)	517 (54)
要介護4	67 (6)	67 (6)	67 (6)	65 (6)	96 (9)	81 (10)	443 (43)
要介護5	8 (2)	27 (3)	17 (3)	22 (2)	30 (3)	37 (4)	141 (17)
合計	677 (87)	653 (85)	686 (86)	678 (87)	748 (88)	649 (86)	

	1 0 月	1 1 月	1 2 月	1 月	2 月	3 月	合 計
要支援1	32(8)	30(7)	29(7)	28(7)	26(9)	37(9)	182(43)
要支援2	70(9)	70(9)	69(11)	57(8)	59(8)	70(9)	395(54)
要介護1	252(31)	263(31)	262(31)	241(31)	213(28)	259(28)	1490(180)
要介護2	147(16)	149(17)	136(15)	130(15)	121(16)	162(17)	845(96)
要介護3	88(7)	85(6)	83(6)	64(6)	57(7)	43(5)	420(37)
要介護4	86(9)	99(11)	82(9)	88(9)	93(10)	84(9)	532(57)
要介護5	40(5)	38(3)	35(5)	25(4)	21(3)	19(3)	178(23)
合計	715(85)	734(84)	696(84)	633(80)	590(81)	674(80)	

4.職員充足度（H31年3月現在）

職員 22 名（正職員 4 名 非常勤看護師 4 名 非常勤介護職員 14 名）

個別機能指導員（看護師）1 名含まない

	営業 日数	利用者/ 月	職員総時間数/ 月	利用者/ 日	職員 /日	職員 一人 対	職員/日	職員一人対
4 月	26	697	1825	26.81	10.9	2.5	9.9	2.7
5 月	26	669	1755	25.73	10.4	2.5	9.4	2.7
6 月	26	704	1774	27.08	10.6	2.6	9.6	2.8
7 月	26	694	1658	26.69	9.9	2.7	8.9	3.0
8 月	26	769	1620	29.58	9.6	3.1	8.6	3.4
9 月	24	674	1635	28.08	9.7	2.9	8.7	3.2
10 月	26	746	1766	28.69	10.5	2.7	9.5	3.0
11 月	26	746	1833	28.69	10.9	2.6	9.9	2.9
12 月	27	720	1939	26.67	11.5	2.3	10.5	2.5
1 月	25	652	1751	26.08	10.4	2.5	9.4	2.8
2 月	23	609	1881	26.48	11.2	2.4	10.2	2.6
3 月	27	674	2121	24.96	12.6	2.0	11.6	2.2

	1 0 月	1 1 月	1 2 月	1 月	2 月	3 月	合 計
要支援1	32(8)	30(7)	29(7)	28(7)	26(9)	37(9)	182(43)
要支援2	70(9)	70(9)	69(11)	57(8)	59(8)	70(9)	395(54)
要介護1	252(31)	263(31)	262(31)	241(31)	213(28)	259(28)	1490(180)
要介護2	147(16)	149(17)	136(15)	130(15)	121(16)	162(17)	845(96)
要介護3	88(7)	85(6)	83(6)	64(6)	57(7)	43(5)	420(37)
要介護4	86(9)	99(11)	82(9)	88(9)	93(10)	84(9)	532(57)
要介護5	40(5)	38(3)	35(5)	25(4)	21(3)	19(3)	178(23)
合計	715(85)	734(84)	696(84)	633(80)	590(81)	674(80)	

4.職員充足度（H31年3月現在）

職員 22 名（正職員 4 名 非常勤看護師 4 名 非常勤介護職員 14 名）

個別機能指導員（看護師）1 名含まない

	営業 日数	利用者/ 月	職員総時間数/ 月	利用者/ 日	職員 /日	職員 一人 対	職員/日	職員一人対
4 月	26	697	1825	26.81	10.9	2.5	9.9	2.7
5 月	26	669	1755	25.73	10.4	2.5	9.4	2.7
6 月	26	704	1774	27.08	10.6	2.6	9.6	2.8
7 月	26	694	1658	26.69	9.9	2.7	8.9	3.0
8 月	26	769	1620	29.58	9.6	3.1	8.6	3.4
9 月	24	674	1635	28.08	9.7	2.9	8.7	3.2
10 月	26	746	1766	28.69	10.5	2.7	9.5	3.0
11 月	26	746	1833	28.69	10.9	2.6	9.9	2.9
12 月	27	720	1939	26.67	11.5	2.3	10.5	2.5
1 月	25	652	1751	26.08	10.4	2.5	9.4	2.8
2 月	23	609	1881	26.48	11.2	2.4	10.2	2.6
3 月	27	674	2121	24.96	12.6	2.0	11.6	2.2

平成 30 年度 ヘルパーステーションサンライフ御立

事業報告書

今年度は、算定要件を 1 つ 1 つクリアしてゆき、「特定事業所加算Ⅱ」の算定が開始となった。質の高い介護を提供出来ている事業所として加算を頂くにあたり、今迄行ってきた内部研修に加えグループ分けをしての苦手分野克服に向けてのグループ研修と、学びの場（研修）の更なる充実化を図った。今後も事業所全体での介護力の底上げに力を注ぎ、引き続き継続中である。

職員個人の責任感の植え付けに関しては、個々に明確な担当を明示し、誰かがしてくれるであろう！といった、思考を極力排除するように努めた。

慣れない業務も、締め切り日を明確化しそれまでは黙って見守る姿勢に徹した。引き続き、継続していく。

昨年度同様、十分な人員を確保出来ているとは、言い切れないが、時間保障型ヘルパー（30 年 5 月まで登録→6 月より非常勤・9 時～18 時）へのシフトや、常勤職員 1 名の休日を土曜日→水曜日に変更し、平日のサービス従事時間帯が増えた事で、新規受け入れにも柔軟に対応出来たと感じる。31 年 3 月からは、3 名の登録ヘルパーの採用に伴い、更なる受け入れ時間枠も増えると思われ。

今後も、現状に満足せず、「利用し続けたい」と、皆様に思ってもらえる事業所運営を日々心掛ける様、努めていきたい。

1. 平成 30 年度 内部研修内容

4 月	接遇（コミュニケーション力を高める）訪問時の心得
5 月	プライバシー保護・個人情報保護の注意点
6 月	個人面談・人事考課表
7 月	「食中毒・感染症」「高齢者の体温と熱」
8 月	利用者の緊急時対応
9 月	利用者様家族からの実際にあった苦情について→対応
10 月	ヘルパーに求められる衣料の知識
11 月	サービス中の困難事例時の対処法
12 月	感染症テスト
31 年 1 月	個人面談・健康診断結果の医師の所見説明
2 月	緊急時の対応・服薬の知識
3 月	コミュニケーション技術を磨く

2. 平成 30 年度の収入

(単位： 千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
平成 29 年度実績	2853	2990	2738	3118	3308	3197	18204
平成 30 年度予想	3100	3150	3100	3150	3300	3200	19000
平成 30 年度実績	3305	3272	3215	3421	3513	3325	20051
自費介護サービス	0	6	8	14	6	46	80
前年度との差異	452	282	477	303	205	128	1847
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 29 年度実績	3401	3499	3303	2940	3155	3489	37991
平成 30 年度予想	3300	3350	3300	3100	3100	3100	38250
平成 30 年度実績	3429	3358	3485	3111	3210	3349	39993
自費介護サービス	20	30	16	8	26	8	108
前年度との差異	28	-141	182	171	55	-140	2002

・自費介護サービスは、実績に含む。

収入面では、他職種との信頼構築の為に、時間の許す限り事業所への訪問は惜しまない。月一回の報告書の提出の際の訪問や毎月発行の「ヘルパーステーション通信」を利用しながら、事業所の内部発信・新規受け入れ可能時間帯・当月のホットニュース等記載し、居宅介護支援事業所との連携を密にとることで、新規の獲得も前年度に比べ増・利用者数も増・訪問回数も増、よって、収入も 200 万円増になった。

そして、今後の新たな収入源ともなりうる、自費介護サービスを 29 年 11 月～開始した事により、少しずつではあるが、利用者増に繋げていく努力を惜しまず、継続していきたい。

今年度も引き続きヘルパーの人員確保（労働力の確保）及び、信頼して貰える事業所への取り組みに更に力を注ぎ、常に新しい事へ眼を向け、収入確保に繋げていきたい。

3. 新規利用契約数

(単位：人)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
平成 29 年度実績	4	5	5	8	5	4	
平成 30 年度実績	1	2	3	6	8	5	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 29 年度実績	6	2	2	7	4	2	54
平成 30 年度実績	4	6	7	6	8	4	59

平成 30 年度 サンライフ御立居宅介護支援事業所

事業報告書

平成 30 年度の年間目標は、新規獲得に努め、収入増を目指す。また、介護報酬改定に伴い地域包括ケアを目指し医療との連携を促進し在宅で利用者様の満足して頂けるサービス利用が提供できるよう目指すであった。

収入については、増加している。利用者様に満足して頂けるサービス利用であったかについては、アンケート結果でみると、まだまだではある。

1. 担当利用者の確保

4 名体勢となり安定した事業所運営と稼働効率の向上のために各介護支援専門員の担当件数についての把握を定期的に行い、職員間で報告・連絡・相談を密に行うことで新規相談者への対応を迅速に行えるよう努めた。また、地域包括支援センター、他職種、他事業所に訪問し営業活動を強化することで新規利用者獲得に努めた。新規利用者は、1 年間で要介護者 77 名、要支援者 28 名を獲得できた。

2. 利用者人数の推移

(人)

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
要支援	H29	34	19	23	22	21	21	23	24	25	23	23	24	282
1.2	H30	24	30	32	30	31	31	29	27	28	29	31	36	358
	差	-10	+11	+9	+8	+10	+10	+6	+3	+3	+6	+8	+12	+76

(人)

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
要介護	H29	129	74	73	73	76	78	78	80	84	86	91	101	1,023
1~5	H30	105	102	104	110	109	113	115	112	116	119	115	110	1,330
	差	-24	+28	+31	+37	+33	+35	+37	+32	+32	+33	+24	+9	+307

3. 収入の確保

ケアマネ人数が、平成 29 年 5 月に 6 名から 3 名に変更になり、さらに 12 月から 3 名から 4 名に変更になった為、平成 29 年度と平成 30 年度の比較は単純にはできないが、大きく増加している。担当人数がほぼ定員いっぱいとなっているため、今後の大幅な増加は見込めない。また、退職希望の職員の代わりの人材を求めているが、求人や内部からの補充も見込めていない。継続して求人を行っていく。

4. 総収入の推移

(千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
29 年度実績	1,685	1,008	1,029	935	1,020	1,063	
30 年度実績	1,445	1,418	1,466	1,565	1,516	1,579	
前年との差	-240	+410	+437	+630	+496	+516	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
29 年度実績	1,107	1,040	1,162	1,202	1,222	1,200	13,673
30 年度実績	1,550	1,561	1,561	1,640	1,614	1,551	18,466
前年との差	+443	+521	+399	+438	+392	+351	+4,493

5. 実地指導

平成 30 年 9 月 11 日に姫路市監査指導課と介護保険課による実地指導があった。人員に関する書類、運営に関する書類、介護報酬に関する書類、業務管理体制に関する書類の確認があった。概ね良好であったが、運営規程の修正の指摘があり速やかに対応した。書類の不備があれば、利用者様や事業所に迷惑をかけることになるため、改めて書類の確認が大切であることを実感した。また、日常業務に追われ整理できていない書類の確認に時間がかかった為、普段から整理整頓しなくてはならないと痛感した。

次回は 6 年後の実施となるため、普段から書類に不備がないかどうか、管理者の確認する書類の中に必要書類を入れ定期的にチェックを行う。

6. 定期的なアンケートの実施

年間に 2 回のアンケートを実施した。集計は本部で行われたため、細かい指摘事項については把握できていないが、「事業所を友人や知り合いに紹介したいと思いますか」との問いによい評価、悪い評価をいただいた。無記名であり回収率もよくなかったため、この評価を全体の評価とすることはできないが、今後はよい評価を頂けるように支援していきたい。

利用者様や家族様から、頼りにしてもらえるように、不安や不満についてすぐ対応するように心がける。また、一人で解決できない事に対しては事業所内での話し合いや、本部に相談することで対応し、一人ひとりが業務で疲弊しないようにする。

7. 資格取得、研修について

平成 30 年介護報酬改定の中で、2021 年度から主任ケアマネジャーであることを管理者の要件とするとなったが、現在主任ケアマネジャーを取得している職員がいない為、順次主任ケアマネジャーを取得する必要がある。ケアマネ研修や主任ケアマネ研修に参加することで業務に支障が出ないよう、普段から他職員の利用者様についても把握し、誰でも対応ができるようにする必要がある。

平成30年度 デイサービスサンライフ安室

事業報告書

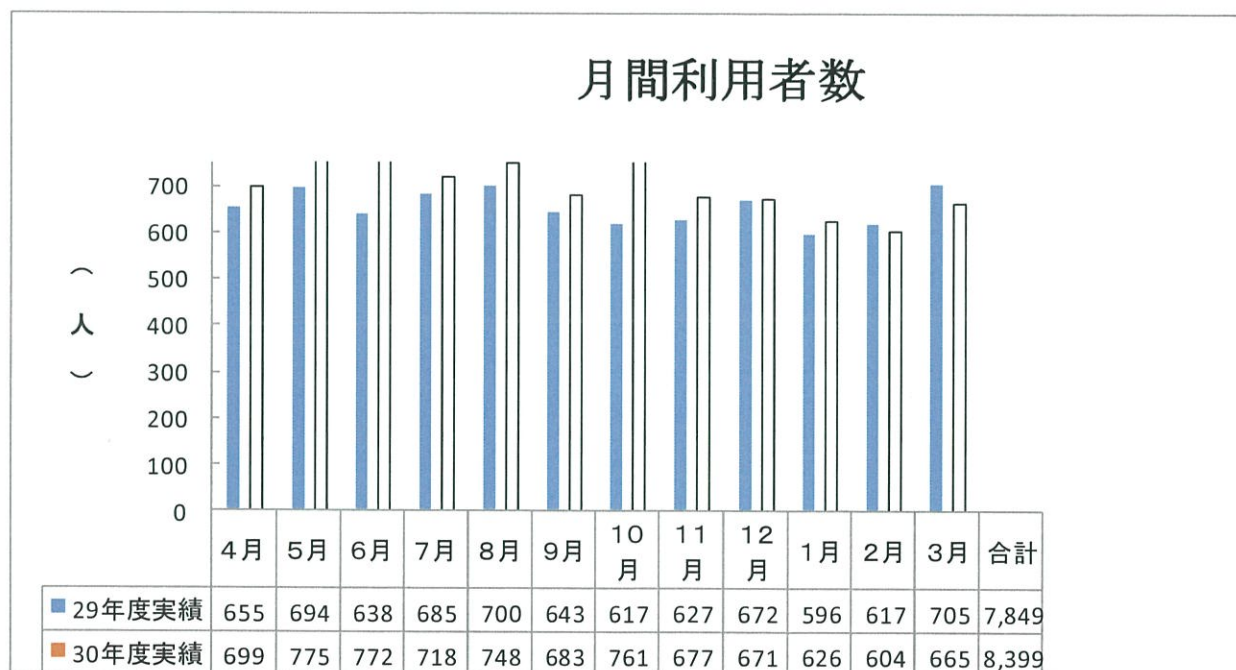
今年度は、利用者様のアンケートの結果を踏まえ、毎月2回の外出を目標に行ってきた。昨年より取り入れている喫茶外出も組み合わせながら、近場の外出と遠出の外出にすることで、要介護度の高い利用者様が参加できるよう配慮するのと共に、外出にかかる時間を短くすることで職員の負担軽減にも繋げた。また、少人数にグループ分けし、書道、水彩画、カラオケ、手芸、工作、ゲーム等、複数に分かれ取り組むグループレクリエーションを毎月取り入れた。集団で行うゲームと異なり、ご自分の好きな事ができ、今まで行ったことのない物にご自分のペースで取り組み、新たな趣味活動を発見でき、利用者様には好評を得ている。今後も継続していきたい。

利用人数については、理学療法士が勤務しているということで、医療機関を退院された方の利用が増え、前年度より利用者数は増加したが、年度後半に利用者様の体調不良による入院や入所等で利用人数が減少し、新規利用者も思うように獲得できなかったことから大幅な収入増に繋げることができなかった。

今後もサービスの質の向上を図り、営業活動を行いながら新規利用者の獲得に努めていきたい。

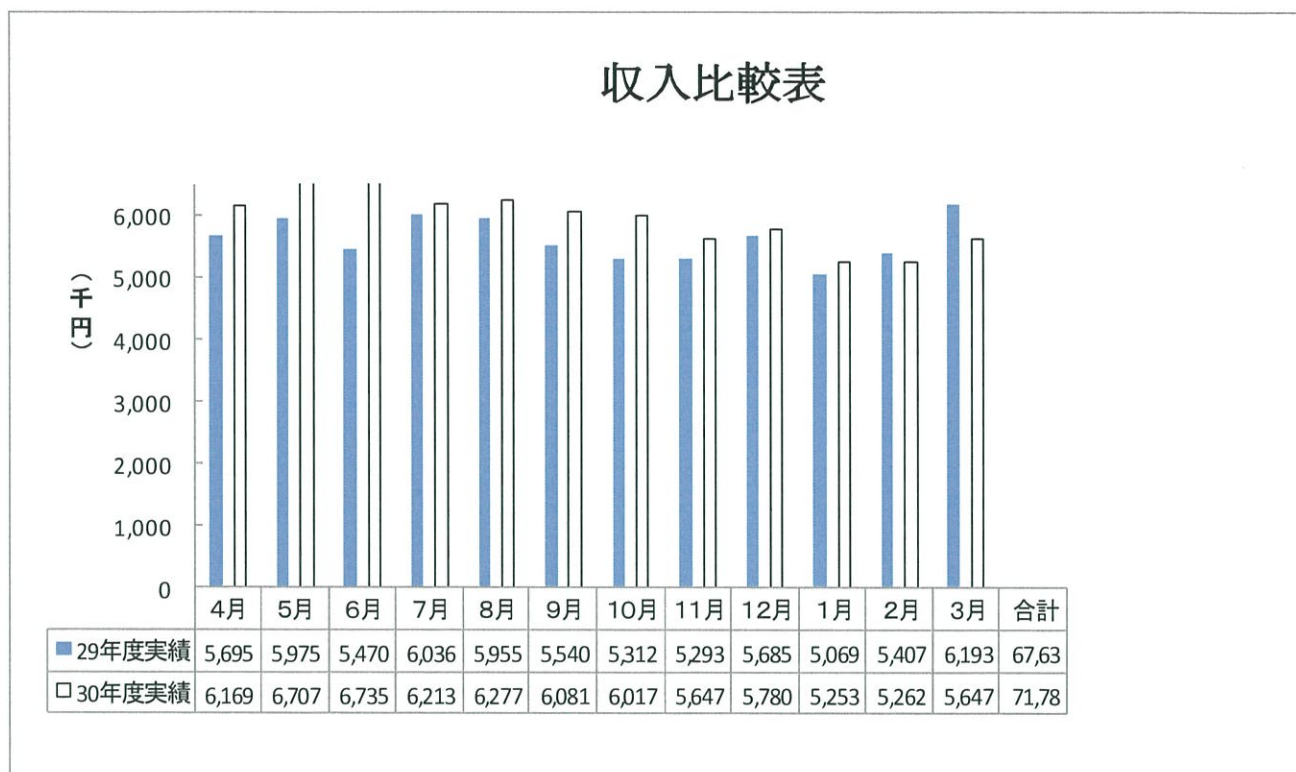
1. 利用数

(単位：人)



2. 上半期収入

(単位：千円)



3. 介護度別平均年齢及び利用者数

平成30年度介護度別平均年齢及び利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
要支援 1	86.27 (9)	86.35 (9)	83.33 (10)	83.26 (10)	84.40 (11)	84.30 (11)	84.38 (11)	83.38 (11)	84.00 (9)	82.79 (8)	84.24 (7)	84.34 (7)	84.24 (113)
要支援 2	85.86 (13)	85.94 (13)	85.79 (14)	85.87 (14)	85.38 (12)	85.46 (12)	84.66 (12)	85.99 (15)	86.08 (15)	85.36 (15)	83.70 (16)	84.43 (16)	86.05 (167)
要介護 1	83.72 (23)	83.84 (25)	83.80 (24)	83.16 (22)	82.62 (23)	82.08 (24)	81.83 (23)	82.35 (25)	81.97 (24)	81.97 (23)	82.57 (24)	82.51 (25)	82.70 (285)
要介護 2	88.85 (13)	88.61 (14)	88.78 (13)	88.89 (13)	89.52 (13)	90.29 (13)	89.98 (14)	91.17 (11)	89.74 (13)	88.98 (11)	89.06 (11)	89.15 (11)	89.41 (150)
要介護 3	83.83 (11)	84.11 (10)	84.19 (10)	84.79 (11)	85.20 (10)	85.15 (8)	85.23 (8)	82.59 (8)	82.44 (7)	81.48 (8)	82.17 (9)	81.57 (9)	83.68 (109)
要介護 4	76.93 (8)	77.89 (8)	77.97 (8)	78.05 (8)	78.51 (8)	79.18 (7)	79.26 (7)	80.75 (6)	81.70 (5)	81.97 (3)	83.77 (4)	87.08 (4)	79.55 (76)
要介護 5	90.08 (1)	90.50 (2)	90.58 (2)	91.00 (1)		74.50 (1)	74.58 (1)	74.67 (1)	74.75 (1)	74.83 (1)	74.92 (1)	76.38 (2)	81.73 (14)
合計	84.58 (79)	84.81 (83)	84.45 (83)	84.38 (80)	84.35 (78)	84.27 (77)	84.15 (77)	84.27 (77)	84.33 (74)	83.76 (69)	83.89 (72)	84.05 (74)	84.29 (923)

上段の数字は平均年齢、()内の数字は実利用者人数を示しています

平成30年度 姫路市安室地域包括支援センター

事業報告書

平成30年度は、相談件数が増加に伴い委託件数も増加してきた。要因は、高齢者が来年度（H31年度）には、6000人を超えてくると地域の特徴でもある高齢者世帯の増加などが考えられる。実際、高齢者世帯の相談件数が増え同時にサービスも発生するケースも増えてきている。人員に関しては、主任ケアマネ・社会福祉士の交代があったが、業務に支障なく運営できた。

I. 運営に係る業務

人員配置においては、H31年度は高齢者が6000人を超えてくるので、人員増員が必要になってくる。

事業所内の連携については、今年度も毎日朝礼でミーティングを実施し、伝達事項や研修報告、新たな相談者・継続相談者等の報告を行うことで、事業所内での情報共有を確実に行之、誰もが対応できている。また、月1回職員会議も確実に出来ており、勉強の場・相談の場、その時でテーマは違うが知識やスキルアップに繋がっている。時間がある時は、アクシデント・インシデントの改善策の検討や終結の確認なども行った。

II. 権利擁護・総合相談・支援業務

今年度も、センター便りを3ヶ月に1回、地域役員向け活動報告書を2ヶ月に1回発行し、地域包括支援センターの啓発、地域の実情把握を行うとともに、地域との連携強化に取り組んだ。

虐待対応については、今年度も継続支援の分も含め5件あり、迅速な対応をとり、姫路市とコア会議を開催する等市との連携もと、対応できた。今年度は特に使徒の協働が多かった。

認知症に対する地域支援としては、引き続き、認知症高齢者等の見守り・SOSネットワーク事業についての啓発活動を行った。安室中学校校区では現在9名の登録となっており、登録時には状況把握をし、職員への周知も行った。

認知症サロンについては、既存の1グループの開催支援を継続して行っているが、新規の立上げには至らなかった。今年度、認知症サロンの在り方の議論があり、来年度は現状の把握や今後の開催域など変革がありそうだ。認知症サロンではないが、既存で活動されているサロン等が多数あるので、社会資源として今後も後方支援を行っていきたい。

III. 介護予防ケアマネジメント事業

介護予防については、毎月介護予防とコグニサイズを作成し、いきいき百歳体操の状況把握時に配布、短時間でポイントを説明し、啓発活動を行った。

また、いきいき百歳体操については、全自治会での開催が完了したので、今後はグループ後方支援に伴い、参加者増加に協力していきたい。

IV. 年間収入について（総収入）

（千円）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
H29 年度実績	2,652	2,609	2,613	2,654	2,603	2,609	15,740
H30 年度目標	2,626	2,615	2,626	2,631	2,624	2,613	15,735
H30 年度実績	2,611	2,605	2,652	2,633	2,625	2,631	15,757
前年度差異	-15	-10	26	2	1	18	22
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H29 年度実績	2,623	2,606	2,634	2,620	2,619	2,607	31,449
H30 年度目標	2,628	2,619	2,626	2,633	2,634	2,641	31,516
H30 年度実績	2,650	2,631	2,678	2,687	2,685	2,689	31,777
前年度差異	22	12	52	54	51	48	261

プラン作成件数（自前プラン）

（件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
H29 年度実績	186	183	185	189	183	181	1,107
H30 年度目標	186	185	186	187	185	183	1,112
H30 年度実績	176	177	184	182	180	179	1,078
前年度差異	-10	-8	-2	-5	-5	-4	-34
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H29 年度実績	185	181	187	186	183	180	2,209
H30 年度目標	186	185	186	187	185	183	2,224
H30 年度実績	186	182	189	193	190	190	2,208
前年度差異	0	-3	3	6	5	7	-16

総合相談支援事業の相談者(重複あり)

	家族 本人	行政機関		包括 センター	ケアマネ ジャー	介護保険サ ービス事業者	医療 機関	その他 関係機関等	民生 委員	地域 団体等
		市役所	警察等							
4月	134	5	3	2	11	3	4	0	16	6
5月	105	2	1	0	3	0	6	0	5	1
6月	176	0	0	1	0	1	2	1	2	1
7月	145	1	0	0	0	0	2	0	7	0
8月	154	0	0	0	5	0	6	0	5	5
9月	102	1	0	0	0	2	3	0	3	1
10月	102	0	1	2	5	0	3	0	0	2
11月	80	1	0	0	2	2	10	0	0	5
12月	108	2	1	1	4	1	9	0	1	7
1月	106	1	3	0	0	0	0	0	3	11
2月	102	1	1	1	0	1	1	2	1	3
3月	83	2	0	0	2	0	19	4	3	11
合計	1397	16	10	7	32	10	65	7	46	53

	(3)相談内容（重複計上可）				介護保険制度 全般	総合事業に 関すること	フォーマルサービス		イン フォーマル サービス	権利擁護関係			その他	ケア マネジャー 支援
	一般相談						保健福祉関係	その他		虐待	消費者被 害	成年 後見等		
	介護 予防	介護 相談	医療 健康 相談	生活 相談										
4月	6	40	59	113	117	0	10	0	10	10	0	3	2	3
5月	5	30	16	89	86	0	5	0	8	4	2	2	4	0
6月	0	32	79	114	105	0	0	0	1	6	0	4	1	0
7月	3	25	73	98	98	0	0	0	3	0	0	4	0	0
8月	1	20	75	157	119	0	10	0	7	1	0	5	3	0
9月	0	14	51	96	91	0	3	0	11	8	0	1	0	0
10月	2	14	51	93	64	0	1	0	2	0	0	8	0	1
11月	3	11	21	84	66	0	10	0	0	0	0	9	9	0
12月	0	37	34	122	73	0	2	0	7	0	3	1	0	0
1月	4	26	58	97	76	0	1	1	3	0	0	0	0	0
2月	1	35	60	98	74	0	0	0	4	0	0	0	0	0
3月	6	10	18	40	63	0	9	0	4	2	2	1	6	0
合計	31	294	595	1201	1032	0	51	1	60	31	7	38	25	4

平成 30 年度 特別養護老人ホームサンライフ土山

事業報告書

平成 30 年度の QC サークル活動では事故の減少及びリスク防止の取り組みをテーマとしてすめた。A ランクの事故（入院加療を要する事故）前年度、6 件だったのに対し 5 件となり、B ランクの事故（受診・通院を要する事故）が 5 件だったものが 2 件と減少が図れた。また、介護技術に関しては、毎月の内部研修として計画通り介護技術講習会を実施し、技術の習得・向上が図れた。

今年度の利用者実績は 24,906 人であったが、生活機能向上連携加算Ⅱの算定と要介護度等の変化により収入は、約 562 万円増加した。しかし、支出もフロアカメラと屋外カメラの設置により 5,275,990 円、介護ソフト「寿」のサーバー入れ替えにより 1,150,985 円の出費があり、収支差額は前年度より 2,491,898 円減少となった。

今年度は特養にて労災事故が 2 件発生した。1 件は、車椅子移乗後、利用者様の座面を補正するために後ろに回った時に、車椅子のフットレストに足を引っ掛け、そのまま転倒し、頸椎・腰椎捻挫。もう 1 件は、入浴介助時、利用者様の車椅子フットレストに足を引っ掛け、浴室入り口柱に左頭部をぶつけ、左頭部裂傷の事故であった。上半期の反省から下半期は指導や環境の改善により労災事故ゼロとなった。

地域との交流に関しては、生き生き百歳体操・認知症サロンへの場所提供や、ボランティアの受け入れ・兵庫県老人福祉事業協会からの委託事業・実習生の受け入れも継続し、地域交流を図った。そして施設周辺の地域住民との交流として、地域の防災訓練への参加と自治会の会議場所の提供もおこなった。

1. 収入

(単位：千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
平成 29 年度実績	28,711	30,435	28,933	29,778	29,533	29,051	176,441
平成 30 年度目標	28,934	29,957	28,925	29,966	29,975	28,925	176,682
平成 30 年度実績	28,088	30,850	29,303	30,609	30,579	29,433	179,862
前年度との差異	377	415	370	831	1,046	382	3,421
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 29 年度実績	27,987	29,798	29,588	29,500	26,949	29,675	349,938
平成 30 年度目標	29,957	28,889	29,949	29,957	27,086	29,957	352,477
平成 30 年度実績	30,491	28,926	29,926	29,267	26,464	29,661	355,565
前年度との差異	2,504	-872	338	-233	-485	-14	5,627

2. 利用者数

(単位：人)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
平成 29 年	2,065	2,126	2,066	2,109	2,125	2,046	12,537
平成 30 年	2,041	2,170	2,056	2,156	2,140	2,049	12,612
前年度との差異	-24	44	-10	47	15	3	75
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 29 年	2,100	2,019	2,138	2,112	1,888	2,118	24,912
平成 30 年	2,146	2,057	2,097	2,049	1,858	2,087	24,906
前年度との差異	46	38	-41	-63	-30	-31	-6

3. 入院者数

(単位：人)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
平成 29 年	33	36	11	44	22	8	154
平成 30 年	56	0	36	5	30	46	173
前年度との差異	23	-36	25	-39	8	38	19
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 29 年	41	39	9	46	66	31	386
平成 30 年	22	23	65	103	79	56	521
前年度との差異	-19	-16	56	57	13	25	135

4. 稼働率

(単位：%)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
平成 29 年	98.3	97.9	98.3	97	98	97.4	97.8
平成 30 年	97.3	100	97.9	99.3	98.6	97.5	98.4
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 29 年	96.7	96.1	98.5	97.3	96.3	97.6	97.5
平成 30 年	98.8	97.9	96.6	94.4	94.8	96.1	97.5

5. 平成30年度年齢別・介護度別利用者数

	要介護3	要介護4	要介護5	合計
65歳以上～75歳未満	0	699 (23)	365 (12)	1064 (35)
75歳以上～85歳未満	851 (28)	3373 (112)	3404 (113)	7628 (253)
85歳以上～95歳未満	1659 (56)	6196 (210)	4662 (156)	12517 (422)
95歳以上	780 (26)	2492 (82)	887 (30)	4159 (138)
100歳以上	0	59 (2)	0	59 (2)
合計	3290 (110)	12819 (429)	9318 (311)	25427 (850)

前半の数字は延べ日数、()内の数字は実人数を示しています。

6. 平成30年度 事故分類別発生数

	A	B	C	合計
合計	5	2	167	174

A：入院加療を要する事故 B：受診・通院を要する事故 C：受診・通院を要さない事故

【Aランク】

- ・M様 食堂にて車椅子より立たれ、独歩で移動。職員気づくも間に合わず転倒。受診の結果、左大腿骨頸部骨折。
- ・K様 8/18 腰の痛みあり、受診すると圧迫骨折。いつになったかは不明。
- ・Y様 11/11 平行棒で立位保持訓練を行っている際に膝折れ。その際、車椅子へ座って頂くも、後日痛み発生。受診の結果、右大腿遠位端骨折。
- ・O様 11/23 トイレ座っておられる際に、他者のナースコールを対応し、戻るとずり落ちておられるのを発見。受診にて右脛骨・腓骨骨折。
- ・K様 11/26 フロアにてテレビ前で過ごされている時に車椅子より転落。受診の結果、左足腓骨骨折。

7. 平成30年度 退所者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
看取り介護	0	0	0	0	0	1	1
病院	0	0	1	1	0	0	2
急死	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	1	0	0	0	1
合計	0	0	2	1	0	1	4
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
看取り介護	0	2	1	2	0	1	7
病院	0	0	0	1	2	1	6
急死	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	1	0	0	1	0	3
合計	0	3	1	3	3	2	16

平成 30 年度サンライフ土山ショートステイ

事業報告書

今年度は職員 1 人 1 人の介護技術の向上、接遇・電話対応の向上、事故の減少を目標とし活動した。介護技術に関しては、毎月の内部研修への参加や、担当月にはショートユニット職員が講師となり指導を行なったことで、技術の習得・向上につながった。接遇面では家族様との信頼関係の構築を目指し、面会時に挨拶をしっかりと利用中の状況報告をすることとしていたが、出来ている職員と出来ていない職員の差が大きくできてしまった。今後は個別に職員へ指導を行なっていく。電話対応に関しては、電話の横に電話専用のメモ用紙を置いたことで、聞き忘れや伝え忘れが減少しトラブルに繋がるようなことはなかった。今年度の事故件数は 41 件で昨年度の 46 件を下回ったが、入所直後の新規ロング利用者が同じような事故を起こす傾向が見られる為、情報共有をしっかりと行い、再発防止対策を素早く行う必要がある。

収入面に関しては昨年度に比べ、約95万円の収入増となった。これは今年度から介護報酬の単価が上がったこともあるが、昨年度よりも利用人数・宿泊人数が増加したことが大きい。稼働率98%の目標は、今年度稼働率が100.7%だったので目標達成することが出来ている。今回の結果は特養の入院ベッドの有効活用が出来たことが要因として大きいため、今後も特養と連携を取り、空床ベッドのコントロールを行ない、収入の安定を目指していく。

1. 平成 29 年度・平成 30 年度 収入比較

(千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
29 年度実績	3,893	4,233	3,216	4,872	3,111	4,805	24,130
30 年度目標	3,862	4,003	3,862	4,003	4,003	3,862	23,595
30 年度実績	3,839	3,985	3,883	3,785	4,004	4,102	23,598
前年との差異	-54	-248	667	-1,087	893	-703	-532
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
29 年度実績	3,415	3,244	4,319	4,369	3,711	4,195	47,383
30 年度目標	4,003	3,862	4,003	4,003	3,458	4,003	46,927
30 年度実績	4,114	4,024	4,372	4,157	3,705	4,367	48,337
前年との差異	699	780	53	-212	-6	172	954

2. 平成 29 年度・平成 30 年度 利用人数比較 (人)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
29 年度実績	303	321	301	319	308	293	1,845
30 年度実績	285	298	305	288	312	300	1,788
前年との差異	-18	-23	4	-31	4	7	-57
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
29 年度実績	257	265	302	331	311	299	3,610
30 年度実績	312	306	330	313	302	324	3,675
前年との差異	55	41	28	-18	-9	25	65

3. 平成 29 年度・平成 30 年度 宿泊人数比較 (人)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
29 年度実績	276	298	275	293	282	273	1,697
30 年度実績	254	277	279	267	290	274	1,641
前年との差異	-22	-21	4	-26	8	1	-56
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
29 年度実績	229	230	273	305	289	277	3,300
30 年度実績	283	277	302	287	283	297	3,370
前年との差異	54	47	29	-18	-6	20	70

4. 平成 29 年度・平成 30 年度 月ごとの稼働率 (%)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
稼働率 (29 年)	101	103.5	100.3	102.9	99.4	97.7	
稼働率 (30 年)	95	96.1	101.6	92.9	100.6	100	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
稼働率 (29 年)	82.9	88.3	97.4	106.8	111	96.4	99.0
稼働率 (30 年)	100.6	102	106.5	101	107.9	104.5	100.7

5. 平成30年度年齢別・介護度別利用者数

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
65歳未満						3 (1)		3 (1)
65歳以上～ 75歳未満				5 (1)	28 (6)			33 (7)
75歳以上～ 85歳未満	3 (1)		29 (7)	54 (5)	4 (2)	390 (21)	23 (3)	503 (39)
85歳以上		141 (12)	373 (64)	226 (32)	668 (53)	1124 (57)	604 (28)	3136 (246)
合計	3 (1)	141 (12)	402 (71)	285 (38)	700 (61)	1517 (79)	627 (31)	3675 (293)

前半の数字は延べ日数、() 内の数字は実人数を示しています

6. 平成29年度・平成30年度 事故件数比較

平成29年度

平成30年度

	A	B	C	合計		A	B	C	合計
4 月			4	4	4 月			2	2
5 月			5	5	5 月			2	2
6 月		1	4	5	6 月			1	1
7 月			4	4	7 月			2	2
8 月			1	1	8 月			2	2
9 月			4	4	9 月			2	2
10 月			1	1	10 月			2	2
11 月			3	3	11 月			6	6
12 月	1		9	10	12 月			8	8
1 月		2	1	3	1 月		1	4	5
2 月			4	4	2 月			4	4
3 月	1		1	2	3 月	1		4	5
計	2	3	41	46	計	1	1	39	41

A：入院加療を要する事故 B：痛み・外傷を伴う事故 C：痛み・外傷を伴わない事故

平成 30 年度特別養護老人ホームサンライフ土山（医務）

事業報告書

平成 30 年度サンライフ土山は、医療と介護を必要とする入居者様が、尊厳を保持し自分らしい日常生活を送るため、他職種と協働したチームで、互いの役割を理解し円滑に連携し、安全で質の高いサービスが提供できるよう取り組みました。

普段から入居者、家族様との信頼関係を保てるようコミュニケーションを図るようにし、看取り期には、家族様と面談を行い、23 名の方の施設での看取り希望がありました。今年度、看取りで亡くなった方は 7 名でした。入所から看取りに至るまで、老いの進行に伴う生活への支障を医療により解決するのではなく、その都度、その人の希望する生活になるようケアの工夫を図った。しかし、一方でデスカンファレンスにて介護職員からは介入しがたいとの意見も一部あり、看取りケアは、終末期の亡くなる間際の短い時間の関わりを意味するのではなく、日常の延長線上に位置付け、入所者が希望するよりよい死を迎えることができ、ご家族様がよい看取りだったと実感できることを目標にしてケアしたらいいことを話しあいました。

平均要介護度 4.22 と高く、入居者の高齢化、重度化している状況の中、他職種（本年度 5 月から生活機能連携加算を取得するにあたって、外部の機能訓練士に週 1 度来て頂いている）と情報共有・チームケアをし、入居者の身体・精神状態や生活機能をアセスメントし、介護度が重度化しないよう、生活機能が維持できるよう支援しました。しかし、入院者数は、33 名（前年度 34 名）延べ入院日数 521 日 ベッド稼働率 97.4 と目標 98 を下回る結果でした。肺炎での入院は 10 名であり、これに関しては、施設で実施できる医療処置（在宅酸素の研修を実施。本年度 9 月より在宅酸素を受け入れ可とした）の説明を行い本人および家族の同意の下、できるだけ施設内で対応している。自力喀痰喀出できない入居者に、5 名の介護職員（認定特定行為業務従事者）と連携し、必要時吸引ができていたので入居者様の誤嚥や窒息、肺炎予防につながっている。

想定外の事故や骨折が入院加療 5 件、誤薬が 2 件あった。事故、ヒアリハットが軽減するよう QC で取り組み、目標設定は達成する事が出来ました。ただ、QC の活動で終わる事のないようにしていきたい。また、リスク委員の開催、安全管理のためのマニュアル、業務手順の見直し、職員の再教育・研修を実施し再発防止にむけて安全管理に取り組んだ。研修においては、心肺蘇生法の実施研修も行った。

職員の健康（健診、メンタルヘルス対策、腰痛予防等）の保持増進にも配慮した。感染性胃腸炎・インフルエンザ等の感染症の予防に努めた。本年度、インフルエンザに入居者 3 名発症し感染拡大を最小限にとどめるように努めた。

1. 褥瘡

項目	平成 30 年度上半期	平成 31 年 3 月状況
褥瘡者	1 名	3 名

I. 病院からのもちこみが 2 名、1 名がステージⅡの褥瘡が臀部と右足踵に発症した。定期的にアセスメントし、治療過程の評価とケアを行った。

2. 看取り

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
H30 年度	3 名	1 名 解除	2 名	1 名	1 名	1 名	0 名	2 名	1 名	2 名	1 名	1 名	16 名

3. 利用者数・稼働率・入院者数・延べ入院日数・退所者数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
利用者数 (人)	2041	2170	2056	2156	2140	2049	2146	2057	2097	2049	1858	2087	24906
稼働率 (%)	97.3	100	97.9	99.3	98.6	97.5	98.8	97.9	96.6	94.4	94.7	96.1	97.4
入院者数 (人)	3	0	4	1	3	5	1	4	3	4	5	0	33
延べ入院 日数	56	0	36	5	30	46	22	23	65	103	79	56	521
退所者 (人)	0	0	2	1	0	1	0	3	1	3	4	2	17

I. 肺炎予防の対策として、口腔内をいつも綺麗にしておくことや寝る姿勢等日常生活の工夫をし、誤嚥しないように唾液腺マッサージや嚥下体操を施行し肺炎予防に努めた。

4. 平成30年度 事故

	計
Aランク	5
Bランク	2
Cランク	158
合計	165

A：入院加療を要する事故 B：受診・通院を要する事故 C：受診・通院を要さない事故

Aランク：①4月左大腿骨頸部骨折（車椅子から動かれ転倒。職員は、少し離れたところにいた。）

②8月腰椎圧迫骨折

③11月右大腿遠位端骨折（リハビリ中、膝折れあり）・④腓骨骨折（トイレ中）

⑤腓骨骨折（車椅子から転倒）

Bランク：4月側胸部内出血 6月右脛骨骨折

Cランク：165 件内（誤薬 2 件あり）

5. 研修

		参加人数
5 月	バイタルサインについて	4 人
8 月	急変時の対応 心肺蘇生法の実施	15 人
9 月	褥瘡予防について	5 人
10 月	感染予防について	5 人
2 月	看取りケアについて	6 人
2 月	尿路感染症について	7 人

I. 血圧測定が難しい状態の時、介護職員が測定できる上腕血圧計を 2 台購入し各フロアに置いた。

平成 30 年度特別養護老人ホームサンライフ土山(厨房)

事業報告書

平成 30 年度は、既存のメニューのバリエーションを増やすことを主に行った。例えば、月に 1 度出しているカレーも定番のじゃが芋・人参・玉ねぎだけでなく、カボチャや茄子、トマト等季節の野菜を使用したり、肉を牛肉や豚肉・ひき肉・ベーコン等に変更したりした。味付けもカレールーだけではなく、トマトのホール缶やコンソメを入れ味にも変化を付けた。また、麺類もうどんやラーメン、その他に蕎麦や素麺、パスタ等毎月違うメニューを提供した。

衛生管理については、包丁やまな板の使い分けは出来ている。しかし、手袋のままラップや食器を触るといった行為が未だ見られる。また、帽子の下にヘアーキャップをかぶる、厨房に入る前に厨房着をコロコロする等、異物混入への対策を取っているにも関わらず、8 月に小鉢への毛髪の混入が発生してしまった。しっかり鏡を見ながら髪の毛のはみ出しがないよう、ヘアーキャップのかぶり方を見直す必要がある。その他に、10 月にトングの金具が劣化により破損し、サラダに混入してしまった。現在は、調理器具を使用する際に異常がないかしっかり確認を行ない、雑然と置いていた調理器具を整理し、異常がないかチェックしやすいようにした。

環境の改善としては他に、配膳コーナーの隅が物置のようになってしまっていたため、 unnecessaryなものは処分し、必要なものは衣装ケースに収納し整理整頓を行った。また、シューズラックを新調し、置くスペースが足らずはみ出していた靴もキレイに並べられるようになった。

厨房職員については、非常勤職員同士のカバーにより急な勤務変更にも対応できた。また、平成 31 年 3 月 12 日に行われた料理コンテストに参加した職員が、今まで補助にばかり回っていたが、少しずつ調理にも回るようになり、賞を取ることはできなかったが嬉しい効果があった。

栄養ケアマネジメントについては、平成 31 年 2 月時点で、低リスク 31 名・中リスク 34 名・高リスク 3 名となっており、高リスクの理由は、全て褥瘡となっている。補助食品の提供を図り、看護師や介護職と連携し治癒するようサポートをしている。

メニューについて、利用者様に聞き取りをした結果、カレーライスやコロッケ、エビフライ、うどん、ちらし寿司が食べたい料理として挙がってきた。また、職員にも給食アンケートを実施すると、圧倒的にカレーライス、お寿司、うなぎの人气が高かった。これらの結果をもとに、人気のあるカレーライスやコロッケ、ちらし寿司の提供回数を増やしていけるよう献立作成を行う。

1 栄養ケアマネジメント・食事形態について

I 栄養ケアマネジメントについて

(人)

	低リスク	中リスク	高リスク
平成 30 年 2 月	39	29	2
平成 31 年 2 月	31	34	3

II 食事形態について

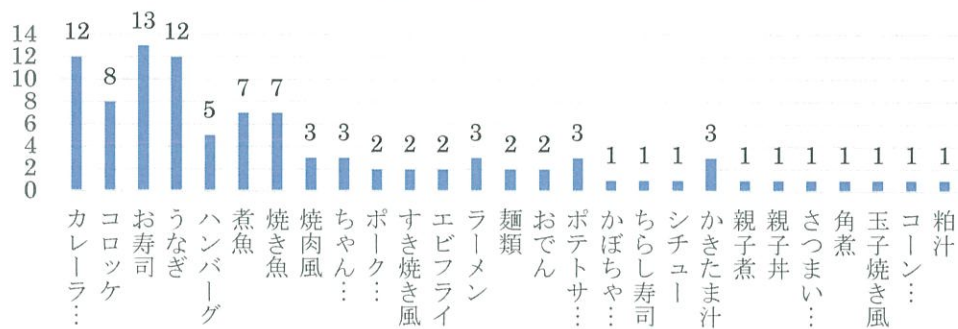
(人)

	普通食	刻み食	極刻み食	ミキサー食
平成 30 年 4 月	23	16	17	13
平成 31 年 3 月	22	14	17	15

2 職員給食アンケート結果

(人)

好きな献立

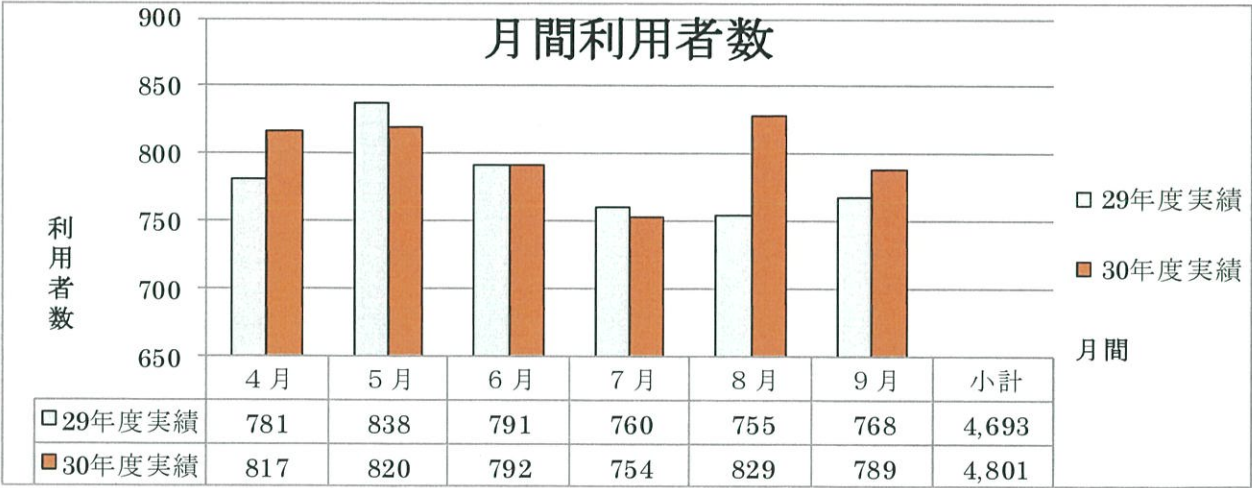


平成30年度 デイサービスサンライフ土山

事業報告書

平成30年度は、業務の効率化、利用者様ニーズ対応に努めた。業務の効率化においては、アプリを活用することにより、連絡帳等、記録業務の効率化を図った。利用者様ニーズ対応においては、家族様・利用者様より、体を動かしたいとの希望が多く、リハビリに加え体操レクを毎日行い、外出レクも多く取り入れ、運動の機会を増やした。また、ワクワク系実践講座で学んだことを活かし、職員と利用者様との絆づくりに力を入れた。利用者様と何か一つのことに取り組むことにより、絆を深めることを目標に、現状の選択レクや週替わりレクに加え、利用者参加型のイベントを多数開催し、利用者様満足度アップに繋げることが出来た。また、収支に関しては、月の利用者様平均、31.6人と増加することができ、収入増を得ることが出来たが、人件費等支出も大幅に増加している。引き続き、利用人数増加を図りつつ個別ケアに力を入れ、さらなるサービス向上を図っていきたい。

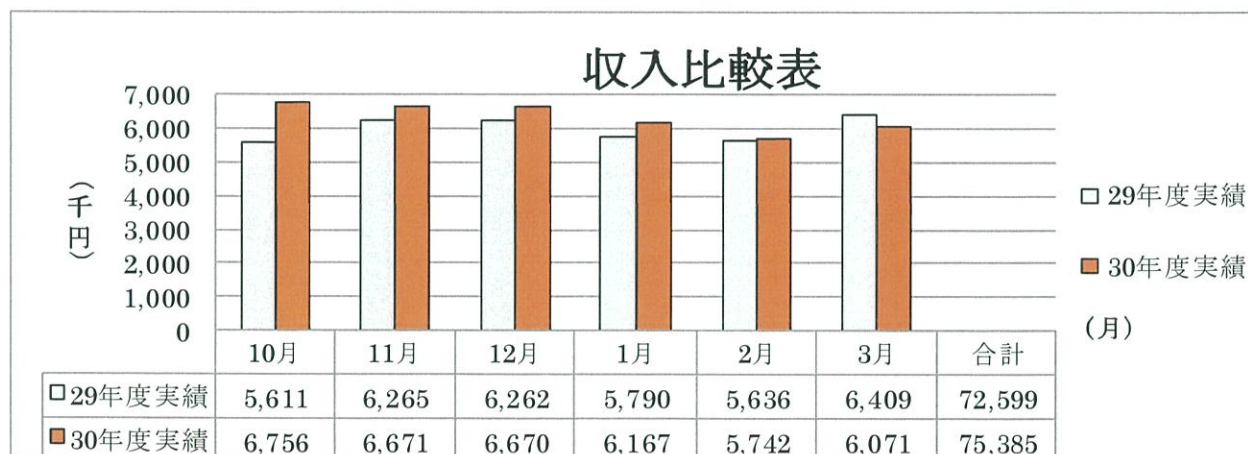
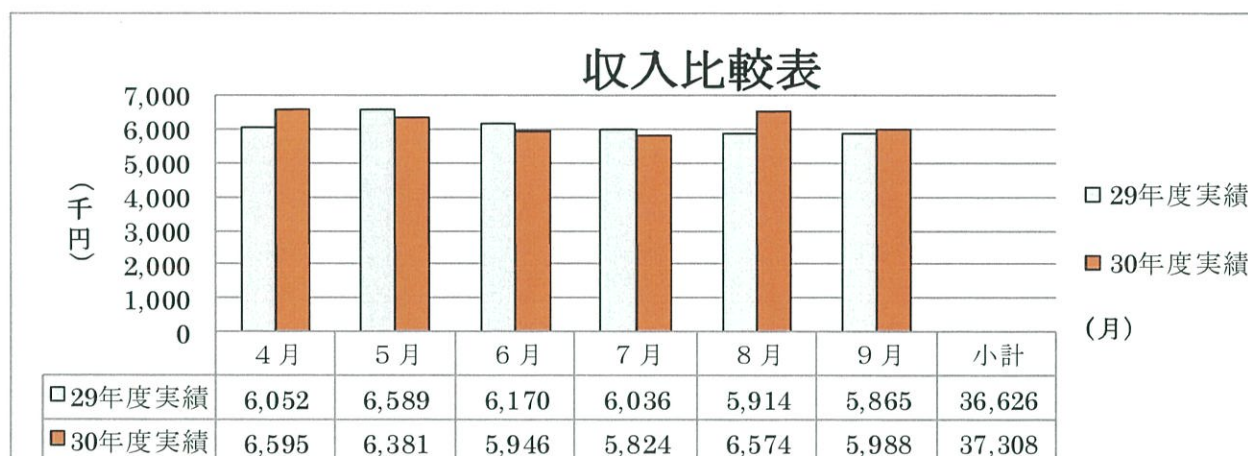
1. 利用者数





2. 収入

(単位：千円)



3.年齢別・介護度別利用者数

	事業対象者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
65歳未満							98 (8)		98 (8)
65歳以上 ～75歳未満	50 (8)		21 (4)	450 (33)	91 (13)		65 (6)	38 (9)	715 (73)
75歳以上 ～85歳未満		241 (61)	631 (84)	1538 (142)	241 (27)	304 (30)	69 (15)	295 (25)	3319 (384)
85歳以上		348 (88)	609 (81)	2601 (244)	1042 (99)	833 (92)	114 (20)	36 (5)	5583 (629)
合計	50 (8)	589 (149)	1261 (169)	4589 (419)	1374 (139)	1137 (122)	346 (49)	369 (39)	9715 (1094)

前半の数字は延べ回数、() 内の数字は実人数を示しています

4.職員充足度 (H31年3月現在)

職員 18 名 (正職員 3 名 非常勤看護師 3 名 非常勤介護職員 12 名)

個別機能指導員 (看護師) 1 名含まない

	営業 日数	利用者/ 月	職員総時間数/ 月	利用者/ 日	職員 /日	職員 一人 対	職員/日	職員一人対
4 月	25	817	2728	32.7	12.3	2.7	11.3	2.9
5 月	27	820	2710	30.4	11.7	2.6	10.7	2.8
6 月	26	792	2757	30.5	11.8	2.6	10.8	2.8
7 月	25	754	2109.5	30.2	11.6	2.6	10.6	2.8
8 月	27	829	2057.5	30.7	11.2	2.7	10.2	3.0
9 月	24	789	1960	32.9	11.2	2.9	10.2	3.2
10 月	27	873	2105.5	32.3	11	2.9	10	3.2
11 月	26	848	2148	32.6	11.7	2.8	10.7	3.0
12 月	26	848	2170	32.6	11.4	2.9	10.4	3.1
1 月	25	796	2317.5	31.8	12.4	2.6	11.4	2.8
2 月	24	756	2020.5	31.5	11.8	2.7	10.8	2.9
3 月	26	793	2041.5	30.5	10.9	2.8	9.9	3.1

平成 30 年度 サンライフ土山居宅介護支援事業所

事業報告書

平成 30 年度上半期の居宅介護支援費が目標に達する事が出来なかった。訪問調査の委託件数が減少し、施設入所など終了者も多く総収入の合計に大きく影響した。

しかし、加算については、入院時情報提供を速やかに行ない、退院前カンファレンスの参加を徹底できた。

新規利用者依頼に対しては、依頼すべての対応を行なったが、53 名の新規利用者獲得で留まり、事業所全体のプラン件数の大幅増には繋がらなかった。

営業活動については、営業ツールの見直しが出来ておらず、営業訪問件数が減っている為、今後改善の必要がある。

現在 3 名の介護支援専門員の担当利用者について、事業所内で日頃から事例についてプラン内容の検討を行ない、問題点の解決方法を話し合う事が出来ており、担当利用者以外であっても把握が出来ている状態を作っていた事で、担当職員が研修で不在の時も他の職員が変わって、スムーズに対応する事ができ、対応の遅れなどの苦情も無く、利用者からも喜んで頂き地域包括からも信用が頂けた。今後も担当者関係なく事業所内で利用者のプランの把握が出来るように努めて行く。

研修については、介護支援専門員として、苦手とする分野を作らないように、積極的に必要と思われる研修会には参加し知識を深めるように努力を行った。

<総収入>

(単位：千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
平成 29 年度実績		839	720	761	774	786	3,880
平成 30 年度実績	725	741	814	832	849	807	4,768
差異		-98	+94	+71	+75	+21	+888
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 30 年度実績	800	879	867	838	819	810	8,893
平成 30 年度実績	1,020	975	1,048	1,038	956	1,169	10,974
差異	+220	+96	+181	+200	+137	+359	+2,081

<居宅介護支援費>

(単位：千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
平成 29 年度実績		788	660	637	682	692	3,459
平成 30 年度実績	675	636	714	724	736	705	4,154
差異		-152	+54	+87	+54	+13	+695
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 29 年度実績	711	789	753	727	723	722	7,884
平成 30 年度実績	907	879	936	928	866	993	9,663
差異	+196	+90	+183	+201	+143	+271	+1779

<介護予防支援費 委託受入実績>

(単位：千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
平成 29 年度実績		42	70	71	68	71	322
平成 30 年度実績	78	92	89	89	99	86	533
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 29 年度実績	72	69	69	89	75	75	771
平成 30 年度実績	89	92	82	82	81	86	1,045

<訪問調査 委託受入実績>

(単位：千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
平成 30 年度実績	10	13	10	14	13	16	76
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 30 年度実績	23	2	29	27	8	89	254

<年間営業件数実績>

(単位：件)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
平成 30 年度実績	27	30	50	32	36	24	199
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 30 年度実績	20	29	25	32	32	35	372

平成 30 年度 リハビリデイサービス サンライフ御立西

事業報告書

平成 30 年度ささゆり会経営スローガンである「活力ある職場を提供し、生産性を上げる」を元に、職員に対してやりがいある職場環境を整えていくと共に、利用者様に対してのサービスの質の向上を目指し活動を行いました。

I. 人材の確保とサービスの質向上に向けた職員教育

現場の介護職員の不足から、人材の確保や、新しい職員への指導体制を整えていくと共に、新しいサービスの提供等にも柔軟に対応できる事業所を目標に活動を行いました。職員数名の長期の体調不良や、他事業所の人員不足での職員の異動もあり、新たに職員募集をしても、なかなか職員の補充が出来ない状況で、職員教育に時間が取れなかったことが反省点です。

II. 業務の簡素化・効率化

(1)業務のIT化

手書きしている利用者様への連絡帳やケース記録等を、すべてパソコンを使用し業務のIT化を図る。を目標に、活動を行いました。が、実際、アプリを導入・実施してみると、家族様の中には、「スマートフォンを持っていない。」「連絡ノートに家庭からの連絡事項を記入したい。ノートは継続してほしい。」といった意見も多く、連絡帳にアプリに入力したものを印刷し貼り付けることが、御立西では定着しており、簡素化にはなっていない。家族様との急ぎの連絡は、電話が主となっています。

III 新しいサービスの提供

(1)家庭菜園

今年度も花壇での家庭菜園を行い、利用者様より「次は何植えるん?」「収穫する時は声かけてね」等楽しみにして下さり好評を得ている。また種まきや収穫の際、日頃使わない筋肉を使うことからリハビリの要素も含んでおり、収穫した野菜を昼食時に提供し、季節感を感じて頂くと共に心身の活性化を図ることが出来ました。

(2)季節の行事を取り入れる

入浴では、ゆず湯・菖蒲湯を行い、ご利用者様から好評を得ることが出来ました。また、ひな祭りにちらし寿司を提供したり、季節にあったおやつ作りを実施し、好評を得たため、来年度も継続して実施していきたいと考えています。

Ⅲ. 新規利用者数の確保

今年度は居宅介護支援事業所や地域包括支援センターを中心に営業活動を行いました
たが、人員が少なく、なかなか思うようには、営業に出られなかったのですが、ケア
マネジャーさんへ電話での連絡はこまめに行うようにしていました。

今後も、連絡は密に行い、関係性を築いていきたいと思います。

また、少しずつですが、今まで紹介のなかった居宅介護支援事業所や地域包括支援セ
ンターからの問い合わせや紹介も来ているので、来年度の営業に繋げていきたいと思
います。

平成 30 年度 利用人数

(人)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
平成 29 年度実績	20.1	19.8	20.6	20.9	20.4	20.9	20.4/平均
月合計	502	536	535	545	541	545	3,204
平成 30 年度実績	18.6	18.6	18.6	18.8	18.8	19.3	18.8/平均
月合計	466	501	484	469	508	462	2,890

	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	小計
平成 29 年度実績	20.9	19.9	19.3	17.6	25	25.5	20.9/平均
月合計	543	518	502	423	600	688	6,478
平成 30 年度実績	20.2	19.1	18.1	18.5	17.5	18.9	/平均
月合計	545	497	470	463	419	492	5,776

平成 30 年度 実績収入

(千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
平成 29 年度実績	4,039	4,174	4,213	4,102	4,277	4,303	25,108
平成 30 年度実績	3,714	3,915	3,766	3,716	3,949	3,735	22,795
差異	-325	-259	-447	-386	-328	-568	-2,313

	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 29 年度実績	4,340	4,096	3,990	3,398	3,431	3,838	48,151
平成 30 年度実績	4,349	3,790	3,741	3,826	3,352	3,873	45,726
差異	9	-306	-249	428	-79	35	-2,425

平成30年度 特別養護老人ホームサンライフ西庄

事業報告書

「活力ある職場を提供し、生産性を上げる！」をもとに新しい職員への教育・家族との連携・接遇を中心とした指導を実施しサービス提供を実施した。

1. 活力ある職場づくり

I マニュアルの整備

新入職員が安心して業務が出来るよう、夜間の緊急時等、マニュアルを整備すると共に来期より夜勤体制の変更に向け職員に負担が無いよう日課の変更を実施した。また、利用者様・家族様・職員の為、玄関に意見箱を設置し安心して業務が行えるようにした。

II 接遇の徹底

接遇に関しては、現場からの報告や現場での業務時に上司から「身だしなみ」や「言葉遣い」について直接注意を実施しているが、お互いに注意を行える環境には至っていない。まずはリーダーから注意が出来る体制をとっているが実際は至っていない。

2. 連携強化

I 家族・他職種との連携

専門職同士の話し合いは各ユニットで実施し、現場で困難なケース等は施設長や相談員、専門職が介入し家族への説明、今後のケア方法を決定した。

II 居室担当を配置し、入居者様・家族様との相互コミュニケーションにより介護の理解を深め、共同での介護を目指しているが、現在は職員の配置異動も多い為、下半期は職員を固定して上司や経験の高い職員により経験の浅い職員へのフォローが行えた。

3. ICTの活用

カメラでの見守りや・超低床ベッドについては個別に高さを決定することで事故予防、職員の負担軽減に繋がっているが、ipadを使用した記録については業務の用途の使い分けを行っている。またブルートゥースを使用したバイタル測定による業務軽減に繋がった。

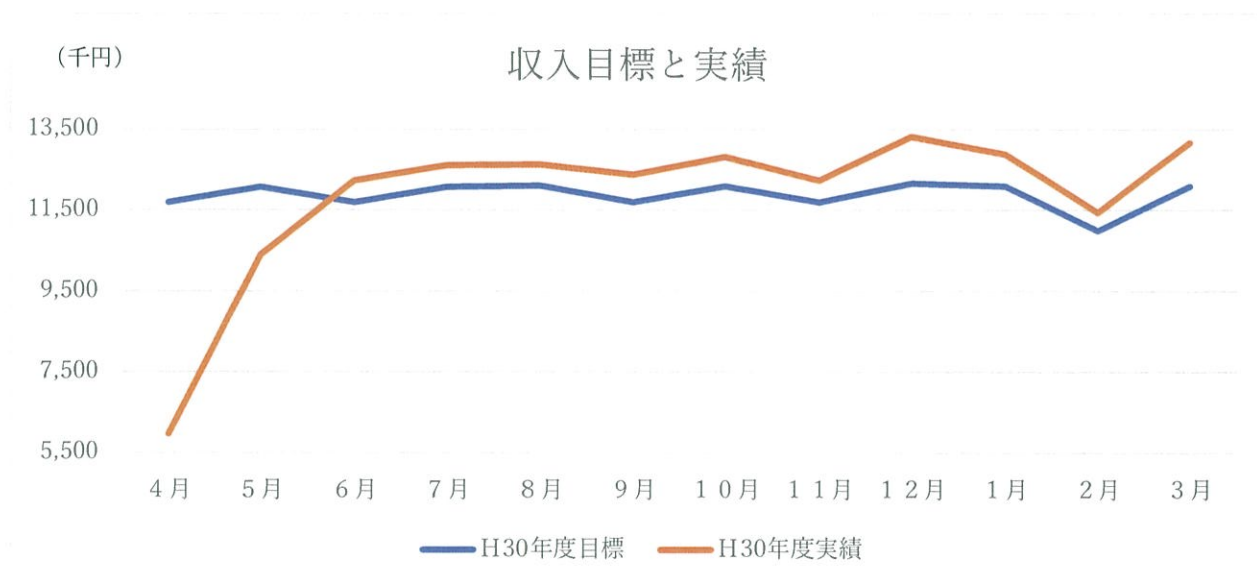
4. 収入の確保

目標どおり4月に19名を順次入所頂き5月末に29名満床にすることが出来たが個別機能訓練加算については、姫路市の監査指摘により返金を実施した。12月からは日常生活支援加算の取得、1月には生活機能向上連携加算を取得し収入の確保及び質の向上に繋がった。

年間収入目標

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	合計	比率
H30 年度目標	11,696	12,082	11,696	12,082	12,112	11,697	71,365	—
H30 年度実績	5,972	10,407	12,236	12,612	12,632	12,382	66,241	92.8%
目標との差異	-5724	-1675	540	530	520	685	4,580	—
月	1 0 月	1 1 月	1 2 月	1 月	2 月	3 月	合計	比率
H30 年度目標	12,095	11,699	12,165	12,093	10,998	12,086	142,501	—
H30 年度実績	12,825	12,238	13,319	12,888	11,447	13,175	142,133	99.7
目標との差異	730	539	1154	795	449	1089	-368	—

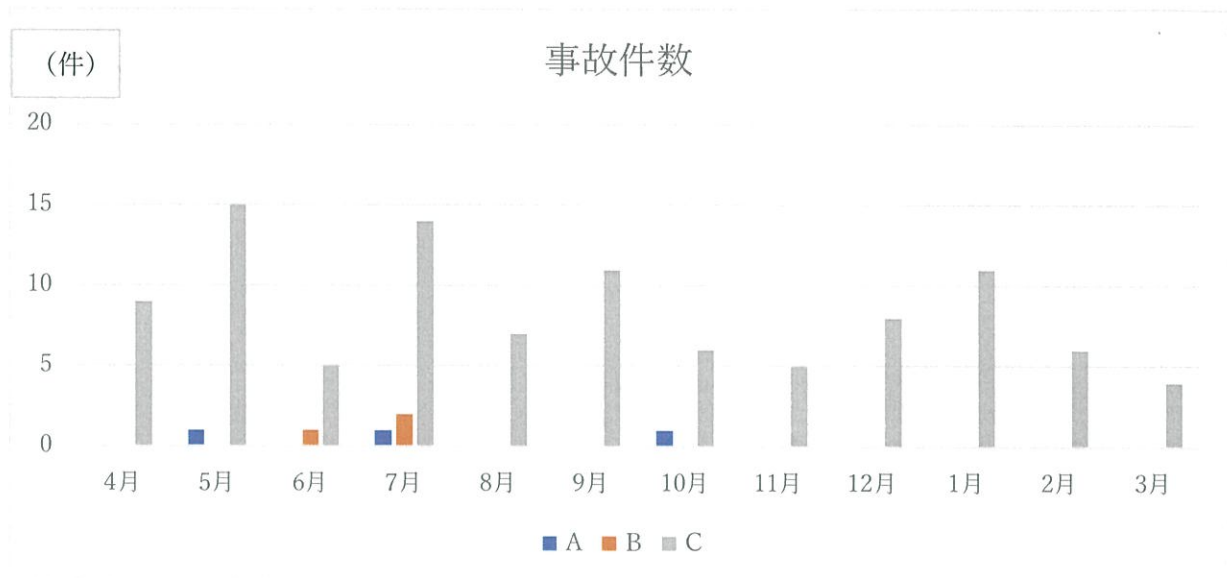
(千円)



事故件数

(単位：件)

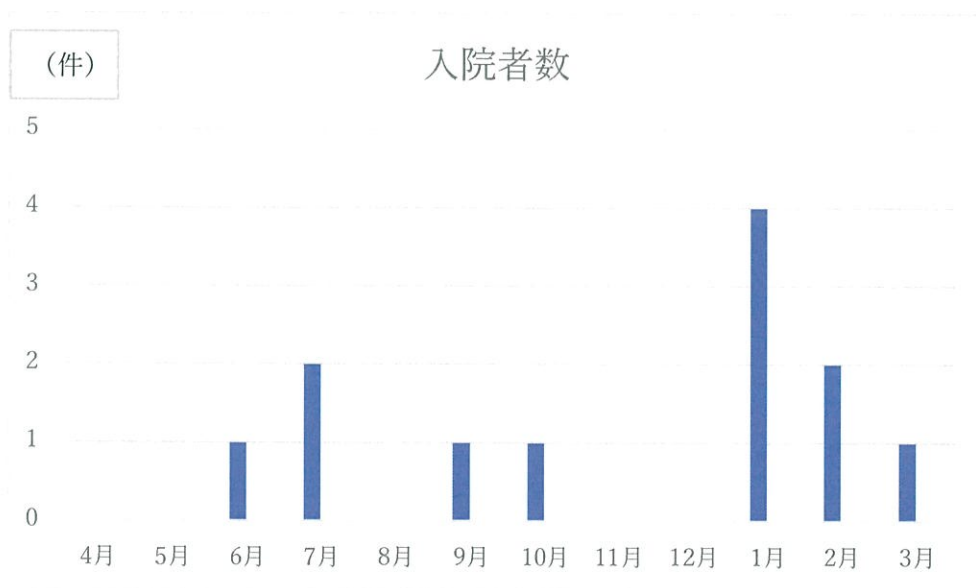
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	合計
平成 30 年度	9	16	6	17	7	11	66
A	0	1	0	1	0	0	2
B	0	0	1	2	0	0	3
C	9	15	5	14	7	11	61
平成 30 年度		11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
A	1	0	0	0	0	0	1
B	0	0	0	0	0	0	0
C	6	5	8	11	6	4	40



入院者数

(単位：人)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	合計
平成 30 年度	0	0	1	2	0	1	4
理由			尿路感染	脳梗塞・骨折		下血	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 30 年度	1	0	0	4	2	1	8
理由	骨折			肺炎 3 名・膀胱瘻 造設	肺炎・原因不明	原因不明	



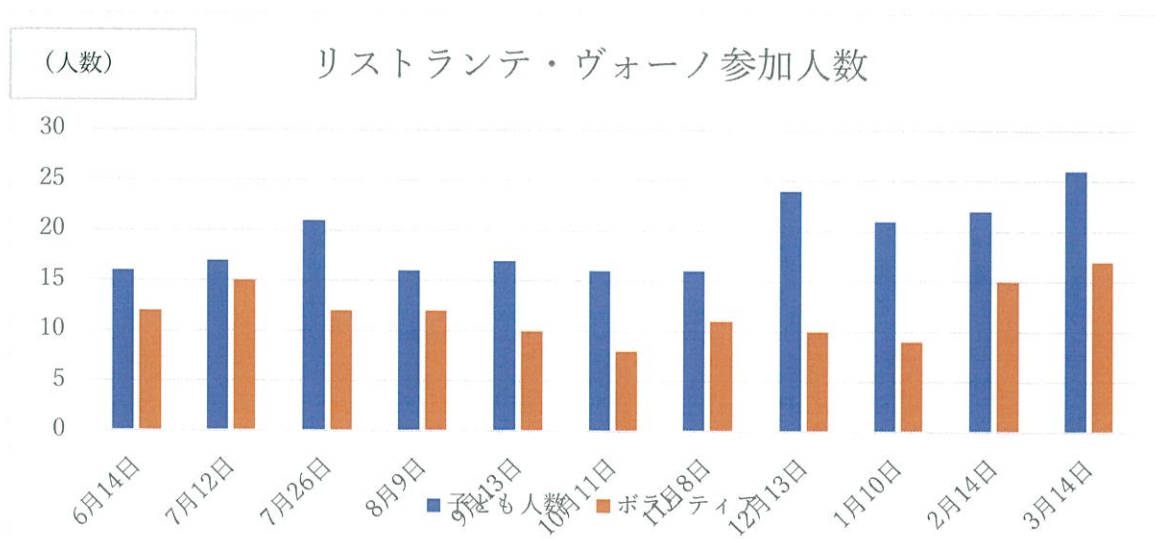
5. 地域貢献（リストランテ・ヴォーノ）

6月より毎月第2木曜日（夏休み期間は第2第4木曜日）にリストランテ・ヴォーノ（こども食堂）を開催している。当初より、地域の多くのボランティアの方と、学生ボランティアの生徒の力を借り大盛況となっている。当初は学生のボランティアの方も少ない状態ではあったが、飾磨高校の学生が定期的に参加してくれるようになり、どのように動けば良いか、分りにくかったことについてはリストランテ・ヴォーノの流れのマニュアル作成を行った。また、職員がリーダーを行いながら指示を出していく状態でしたが食事担当のグループリーダー・子ども達の遊び、勉強を教えるグループリーダーを決めて行うことで、ボランティアの方で殆どの業務を運営できる状況となっている。内容としては3歳～小学生を対象に午後5時～午後7時に宿題等の勉強を教え、保育園児にはカルタやブロック・絵本を中心に遊びを提供し、リピート利用される方が多くなっており、設定利用人数を超えての申し込みがある状況である。また、食事は子ども達が大好きなオムライスやカレーライスなどの夕食とデザートを無料で提供し、現在は子ども達からボランティアの方に「遊ぼう」や「勉強教えて」などの声がかかるようになり、ボランティアの方も子ども達も笑顔が溢れる活動となっているが、申込みなどの規定の徹底が行えていない。

また、地域の要望より下半期から「いきいき100歳体操」を週に1回実施している。

リストランテ・ヴォーノ参加状況

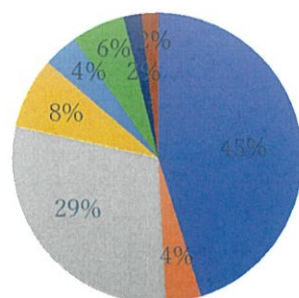
	6月14 日	7月12 日	7月26 日	8月9日	9月13 日	10月11 日	11月8 日	12月13 日	1月10 日	2月14 日	3月14 日	合計
子ども人数	16	17	21	16	17	16	16	24	21	22	26	212
ボランティア	12	15	12	12	10	8	11	10	9	15	17	121



参加者の住所の内訳（51人）

地域	西庄甲	西庄乙	土山	岡田	玉手	町坪	南車崎	辻井
人数	23	2	15	4	2	3	1	1

参加地域割合



■西庄甲 ■西庄乙 ■土山 ■岡田 ■玉手 ■町坪 ■南車崎 ■辻井



平成30年度 ショートステイ サンライフ西庄 事業報告書

「活力ある職場を提供し、生産性を上げる！」をもと新しい職員への教育・家族連携・接遇を中心に指導を実施しサービス提供を実施した。

1. 活力ある職場づくり

I マニュアルの整備

新入職員が安心して業務が出来るよう、夜間の緊急時等、マニュアルを整備し、リーダー会議等で必要となるマニュアルを新しく整備し、また、利用者様・家族様や意見の出しにくい職員の為、玄関に意見箱を設置し安心して業務が行えるようにした。

II 接遇の徹底

接遇に関しては、現場からの報告や現場での業務時に上司から「身だしなみ」や「言葉遣い」について直接注意を実施しているが、お互いに注意を行える環境には至っていない。

2. 連携強化

I 家族・他職種との連携

専門職同士の話し合いは各ユニットで実施しているが、話し合いでの決定が徹底出来るまでは困難な状況であり、同じ職員が把握し徹底できるまでには至らなかった。

II 居室担当を配置し、入居者様・家族様との相互コミュニケーションより介護の理解を深め、共同での介護を目指しているが、現在は職員の配置異動も多い為、下半期は職員を固定して上司や経験の高い職員により経験の浅い職員へフォローを行うことで、居室担当のレベルアップが行えた。

3. ICTの活用

カメラでの見守りや・超低床ベッドについては個別に高さを決定することで事故予防、職員の負担軽減に繋がっているが、ipad を使用した記録については業務の用途の使い分けと職員の意識により完全なipad 使用はできなかった。

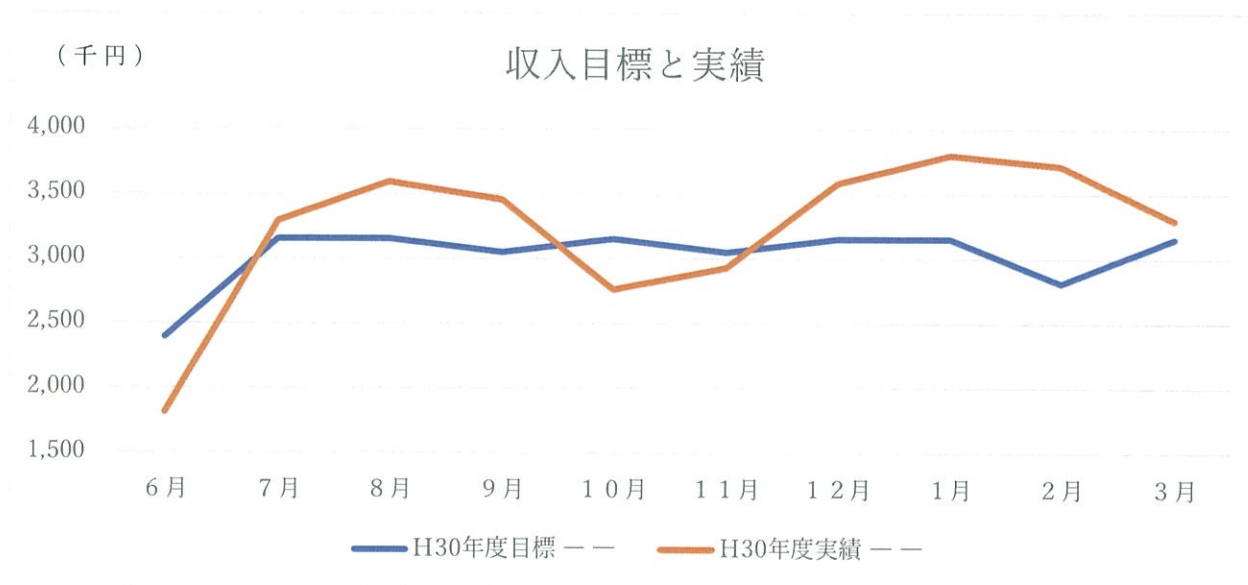
4. 収入の確保

目標どおり6月に9名を順次入所頂き6月末に9名満床にすることが出来た。グループホームへの入所など入れ替わりも多くあったが、法人ショートステイ・病院・居宅との連携により年間収入目標を達成出来た。

年間収入目標

(千円)

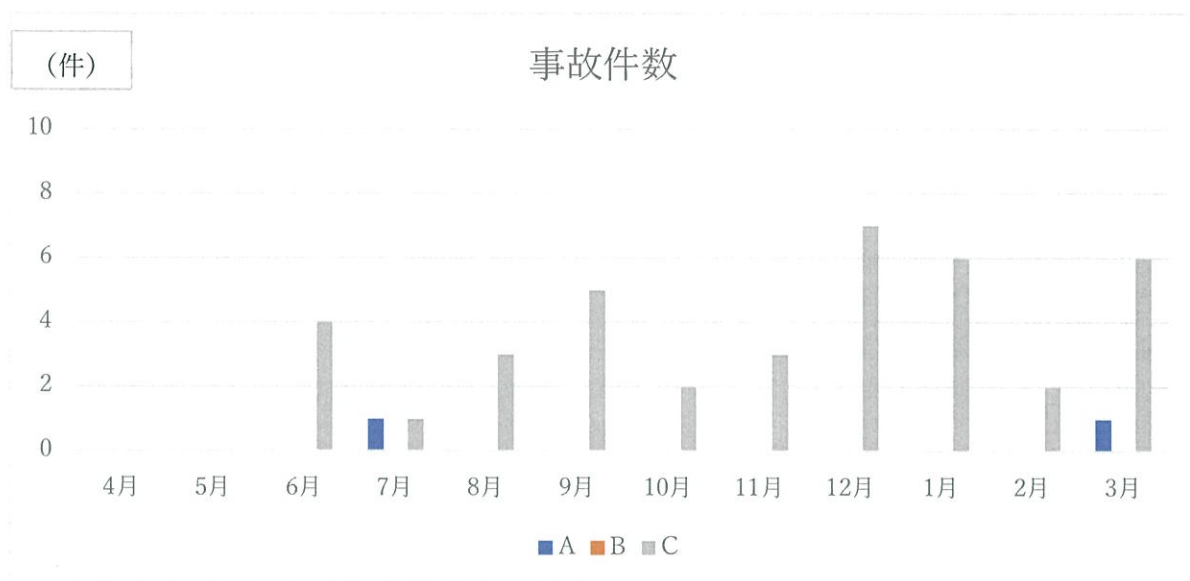
月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計	比率
H30 年度目標	—	—	2,394	3,152	3,152	3,050	11,748	—
H30 年度実績	—	—	1,812	3,291	3,594	3,452	12,149	103%
目標との差異	—	—	-582	139	442	402	446	—
月	1 0 月	1 1 月	1 2 月	1 月	2 月	3 月	合計	—
H30 年度目標	3,152	3,050	3,152	3,152	2,808	3,152	30,214	—
H30 年度実績	2,759	2,928	3,582	3,801	3,714	3,295	32,228	107%
目標との差異	-393	-122	430	649	906	143	2,014	—



事故件数

(単位：件)

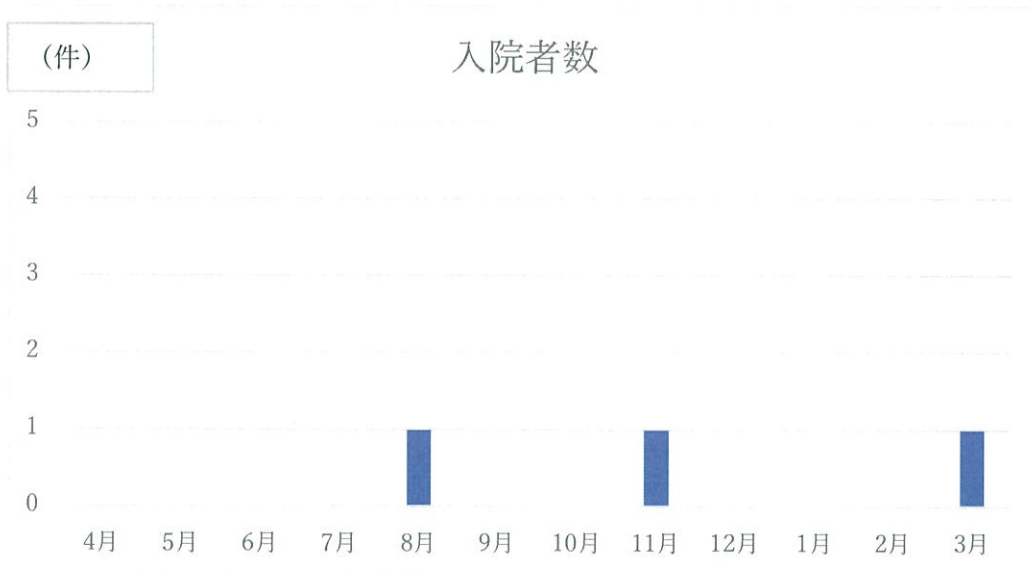
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	合計
平成 30 年度			4	2	3	5	14
A			0	1	0	0	1
B			0	0	0	0	0
C			4	1	3	5	13
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 30 年度	2	3	7	6	2	7	27
A	0	0	0	0	0	1	1
B	0	0	0	0	0	0	0
C	2	3	7	6	2	6	26



入院者数

(単位：人)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	合計
平成 30 年度 理由	0	0	0	0	1 骨折	0	1
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 30 年度 理由	0	1 肺炎	0	0	0	1 骨折	2



平成30年度 グループホーム サンライフ西庄 事業報告書

「活力ある職場を提供し、生産性を上げる！」をもとに入居者・家族との信頼関係の構築、新たな場所での暮らし作りを提供できるようにチームケアを実施した。

1. 活力ある環境作り

I 人材育成

毎月各担当が内部研修を実施している。研修担当者及び参加者の両者が学ぶ良い機会となっており、今後も継続をしていきたい。又身体拘束や虐待についても随時行っていく事で、職員の心理的負担の軽減、意識の向上に繋げていきたい。

II 接遇の徹底

接遇に関しては、現場からの報告や現場での業務時に上司から「身だしなみ」や「言葉遣い」について直接注意を実施しているが、お互いに注意を行える環境には至っていない。

III 日課の定着

環境や記憶の定着を目的として、毎日10時にラジオ体操、天気の良い日は屋上への散歩、毎食事前の口腔体操や食後のうがいを毎日実施出来ている。口腔体操については、YouTubeを用いる事で業務の効率化に繋がっている為、今後もYouTube使用を継続していきたい。

2. 連携強化

I 家族・他職種との連携

専門職同士の話し合いは各ユニットで実施しているが、話し合いでの決定が徹底出来るまでは困難な状況であり、同じ職員が把握し徹底できるまでには至らなかった。

II 居室担当を配置し、入居者様・家族様との信頼関係の構築をする為に、面会時は挨拶で終わるのではなく、コミュニケーションを図り日々の様子を伝える事から始めた。面会へ来られた家族様からは「ここへ来ると元気がもらえる」「最初は不安でしたが、親切にしてもらえて安心してます。」と喜びの声を頂き、少しずつ関係が築く事が出来ている。

3. ICTの活用

眠りスキャン・カメラでの見守りや・超低床ベッドは職員の負担軽減に繋がっている。

ipadを使用した記録については、簡単に入力出来る食事や水分量はiPad使用しているが、パソコンでの入力の方が作業時間は短い事がiPad定着の大きな課題となっている。

4. 収入の確保

目標である3月に満床を上回りに2月に満床にすることが出来た。たくさんの問い合わせや多くの見学を対応する中で、特養が併設してある事で先を見据えた入居を大勢の方が考えられていた。今後もショートステイや居宅と連携を図りコントロールをしていきたい。

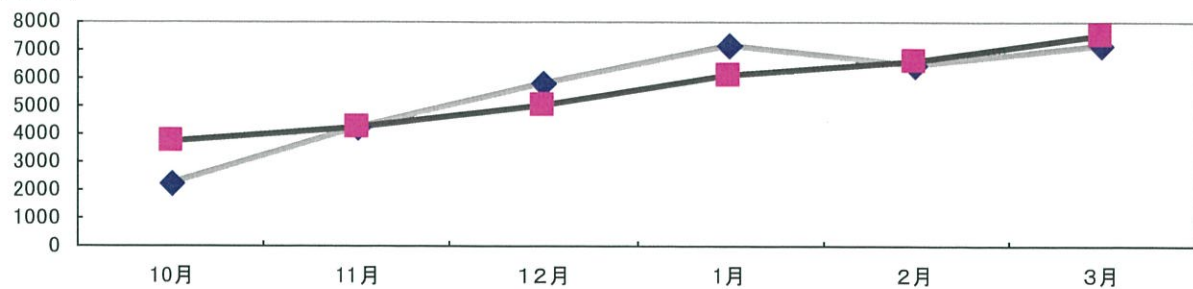
年間収入目標

(千円)

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	—
H30 年度目標	2,227	4,219	5,813	7,121	6,432	7,121	32,933	—
H30 年度実績	3,688	4,197	5,000	6,078	6,598	7,524	33,085	100%
目標との差異	1,461	22	-813	-1043	166	403	152	

年間収入目標

(千円)

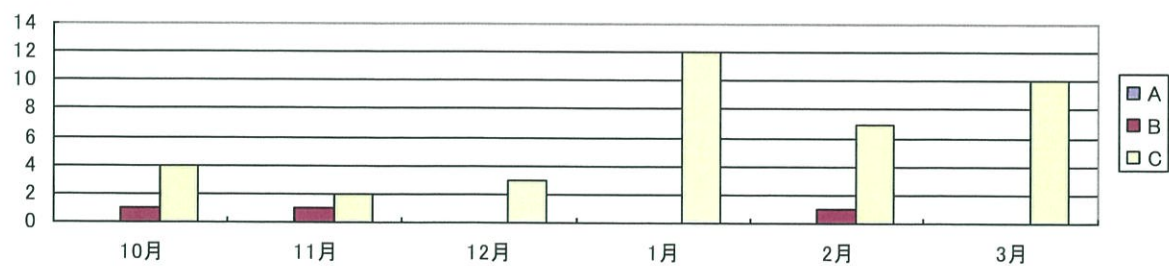


事故件数

(単位件)

平成 30 年度	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
A (入院加療を要する事故)	0	0	0	0	0	0	0
B (受診・通院を要する事故)	1	1	0	0	1	0	3
C (痛み・外傷を伴わない)	4	2	3	12	7	10	38
合計	5	3	3	12	8	10	41

(件)



入院者数

(単位：人)

	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 30 年度	1	0	0	0	0	1	2
理由	肺炎					心不全	

特別養護老人ホームサンライフ魚崎

平成30年度事業報告書

平成30年度は、「入居者のより良い生活」を考えた介護を実践する為、入居者様にとって何が大切かを考え、食事、入浴、排泄等における介護方法の見直し、介護技術の向上、業務の効率化を目標に設定していたが、直接介護を必要とする入居者様の増加に伴い、業務中心の介護環境になっている。そのため、次年度は業務中心の介護環境を改善できるよう、職員個々の介護技術の向上及び業務内容にゆとりのある職場環境を作っていきたい。

1. 活力のある職場作りへの取り組み

I. 職員育成体制の見直し

- ①各年代職員を配置したグループ型の育成方法を取り入れるも、グループ会議を行う時間等の確保が難しく、介護リーダーや特定の中堅職員が中心となり育成を行うも、介護リーダー及び特定の中堅職員の負担が多くなり、指導する側が指導する事の難しさや悩みが増え、人材育成が上手く進めることができなかった。次年度は今年度の反省を活かし、指導する側の教育や精神的サポートに努めていきたい。
- ②月1回育成担当者と育成対象者が育成プログラムやチェックシート等を用い、話し合いを行う事を設定するとしていたが実施できず。下半期からは若手職員及び中堅職員、介護リーダー、EPA 候補生等の面談を行い、職員個々の考えや想いを聞くことができた。
- ③定期的な職員会議行う事としていたが、下半期からは2カ月に1回実施できた。介護方法の見直しや部署の課題と現状を全職員で分析する機会を設け、個々の意見が出せる環境を作り、意見交換が行えるようになっている。

II. 各職員の介護方法の見直し

直接介護の負担が大きく、食事、排泄、入浴等の介助において、丁寧さや気配りが不十分な事が多くなり、個々の職員に対して、丁寧さや気配りの視点を考え、実践できるよう、中堅職員及び介護リーダー、相談員が連携し、介護技術の向上を図る。

III. 介護職員としての意識の向上

- ①施設委員活動や外部研修等への参加を促すことができた。各職員のレベルに合った役割を持たせることは難しく、意識向上が課題であるため、次年度において、個々に部署における自分自身の役割を考える機会を設けていきたい。

- ②高齢者虐待防止に関する部署内研修を年1回実施し、虐待の知識及び意識向上を図る事ができた。

IV. 他職種との連携強化

看護師・介護リーダー・相談員が話し合いの場を設ける事を設定していたが、実施できなかった。看護の状態と介護状況の連携が不足している場面も多く、看護、介護の方向性の連携を強化していきたい。

2. 経営安定化への取り組み

I. 年間稼働率目標値 99%以上への取り組み

①常時男女共に2名以上の次期入所者確保を行う。健康診断に関しては今後、柔軟に検討する。健康診断の有無により、入所日が延びるケースがあり、入所候補者には事前に健康診断を受けて頂くように話を進めていきたい。

②ショートステイと連携し、特養入所を実施できた。ショートステイからの入所となる入居者が多く、ロングショート（特養待機者）の面接を特養相談員が継続して実施する。

③長期入院者に対し、家族や病院への早めのアプローチを実施する。特養での対応が困難な場合はショートステイ等の利用も含めた一時退所等も含め、早めの働きかけを行うが、家族様の意向が不明な事や施設入所の継続を強く希望されるケースもあり、施設退所を納得して頂く時間が増えている。

④稼働率目標値 99%を目標に取り組んできたが、平均 97.8%と目標を達成する事ができなかった。

《平成30年度 利用者数・稼働率・入退所人数・看取り人数》

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期
平成30年度	利用者数(人)	894	910	875	921	929	897	5426
	稼働率(%)	96.1	97.8	97.2	99	99.9	99.7	98.2
	入所者数(人)	1	1	0	0	0	1	3
	退所者数(人)	2	1	0	0	1	0	4
	看取り人数(人)	2	1	0	0	1	0	4
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成30年度	利用者数(人)	929	836	854	905	830	930	10710
	稼働率(%)	99.0	92.9	91.8	97.3	98.8	100	97.8
	入所者数(人)	0	1	1	1	1	0	7
	退所者数(人)	0	1	2	1	0	0	8
	看取り人数(人)	0	1	1	0	0	0	6

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
H29年度収入	11.782	11.947	11.944	12.311	12.372	11.572	71.928
H30年度収入	11.771	11.979	11.449	12.096	12.321	11.789	71.405
H30年度支出	9.954	10.181	9.341	9.947	11.876	9.877	61.176
H30年度収入-支出	1.817	1.798	2.108	2.149	445	1912	10.229
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H29年度収入	11.928	11.852	12.033	11.918	11.145	11.992	142.796
H30年度収入	12.239	11.226	11.444	11.794	10.879	12.158	141.145
H30年度支出	11.002	9.404	15.386	9.754	10.246	9.142	126.110
H30年度収入-支出	1.237	1.822	△3.942	2.040	633	3.016	15.035

単位(千円)

3. 事故・褥瘡及び感染症対策

- I 内出血・表皮剥離がもっとも多く、事故委員を中心に随時介護方法の検討や、ベッド柵のカバーの交換などのハード面の見直し継続して行っている。
- II 風邪の症状等は見られたが、インフルエンザ・ノロウイルスの発生はない。昨年度のインフルエンザの蔓延を教訓に、拡大防止の為の知識・対応力を向上させる事を目的に、感染症対策委員・看護師を中心に初期段階より適切な対応ができるように実施訓練を行った。
- III 褥瘡に関しては目標を0件とし、「予防」を中心に行っていたが、3月末時点で5名おられた。体位交換や座位時間の長さ、排泄の方法等を引き続き検討を行い、電動式のエアーマット等の福祉用具を導入し、改善していきたい。

4. 要介護者の年齢・人数

3月末 30名

	～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～	平均
H30年度	0人	0人	0人	3人	5人	7人	6人	19	88.0歳

5. 介護統計について

3 月末日 現在

項目		平成30年度 3 月末状況 (入居者様 30 名)
日中オムツ使用率		1 名 (3.3%)
入浴統計	座位式	12 名 (40%)
	臥床式	11 名 (36.7%)
	シャワー浴	2 名 (6.7%)
	個浴	4 名 (13.3%)
食事形態	普通食	9 名 (30%)
	刻み食	15 名 (50%)
	ゼリー食	6 名 (20%)
看取り介護実施		6 名

6. その他

- I 職員の心身のリフレッシュを図る為に、下半期は全職員が 3 日程度の休みを取得できた。
- II 介護福祉士受験予定者の 2 名が合格となる。

以上

平成 30 年度魚崎高齢者介護支援センター(短期入所生活介護)

事業報告書

今年度は、各職員が主体的に課題を捉え、考え、発信していける様、チームとして共有し、話し合い、考えていく事が出来た。しかし、利用者数の増加や職員の退職等が重なり、グループで共有する時間が取りづらく、日常業務に追われ、後手に回る事も多くなってしまった。今後現状においても、チームとして、共有し話し合い、考え発信していく為のシステムを確立していく必要がある。

利用者数においては、新規、短期利用について確保出来ており、リピーターや中長期利用へと繋げる事が出来ている。しかし、介護負担が多い利用者様も増加しており、今後職員負担と利用者数のバランスを取っていく必要がある。

1. 「感じ」「考え」「伝え」「ケアに繋げる」介護現場の推進

I. 「感じ」「考え」「伝える」事が出来る職員の育成

- ① 各年代に応じ、グループを形成。毎月 1 回、担当利用者や業務、委員の事等、各職員が任されている仕事の課題について、グループとして、共有し、考え、話し合い、発信していく事で、業務やサービスの停滞を防ぎ、より良いケアへと繋げる事が出来た。しかし、日常業務等に追われる事が多くなり、グループ会議の時間を上手く取る事が出来なくなっている。又、管理者とリーダー、介護職間の情報共有が不足しており、リーダー、介護職からの要望を管理者が把握し、実施出来ていない事があり。それらの事も含め、しっかりグループとして共有し、話し合いを行う為に、バラバラであったグループ会議を統合し、毎月 1 回職員会議等を実施。意見交換や情報共有等出来る場を設定していく。
- ② 午前、午後の申し送り時に、新規利用者様等の情報共有が特に必要な利用者様に対し、自分が接し、どう感じたか、今後はどうケアをしていくか等について話し合いを行った事で、各職員が主体的に考え、発信する等、ケアの共有を図る事が出来た。
- ③ 前年度に引き続き、中長期利用者様に対し、担当者を配置。ケア、サービスの立案。荷物の管理、家族様との連携等を責任ある仕事を任せる事で、各職員が主体的に考え、行動し、発信していく事が出来た。また、責任の所在を明らかにする事で、サービスの停滞を防ぐ事にも繋がった。
- ④ 事故が起きた時の情報共有、対策の検討や評価、類似する事故想定等、必ず申し送り時と週末に行う事に加え、ヒヤリハットで挙げた事例についても同様に行った事で、立ち上がり等激しい方への事故予防や事故に対する各職員の意識共有等を図る事が出来た。
- ⑤ 利用者様の荷物管理に関して、文字のみの確認からアイパッドを用いた写真管理に変更した事で、返却忘れの減少や紛失した際の効率的な対応等に繋げる事が出来た。

- II. 4～6日程度の連続した有給休暇取得はできていないが、職員が希望する単発的の休暇は取得できている。勤務の状況を見ながら職員全員がバランス良く休暇取得できるようにしていく。

2. 事故件数と重大事故報告

A：入院加療を要する事故

B：受診・通院を要する事故

C：受診・通院を要さない事故

単位：件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
A											1		1
B		1					1						2
C	14	21	23	19	22	21	11	12	19	10	15	14	201
合計	14	22	23	19	22	21	12	12	19	10	16	14	204

- I. 男性 76 歳。歩行不安定な方。5/30、10:00 頃に食堂フロアにて、自ら立ち上がりどこかに行こうとされた際、バランスを崩され右腰より転倒。怪我の有無確認し、右肩の痛み強いとの事で、病院受診行い、右鎖骨骨折と診断される。家族様と相談し、手術等せず、保存治療となり、7月末に完治される。
- II. 上記男性。10/24、15:30 頃にトイレ便座に座っておられるも、職員が他利用者様対応を行い、戻った所、壁を背に便座との間で両膝を立てて座り込んでいるのを発見。右肩から背中、腰に掛けて赤みあり。痛みはないも、念の為病院受診行くと、右肩甲骨、腰椎圧迫骨折と判明。コルセット装着し、保存療法となる。
- III. 女性 83 歳。歩行不安定な方。2/1、15:20 頃に居室にて、自ら立ち上がりフロアに行こうとした際、バランスを崩され左側臥位に転倒。左大腿部、左腕に痛みあり。病院受診行い、左大腿骨陥入骨折と診断され、入院となる。

3. 収支金額

収入目標と実績

単位千円

	4月	5月	6月	7月	8月	9月		
H29年度実績	7,397	7,824	7,637	7,732	7,921	7,521		
H30年度目標	7,530	7,990	7,530	7,990	7,990	7,530		
H30年度実績	7,318	7,843	7,512	8,303	7,909	8,021		
前年度との差異	-79	19	-125	571	-12	500		
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
H29年度実績	7,358	6,886	7,044	7,345	6,904	7,178	88,747	
H30年度目標	7,990	7,530	7,990	7,990	6,991	7,990	93,041	
H30年度実績	7,873	7,256	6,768	6,430	5,962	6,760	87,955	
前年度との差異	515	370	-276	-915	-942	-418	-792	

収支実績

単位千円

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
H30年度収入	7,318	7,843	7,512	8,303	7,909	8,021	46,906
H30年度支出	6,482	6,504	5,233	5,590	7,125	5,977	36,911
収支差異	836	1,339	2,279	2,713	784	2,044	9,995
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H30年度収入	7,873	7,256	6,768	6,430	5,962	6,760	87,955
H30年度支出	6,875	5,571	10,628	5,312	5,916	5,867	77,080
収支差異	998	1,685	-3,860	1,118	46	893	10,875

4. 日中利用者数

単位 (人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成28年度	524	553	603	602	601	606	640	656	644	671	629	645	7374
平成29年度	625	656	643	643	693	631	633	596	631	631	589	602	7573
平成30年度	632	664	648	711	716	689	667	620	602	550	540	591	7630
						前々年度比	103%		前年度比	101%			

- I. 日中利用者数1日あたり、目標平均21.7名であったが、20.9名にとどまった。
- II. 中長期利用者の施設入所や入院、2月～3月にかけてのインフルエンザ流行等により、利用人数が減少した。又、ロングショート2名、準ロングショート2名となっており、特養候補者の7名確保を目指し、面接を実施していく。
- III. 緊急ショートステイ受け入れ者、7月に男性1名受け入れ行っています。

5. 稼働率

単位: %

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平成28年度	87.3%	89.2%	100.5%	97.1%	96.9%	101.0%	103.2%	109.3%	103.9%	108.2%	112.3%	104.0%	101.1%
平成29年度	104.0%	106.0%	103.5%	103.5%	112.0%	105.0%	102.0%	99.5%	102.0%	102.0%	105.0%	97.0%	103.5%
平成30年度	104.0%	107.0%	108.0%	114.5%	115.5%	115.0%	107.5%	103.5%	97.0%	88.5%	96.5%	95.5%	104.4%

6. 年齢別・介護度別利用者数

単位: 人

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
65歳未満	0	0	0	1	0	2	0	3
65以上～75未満	0	0	6	0	3	2	2	13
75以上～85未満	3	1	8	13	7	8	4	44
85歳以上	2	4	12	22	23	14	7	84
合計	5	5	26	36	33	26	13	144

7. 外部研修

安全運転管理者等講習(4月)日野
介護職員実務者研修(4月～5月初旬)藤本
介護職員実務者研修(5月)千住
老人福祉施設新任者研修(6月)奥
相談員会(6月)日野
リスクマネジメント研修(8月)日野

8. 内部研修

4/4・7・11	災害時の対応(災害時の避難経路について学ぶ)	2名
4/18・21・25 10/16・19・23・30	感染症の対応について学ぶ	5名
5/2・5・9・16	看取りケア(看取りケアについて学ぶ)	7名
5/19・23・30	吸引について(緊急時における吸引の仕方)	3名
6/2・16・20	介護保険について(介護保険の基礎について学ぶ)	2名
6/16・20・27 12/1・5・12	高齢者虐待・身体拘束について	10名
7/7・11	介護技術体験(水分、食事介助の注意事項の確認、実技)	3名
7/18・21・25 3/18・21・25	接遇について(職員マナー・接遇について等)	6名
8/1・4・8・15	心肺蘇生法(心肺蘇生についての訓練を行う)	4名
8/18・22・29 11/2・6・13	事故予防、再発防止について	8名
9/1・5・12	労働災害について(労働災害について学ぶ)	6名
9/15・19・26	介護技術体験(入浴時の注意事項確認と実技)	1名
10/2・5・9	大規模災害時におけるリスクマネジメント	3名
11/16・20・27	グループディスカッション(報告・連絡・相談)	2名
12/21・25・28	セルフコントロールについて	4名
1/4・8・15	褥瘡について	2名
1/18・22・29	ケアプランについて	2名
3/4・7・11	個人情報保護について	4名

以上

特別養護老人ホームサンライフ魚崎特養・短期入所 医務

平成 30 年度事業報告書

感染対策と褥瘡対策を大きな柱として予防の看護介護に重点を置いてこの一年取り組んできた。働きかけた事に対しての効果はある程度良い結果として特に評価できるものであったことから、それらの継続と、できなかった部分に対して今後の課題として、次年度に繋げていきたいと考える。

1. 褥瘡について

- I. 特養年間延べ発症件数 25 件 仙骨・臀部:16 件、転子部:3 件、外踝・踵・足指:6 件、仙骨・臀部に関しては夏季に多発したが、短期間で治癒しており、3 月の年度末には難治性の方の 1 件のみとなり、陰部の保清に努める事が、環境の改善と、看護師・介護士がともにしっかりと毎日観察できるようになり、良好な結果になったと考える。今後は治癒＝陰洗不要ではなく、予防の為の継続を啓発していきたい。
- II. 足周辺の褥瘡に対しては、日常生活の中で効果的な体位変換や除圧をどのようにしていくか介護職と共に検討対処していく事が今後の課題となる。

2. 感染について

- I. 多床室の居室単位での感染対応を行ったことで年間通して、前年度までの 3 分の 1 の発熱・風邪罹患の発症数であった。
- II. 発熱が無く、鼻汁・咳嗽から症状が始まった場合の感染対応が、後手になり、初動の遅れが 11 月～12 月の風邪の拡大につながった。症状がみられた場合は迷わず感染対応を行う判断と行動力を向上できるよう、又、標準予防が通常化できる様、朝礼、内部研修、申し送り等で発信していく。
- III. 特養、ショート汚物廃棄用のゴミ箱を全て蓋付きの物に統一し、マスクや、手袋、鼻をかんだティッシュ等も含め感染の可能性のある物の廃棄物の分別を徹底した。
- IV. 内部研修で、感染対応の居室を利用したのシミュレーションが具体的に伝達でき、個々に正しいセッティングが確認出来たので次年度も行いたいと考える。

3. 事故について

- I. 薬関係の重大な事故は特養ショート併せて 8 件、看護部では確認不足によるセットミスが 2 件続いたため確認作業の見直し、改めて看護師同士お互いに注意喚起し合うこととした。

4. 特養・ショートステイ看護及び研修状況

(1) 疾病発生状況

	上半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年比
発熱・風邪 罹患者数	14	4	15	10	3	1	0	47	31
その他の疾患 罹患者数	71	17	15	8	5	6	9	131	214
Ns付き添い 受診回数	26	5	5	3	4	3	4	50	74

(2) 入院・退院・入退所者数

	上半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年比
入院者数	2	1	1	3	1	1	0	9	100
退院者数	2	1	1	4	0	1	0	9	180
退所・死亡者数	4	0	1	1	1	0	0	7	87
入所者数	4	0	1	1	1	1	0	8	114

(3) 特養緊急対応の回数

	上半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年比
特養	1	0	1	1	1	1	0	5	83
ショート ステイ	0	0	1	1	0	1	0	3	50

(4) 医療診療件数（受診・往診）・診療人数

	上半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年比
特養ショート 件数	251	36	42	36	40	43	39	487	127
特養ショート 人数	727	153	117	115	109	101	120	1442	98

(5) 研修受講状況

	上半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年比
外部件数	3	2	0	0	0	1	0	6	100
外部人数	3	2	0	0	0	1	0	6	100
内部件数	12	2	2	2	2	0	2	22	84
内部人数	43	8	10	6	8	0	8	83	85

以上

平成30年度魚崎高齢者介護支援センター（通所介護）

事業報告書（案）

平成30年度の介護支援共通目標である「利用者と共に生活を考える介護職になろう」を実現する為、職員会議では接遇に対する意見交換を毎回、ケアや業務についての話し合い、研修を実施した。お昼の申し送りでは、送迎時で伺った家族様からの伝達事項や連絡帳への記入事項の確認を行い、家族様にも安心して頂けるよう努めた。

接遇に関しては、スローガンを朝・昼の申し送りで唱和し、利用者様に気配り・心配りができるような取り組みを続けた。

外出や個別レクを充実し、個人個人に合ったデイサービスを目指しているが、外出に関しては、人員不足もあり十分にに取り組むことは出来なかったが、毎年恒例の外出や遠足に関しては今年度も行うことが出来た。個別レクに関しては午前中の作業レクでは本人様に合ったレクを提供させて頂いているが、午後からのレクに関しては全員でのレクリエーションを行っている。

今年度はデイサービス利用者のインフルエンザの感染者が11名となり、これ以上の感染拡大を防止する為に、2日間デイを休業してしまい、ご利用者様や家族様にご迷惑をお掛けし、収入も減少してしまう結果となった。

1. 利用者獲得への取り組み

- (I) 毎月1日には実績及び報告書を事業所へ訪問し届けた。1ヶ月の予定表を毎月作成し事業所廻りの際に配布し営業活動を実施した。
- (II) 体験ご利用終了後、担当ケアマネージャーへ当日中、又は次の日にご利用時の状況を報告し、新規のご利用検討の依頼行った。

2. リハビリの実施

生活リハビリを中心に、車椅子から椅子への座り替え、平行棒での歩行リハビリ、シルバーカーでの歩行やフロア内歩行のリハビリをその方に応じて実施。看護師により、実施時間・実施内容を記録し、記録用紙も家族様・担当ケアマネージャーへ配布した。

3. 感染症対策

(Ⅰ) 来園時、外出からの帰園時にはうがい手洗いを徹底し、インフルエンザが流行している時期は玄関先での体温チェック、午後からの体温チェックを行い、発熱者の早期発見に努めた。

(Ⅱ) 12 月頃より、家族様・本人様へ、発熱や嘔吐・下痢等の症状があればお休みして頂く事や、インフルエンザの感染者が家族で発生した場合はお知らせ頂くよう手紙を配布。

3. レクリエーションの取り組み

(Ⅰ) 外出レクの取り組み

①桜ドライブ (芦屋周辺) (桜の開花が早かった為 3 月下旬より開始)

3/27～4/2 計 61 名参加

②岡本バラ園 (岡本バラ園)

5/9～5/22 計 56 名参加

③秋の遠足

新開地喜楽館 10/18 計 6 名参加

明石海峡公園 10/16～11/5 (うち 6 日間) 計 43 名参加

④紅葉ドライブ (芦屋から住吉川周辺)

11/13～23 計 62 名参加

⑤初詣 (魚崎八幡神社)

1/4～8 計 38 名

⑥梅ドライブ (岡本梅林公園)

2/25～3/9 計 50 名参加

(Ⅱ) 夏祭り、敬老会、運動会、クリスマス週間の実施 (ボランティア、職員の出し物)

①夏祭り週間 7 月 2 日～7 日 ②敬老会週間 9 月 24 日～29 日

③クリスマス週間 12 月 17 日～22 日

(Ⅲ) ボランティアセンターと連絡を取り、新規のボランティアの受け入れを積極的に行っている。

平成 30 年度の新規ボランティア様

- ・お琴演奏・唱歌、懐メロ演奏・ギター演奏 (ザオーギーズブラザーズ)
- ・ハンドベル演奏 (リンキング・エンジェルズ)
- ・甲南病院ボランティア部 (和太鼓・手品)

4. 職員研修

(Ⅰ) 部署研修への参加

(Ⅱ) 職員会議の際に研修を実施

4/20 通所介護加算について(15名)

6/12 身体拘束廃止について(12名)

8/28 救急対応・窒息時の対応(12名)

11/20 感染対応・身体拘束適正化及び不適切ケアについて(10名)

5. 経費・業務削減

(Ⅰ) 職員アンケートを実施し、経費削減・業務削減について意識づけを行った。

(Ⅱ) 車内に保管する消毒液を毎回交換するピューラックス液からウィルステラに変更。それにより業務削減・ピューラックスの削減につながった。

6. リフレッシュ休暇・残業ゼロへの取り組み

(Ⅰ) 連続休暇5日間を行うことができなかったが、各職員、最低5日は有給消化できている。

(Ⅱ) 現場を非常勤職員中心で行い、正職員が業務時間内で事務作業を行う時間を確保するように業務を組んでいるが、当日の欠勤や外出等が入ると事務作業時間の確保が困難となっている。

7. 平成30年度利用者状況

利用状況 (単位：人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	
H29	月総計	660	777	721	756	789	772	
	日平均	26.4	28.7	27.7	29	30.3	29.6	
H30	月総計	717	776	759	713	756	662	
	日平均	28.6	28.7	28.1	27.4	28	27.5	
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H29	月総計	764	746	710	590	676	758	8,719
	日平均	29.3	28.6	27	25	28	28	28.1
H29	月総計	778	744	720	577	617	764	8,583
	日平均	28.8	28.6	28.8	26.2	25.7	29.3	27.9

平成30年度 収入・支出 (単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
H29年度収入	5,964	7,122	6,599	6,864	7,078	7,079	
H30年度目標	6,145	7,154	6,742	7,063	7,264	6,879	
H30年度収入	6,496	7,073	6,911	6,560	6,998	6,030	
H30年度支出	5,511	5,419	5,476	4,533	5,606	4,390	
収支差	985	1,645	1,435	2,027	1,392	1,640	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H29年度収入	6,972	7,018	6,707	5,512	5,972	6,961	79,848
H30年度目標	7,063	6,971	6,971	6,421	5,962	6,879	81,514
H30年度収入	7,064	6,792	6,529	5,285	5,437	6,873	80,048
H30年度支出	5,647	4,613	7,172	5,225	4,965	4,845	63,402
収支差	1,417	2,179	-643	60	472	2,028	16,646

以上

平成 30 年度フレール魚崎中町（認知症対応型共同生活介護）

事業報告書

人材確保が難しく、休職者も数名あり人員が安定せず、特に夜勤職員不足となった。他施設からの応援で何とか稼働しているが、早急に人材確保が課題。今年度は第三者評価や身体的拘束適正化委員・研修等の実施もあり、常に余裕がなく、介護業務以外の業務が厳しく職員のモチベーションも低下し「各自が自ら考え取り組む」環境作りへの取り組みが中々進まなかった。

1. 人材育成

I 職員の質の向上

主任・リーダー中心に入居者様に安心して頂く言葉かけ、対応の徹底に努めたが、今後も職員の認識・対応の統一が課題。

事故予防対策を、各自自分がする意識を啓発してきたが、意識が弱い。今後も課題。

II 居室担当者が、個々の課題・ケアの提案・やりがい作りの提案等を積極的に行うことは、意識にばらつきがある為、今後も課題。

III 日常業務の中で主任・リーダー中心に「やりがい作り・楽しみづくりに積極的に取り組む事で、職員も楽しみを持って仕事に取り組める環境作り」に取り組んだ。散歩・日光浴・廊下歩行・個別レクリエーション・個別誕生日外出等、取り組んでいる事も増えているが、職員の姿勢にばらつきがある為、全職員で取り組むことが今後も課題。

IV 虐待研修・身体的拘束適正化委員・研修実施。職員の認識・意識の向上となっている。

V 職員状況は、退職・休職・職員の体調や高齢に伴い、夜勤が出来る職員が減少。派遣社員雇用も行うが中々厳しく、他施設より 2 名～3 名応援頂き、稼働している状況。人員確保が課題。

2. 経営の安定化への取り組み

I 新規入居者確保業務や入居判定会議に費やす時間が持てず、入居候補者の確保は出来ていない。前期は入院期間中に入居者確保をし、退居 5 日での入居が出来た。後期は年末で居室工事の日数がかかり 26 日空室となった。又、下半期は入院が 4 件と多くあった。人員を安定させ、新規入居者確保業務を速やかに実施することが課題。

3. 介護保険法遵守の為の進捗状況。

I ケアプラン 3 ヶ月に一回見直し作成実施。居室担当者会議の実施が出来ていない。

II 認知症研修は下半期に全員実施。身体的拘束適正化研修は前期後期共に全職員実施。

4. 利用者数

I 入院 5 件…病気の為

II 退居 2 件…入院し退居（入院 29 日、退居後 5 日後に新規入居）

（入院 6 日、退居後 26 日後に新規入居）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総日数		480	496	480	496	496	480	496	480	496	496	448	496	5840
利用日数 (日)	H29年度	480	494	477	489	496	471	479	480	478	492	426	496	5758
	H30年度	480	496	480	485	474	480	496	470	465	496	448	485	5755
入院 (日)	H29年度	0	0	0	7	0	9	6	0	18	4	22	0	66
	H30年度	0	0	0	11	18	0	0	10	5	0	0	11	55
空室(日) (退居)	H29年度	0	2	3	0	0	0	11	0	0	0	0	0	16
	H30年度	0	0	0	0	4	0	0	0	26	0	0	0	30
稼働率 (%)	H29年度	100%	99%	100%	98%	100%	98%	100%	100%	96%	99%	95%	100%	98%
	H30年度	100%	100%	100%	97%	95%	100%	100%	97%	93%	99%	95%	97%	98%

I 入院 6 件…(病気 4 件・骨折 2 件) II 退居 2 件…特養入居・入院

I 入院 5 件…病気 3 件・骨折 1 件・顎関節症 1 件

II 退居 2 件…入院し退居

5. 事故発生状況と対策

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
転倒	H29年度	2	2	1	0	6	2	5	4	5	2	4	5	38
	H29年度	6	4	4	4	2	2	5	3	3	1	4	4	42
転落	H29年度	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	3
	H29年度	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3
内出血	H29年度	19	14	17	26	27	21	4	5	6	13	15	8	175
	H29年度	20	18	32	35	16	26	17	15	15	22	18	22	256
異食	H29年度	0	1	0	0	0	2	0	2	1	0	1	0	7
	H29年度	1	0	2	1	3	1	2	0	0	0	1	0	11
薬ミス	H29年度	0	0	0	0	0	3	1	3	10	1	1	3	13
	H29年度	1	1	0	1	1	0	2	1	4	4	2	3	20
その他	H29年度	0	0	1	2	3	2	4	4	1	1	1	0	19
	H29年度	0	2	4	2	4	4	2	1	2	6	8	2	37
合計	H29年度	21	17	20	28	36	30	14	18	14	18	23	16	255
	H29年度	28	26	42	43	26	33	28	20	24	33	33	33	369

I 異食行為 11 件…座布団紐・座布団綿・ゴム・ビニールテープ・華・色鉛筆・お手玉・花銀カップ・体温計・ボタン→物の認識力低下の為、物の管理・見守り強化にて対応。

II 薬ミス 20 件。飲みこぼしが多く飲みにくい方は粉薬に変更し対応した。

III 内出血 256 件。手摺や椅子の保護、介助方法の統一など予防対策を実施。しかし、薬服用や年齢、身体的要因から日常動作でも内出血となりやすい方も多い。自力で多動な方の内出血が多い。引き続き予防対策に努める。

6. 要介護者の年齢・人数

H31 年 3 月末

年齢(歳)	～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～100	平均年齢
人数(人)	0	0	4	4	4	4	89.6

7. 要介護者の介護度

H31 年 3 月末

要介護度	1	2	3	4	5	平均介護度
人数(人)	5	2	5	2	2	2.6

8. 介護統計

H31 年 3 月末

項目		(入居者 16 名)
日中オムツ使用率		0 名 (0%)
入浴統計	リフト浴	5 名 (31%)
	個浴	11 名 (68%)
食事形態	普通食	11 名 (68%)
	刻み食	2 名 (12%)
	極刻み食	2 名 (12%)
	ミキサー食	1 名 (6%)
褥瘡発生数		0 名

9. 収支

(単位千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
H29 年度収入	5,283	5,246	5,169	5,195	5,442	5,146	31,481
H30 年度目標収入	5,300	5,300	5,300	5,300	5,450	5,200	31,850
H30 年度収入	5,256	5,309	5,239	5,212	5,284	5,188	31,488
H30 年度支出	5,326	5,381	5,304	5,287	5,586	5,272	32,156
収支差	-70	-72	-65	-75	-302	-84	-668
月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
H29 年度収入	5,183	5,100	5,294	5,316	4,808	5,305	62,487
H30 年度目標収入	5,200	5,150	5,350	5,350	5,200	5,250	63,350
H30 年度収入	5,408	5,114	5,240	5,392	4,991	5,263	62,896
H30 年度支出	5,473	5,172	5,301	5,554	5,045	5,321	64,022
収支差	-65	-58	-61	-162	-54	-58	-1,126

平成 30 年度 介護型ケアハウス サンライフ魚崎

事業報告書

「活力ある職場を提供し、生産性を上げる。」を目標に入居者様のより良い生活を考えた介護ができるように努めた。職員一人一人が考える力がついてきているが、チームとして話し合い、発信していける体制を強化していく必要がある。8月にEPA候補生4名の受け入れを行い、業務内容、技術や知識を概ね順調に身につける事ができている。今後もやりがいを持って業務に従事できるようにサポートを行っていく。

1. 人材育成

- I. 職員のフロア異動は積極的に行えなかったが、職員欠勤時等において各フロアでサポートしあえるよう調整を行った。
- II. 職員の適正を考慮しながら、出来る限り正職員が研修に参加できるよう調整を行った。参加した研修については職員会議において発表を行い、知識の共有を図った。
- III. 相談員による職員面談を行う事はできなかったが、下半期に相談員とEPA候補生の面談を行った。また必要な職員に対してはリーダー・相談員で定期的に面談を行った。
- IV. 8月に社会福祉士実習2名の受け入れを行った。今後も出来る限り実習生の受け入れを行っていきたい。
- V. 8月よりEPA候補生4名の受け入れを行った。日本語の理解に苦戦する事もあるが4名共に大きな差が出る事なく、順調に業務に従事できている。介護福祉士受験対策学習において、相談員・リーダーが中心となりサポートを行った。

2. 入居者様確保

- I. 上半期の骨折等による入院が重なり、入院日数は前年度169日に対し今年度は210日となっている。家族様へアプローチを行う事で早期退院ができたケースもあり、今後も早期退院に向けたアプローチを行っていきたい。
- II. 空床日数に関しては前年度238日に対し今年度は65日と削減する事ができた。退去者8名、内2名が他特養への転居であったが入居候補者を3～4名確保する事により、円滑に入退居を進める事ができた。
- III. 相談員・看護主任とできる限り待機者面接に行った。家族様への情報提供、医療との連携や情報把握において効率的に進められるようになりスムーズな入居に繋がった。

3. 活力ある職場作り・業務改善

- I. 昨年度に引き続き偶数月にケアハウス職員会議及びフロア会議を行った。事前に議題等を決めておき、周知する事で円滑に会議が進行できるようにした。

- Ⅱ. 相談員・リーダーで毎月リーダー会議を行った。各フロアの課題や育成の進捗状況の確認を行い、情報の共有や相互のアドバイスができる良い機会になった。
- Ⅲ. 3～4日程度の連続した休暇に関しては、各職員が概ね取得する事ができた。働き方改革もある為、職員ができるだけ公平にリフレッシュできる環境を整えたい。
- Ⅴ. 悩み等がある職員についてはメンタルカウンセラーへ繋ぎ、助言を求めた。その上で勤務の組み方の工夫等、出来る限りの対応を行った。

Ⅳ. その他

- Ⅰ. 介護用ベッドについて離床センサー内蔵型の介護ベッドを3月に1台購入した。今後も計画的に導入していきたい。
- Ⅱ. 介護保険法改正に伴い、退院・退所時連携加算、口腔衛生管理体制加算が算定できるようにした。
- Ⅲ. 平成29年度、事故件数417件に対し、平成30年度は501件と増加した。その内の299件（約60％）が内出血であった。数名の同一の入居者様に集中している傾向にあり、環境の整備等の対策を講じていきたい。
- Ⅳ. 重大事故については4月に1件、5月に1件、転倒により骨折・入院された事故が発生した。また1月に2件、入院はされなかったが骨折された事故が発生した。
- Ⅴ. 1月16日の神戸市指導監査があったが書面での指摘事項はなかった。衛生面等において口頭で指摘された事項があった為、今後どのように対応するか検討を行う。

Ⅴ. 介護統計について

平成30年度介護状況

項目		平成30年度3月末状況 (入居者48名)
日中オムツ使用率		2名（4％）
入浴統計	機械浴	7名（14％）
	個粋	10名（21％）
	シャワー浴	6名（13％）
	個浴	25名（52％）
食事形態	普通食	39名（82％）
	刻み食	5名（10％）
	小刻み食	2名（4％）
	ゼリー食	2名（4％）
褥瘡発生数		1名
看取り介護実施		88％（退所8名中7名）

Ⅵ. 年間収支結果

(単位：千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	合計
H29 年度収入	18,356	18,985	18,446	19,221	18,848	18,133	111,989
H30 年度収入	18,218	18,675	18,395	19,198	19,419	19,012	112,917
H30 年度支出	14,765	14,098	21,176	14,748	19,272	14,041	98,100
H30 年度収入－支出	3,453	4,577	-2,781	4,450	147	4,971	14,817
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
H29 年度収入	18,348	18,590	18,973	18,696	17,476	18,763	222,335
H30 年度収入	19,401	18,422	19,253	19,577	17,835	19,701	227,106
H30 年度支出	17,077	13,283	25,101	13,750	15,381	18,997	201,689
H30 年度収入－支出	2,324	5,139	-5,848	5,827	2,454	704	25,417

Ⅶ. 内外研修実績

Ⅰ. 内部研修

月	内容	参加者数
4 月	4/4・4/7・4/11:災害時の対応	11 名
4 月	4/18・4/21・4/25:感染症について	8 名
5 月	5/2・5/5・5/9・5/16:看取りケアについて	12 名
5 月	5/19・5/23・5/30:吸引について	10 名
6 月	6/2・6/6・6/13:身体拘束について	8 名
6 月	6/16・6/20:介護保険について	5 名
7 月	7/7・7/13:介護技術体験について	3 名
7 月	7/17・7/21・7/25:接遇について	3 名
8 月	8/1・8/4・8/8・8/15:心肺蘇生法について	15 名
8 月	8/18・8/22・8/29:事故予防及び再発防止について	11 名
9 月	9/1・9/5・9/12:労働災害について	13 名
9 月	9/15・9/19:入浴時の実技と注意点について	1 名
10 月	10/3・10/6・10/10:大規模災害時のリスクマネジメントについて	3 名
10 月	10/17・10/20・10/24・10/31:感染症について	5 名
11 月	11/3・11/7・11/14:事故予防・発生防止について	10 名
11 月	11/17・11/21・11/28:グループディスカッション	4 名
12 月	12/1・12/5・12/12:高齢者虐待防止について	4 名
12 月	12/15・12/19・12/26:職員のセルフコントロールについて	6 名
1 月	1/5・1/9・1/16:褥創について	5 名
1 月	1/19・1/23・1/30:ケアプランについて	4 名
3 月	3/2・3/6・3/9:個人情報保護について	2 名

Ⅱ. 外部研修

日付	内容	参加者
5月17日	業務の進め方研修	関・赤澤
6月22日	老人福祉施設新任職員研修	関・赤澤
7月5日	業務改善の進め方	岡元
7月12日	研究セミナー	上原
7月26日	フォローアップと後輩指導	福島
8月29日	リスクマネジメント研修	嶋田
9月19日	リーダー研修	野村
9月23日	コミュニケーションスキルアップ研修	中村
10月17日	リーダー研修	野村
10月23日	神戸市介護予防ケアマネジメント従事者研修	嶋田
10月26日	不適切なケアを防止する為の施設内研修の進め方	上原
10月27日	播磨介護技術競技大会	沖・千住
11月9日	兵庫県外国人介護士合同学習会	フオン・ハン ウエン・グエット
11月27日	介護士会研修「リスクマネジメントについて」	竹山・檀浦・三井
2月6日	廃棄物管理責任者研修会	嶋田
3月7・8日	施設ケアマネジメント研修	嶋田

以上

平成 30 年度介護型ケアハウス サンライフ魚崎医務室

事業報告書

1. 平成 30 年度受診・往診・入院・救急・看取り件数等

月	往診 件数	受診 件数	入院 件数	救急 件数	看取り 件数	薬管理 件数	入居数	退所	入所
4 月	96	22	2	1	1	45	46	1	1
5 月	87	24	1	0	0	45	46	0	0
6 月	86	24	1	0	1	47	48	1	1
7 月	87	31	1	0	1	47	48	1	1
8 月	83	22	2	0	0	46	47	0	0
9 月	74	22	1	1	0	46	47	0	0
10 月	108	27	1	0	0	47	48	1	1
11 月	85	30	1	1	1	47	48	2	2
12 月	89	21	0	0	0	47	48	0	0
1 月	87	22	1	0	0	46	47	0	0
2 月	84	17	2	1	0	47	48	1	1
3 月	103	20	0	0	0	46	47	1	0
合計	1069	282	13	4	4	556	568	8	7

2. 平成 30 年度 看護支援業務の総括

本年度は、主に下記の取組に注力してまいりました。

- ・医務室の全職員は、入居者様、そのご家族様への配慮を常に心がけてまいりました。
また、24 時間体制で対応いただいている訪問診療医師、夜間勤務をされている介護職員への配慮も怠らないよう心がけ、相互扶助に努めてまいりました。
- ・看取りへの対応につき、予めご家族様の意向を確認し、「計画書」等の書面にてご確認をいただくように努めました。
- ・感染対策では「施設内に持ち込ませない」ことに重点を置いた対策を実施し、入居者様の発症を防止することができました。
- ・オンコールの負担を軽減するためオンコール基準の見直しを図り、また看護師の情報共有を促進させるため以下の情報ファイルを整備しました。

1) 薬剤情報ファイルの作成 2) 創傷処置簿の作成 3) 往診前事前情報の作成

以 上

平成 30 年度 サンライフ魚崎（厨房）

事業報告書

今年度も、ささゆり会の経営スローガンである「活力ある職場を提供し、生産性を上げる」を実現するため、職員の定着・人材育成に重点を置いて取り組んだが、10 月中旬より常勤職員 1 名が産休に入り、第一優先を“円滑な食事提供を行う”とした。非常勤職員には、栄養士不在時の対応マニュアルを配布し、個人の能力やスピードに応じた可能な範囲での最低限の指導を行った。

季節に応じた旬の食材を提供するため、定期的に、主仕入先・地元の業者に伺い、新鮮でその時期に最も安価で美味しい食材の購入に努めたが、天災の影響もあり、食材費のコスト削減は思うように進まなかった。

1. 職員の定着・人材育成

- I. 10 月中旬より、常勤職員 1 名体制となり、非常勤職員の負担が大幅に増大されたが、栄養士不在時の円滑な食事提供を第一優先とし、栄養士不在時対応マニュアルに沿って、最低限の日々の業務を行う事が出来た。
- II. 厨房職員は比較的年配の非常勤職員（約半数が 65 歳以上、そのうち 3 名が 70 歳以上）も多いため、労働時間の配慮（出勤日数・労働時間等の短縮）・温度環境の整備（空調の修理）に加え、業務内容について具体的に分かりやすく掲示する（当日担当業務の明確化）など、長期間働きやすい環境を整えた。
- III. 3 年未満の非常勤職員には、個人の能力やスピードに合わせた指導を行い、目標を持ってやりがいのもてる職場となるよう取り組みを行った。また、随時、声かけを行い、疑問・悩みを聞き、解消を行った。個々に異なった業務内容は朝礼等で伝達し、業務の統一を図った。
- IV. 厨房朝礼（月間目標・挨拶・本日の献立復唱・連絡事項）を継続し、「笑顔と大きな声で挨拶」の定着と、職員同士が声をかけあい協力しあえる雰囲気作りに努めた。
- V. 常勤職員 1 名体制より、毎月行っていた部署研修を 7 月から中止し、8 月以降は随時、栄養士不在時の対応マニュアルに沿った個々の指導や、定期的に厨房朝礼で必要な知識・情報を発信し、良い関係性を築き、日々の業務につなげた。

＜平成 30 年度 内外研修内容、及び、参加人数（人）＞

実施月	研修内容	参加人数（人）
4 月（内部）	・ 厨房機器使用方法の確認 ・ 介護報酬改正内容	6 人
5 月（内部）	・ 熱中症について	6 人
6 月（内部）	・ 食品衛生講習会研修報告（非常勤職員）	7 人
6 月（外部）	・ 食品衛生講習会	1 人

7 月 (外部)	・ 介護報酬改定に関する伝達研修会	1 人
1 1 月 (外部)	・ 第 2 回栄養士会	1 人
合計		22 人

Ⅵ. 重複入力や使いにくいと感じていたほのぼのの給食日誌を 4 月よりエクセルを使用した給食日誌に変更することにより、業務の効率化となった。

2. 衛生管理の徹底

- I. 異物混入等の事故防止の為、今年度も継続して、春季・秋季清掃以外にも 2 ヶ月に 1 回は手の届かない所の清掃を行うことにより、1 月の神戸市指導監査で好評価を頂いた。一方、厨房同様に 2 ヶ月に 1 回、ケアハウスのキッチン周辺の見回り・状況把握、必要に応じて清掃を目標としていたが、行う事は出来なかった。来年度も継続していく。
- Ⅱ. 電解水の設置により、生野菜・生果物を衛生的に提供出来るようになった。

3. コスト削減対策

- I. 鮮魚の業者には、旬で安価な魚の確認 (2~3 ヶ月に 1 回) を行い、主仕入先とは月 1 回以上は、旬の食材・食材料費等について双方から提案しあい、安全・良質で、安価な食材確保に努めたが、上半期の天災や異常気象の影響もあり、年間を通してコスト削減は思うようになかった。

〈平成 30 年度上半期食材料費実績〉 (円)

	平成 30 年度	平成 29 年度	差額	増減 (%)
4 月	3, 084, 648	2, 954, 823	129, 825	+4. 4
5 月	3, 129, 373	3, 039, 928	89, 445	+2. 9
6 月	3, 074, 403	2, 957, 608	116, 795	+3. 9
7 月	3, 201, 936	2, 899, 541	302, 395	+10. 4
8 月	3, 224, 572	3, 037, 375	187, 197	+6. 2
9 月	3, 266, 453	2, 940, 233	326, 220	+11. 1
1 0 月	3, 115, 374	2, 999, 377	115, 997	+3. 9
1 1 月	2, 964, 544	3, 029, 492	-64, 948	-2. 1
1 2 月	3, 260, 735	3, 287, 928	-27, 193	-0. 8
1 月	2, 917, 949	3, 129, 765	-211, 816	-6. 8
2 月	2, 712, 320	2, 828, 491	-116, 171	-4. 1
3 月	2, 981, 775	3, 129, 967	-148, 192	-4. 7
計	36, 934, 082	36, 234, 528	699, 554	+1. 9

- Ⅱ. 水道、ガス、電気について本当に必要な量、時間等を見直し・検討を行い、無駄な使用量の削減に取り組みを行った。また、随時、水道の水漏れ・トイレの水洗レバー、電気の消し忘れ等の点検を徹底した。

4. 入居者様個々の状態に応じた対応

- I. ケース記録により入居者様の日々の様子や、体重減少率・食事摂取量等を把握し、多職種連携を取りながら、入居者様個々に応じた的確な対応を行った。

〈平成30年度食事形態推移〉(名) ※3月末付合計人数 30名

食事形態	人数(%)	前年度人数(%)
常食	9(30%) →	9(30%)
刻み食(小刻み食含む)	15(50%) →	15(50%)
ゼリー食	6(20%) →	6(20%)
胃瘻	0(0%) →	0(0%)

- II. 2ヶ月に1回の口腔ケアカンファレンス・経口維持会議(2月より経口維持加算算定一時停止)開催時に、介護・看護と連携し食事形態の見直しを行った。また、上半期は積極的に栄養士が現場に出向き、多職種と協働し、情報の共有と意見交換を行う事が出来たが、下半期は日々の業務に追われ、思うように実施出来なかった。
- III. 常勤職員1名体制となり、ケアハウスのケース会議には積極的に参加出来なかった。来年度は積極的に参加し、職員との連携強化、入居者様の状態及びニーズの把握に努める。

5. 食事サービスの充実

- I. 給食委員会等で、職員との連携強化し、ニーズの把握に努め、食事レクリエーション、おやつレクリエーション、選択食などの内容を充実させ、楽しんでもいただけるようなサービスの実施を行った。
- II. 下半期は常勤職員1名体制となり、第一優先として、安心・安全な食事が円滑に提供できるよう努めた。来年度は定期的に新メニューを考案し、食事に対する意欲が持てるような献立作成を目指す。

6. その他

- I. 上半期は温冷配膳車・食器洗浄機・回転釜、下半期はコンロ・温冷配膳車用コンセント・調理場蛇口・殺菌庫・換気扇用ステンレスフィルター・エアコンが長期使用による劣化で修理を行った。今後も費用、作業効率等を検討しながら、購入や修理などを行う。
- II. 人員不足により有給休暇の取得が困難であったが、少人数体制でも可能な年末年始で希望に沿えるよう勤務の調整を行った。

以上

平成30年度 サンライフ魚崎居宅介護支援事業所

事業報告書

経営スローガンである「活力ある職場を提供し、生産性を上げる」を目標とし、事業所内ではチームとしてケアマネジャー同士が助け合い、経験の浅い職員に対しては先輩職員が同行した。9月に正職員が1名退職し半年間は新規を積極的に受入れできず、利用者数が伸び悩み、収入目標は達成できなかった。3月に主任ケアマネが入職したことをあんしんすこやかセンター等に発信し、新規受入れ紹介依頼を行った。

1. 活力ある職場を提供し、生産性を上げる

- I 事業所内での連携を強化するために、定例会議を開催し、利用者情報、課題等の共有を図り、研修報告や加算の確認、勉強会を行った。(19回)
- II 9月にケアマネ1名の退職があり受け持ち件数が上限ぎりぎりになり、業務負担が増加したが、ケアマネ間で協力、助言し合い、負担軽減に努めた。
- III 長期休暇は取れていないが、有給休暇の取得、勤務調整を行い、3連休は年2～3回取得できた。

2. 利用者様獲得・経営基盤の強化

- I 9月30日で正職員が1名退職したため、約半年間は新規受入に制限があり、利用者数が伸び悩み、収入目標は達成できず、収入目標から約100万円下回った。3月に主任ケアマネが入職したため新規を積極的に受入れられるようあんしんすこやかセンターに発信した。
- II 昨年度と比較し、積極的に介護予防の委託受け入れを行い、介護予防支援費委託料は約4万円増加、加算算定も積極的に行い居宅介護支援費も10万円増加した。
- III 神戸市の認定調査の件数が117件減ったため認定調査委託料の収益が約52万円減収となり、総収入は前年度と比較し約15万円減収となった。
- IV 入院、退院時は積極的に病院と連携し、加算取得に努めた。(前年度比120%)

3. 法令遵守

- I 業務確認表を各ケアマネジャーが毎月作成し、管理者が確認を行い、加算時は書類の確認を行い必要書類に不備がないか確認した。
- II 基準や加算について不明な点があればケアマネジャー同士で相談したり、市への問い合わせ等で確認し、法令遵守に努めた。
- III 特定のサービス事業所に偏ることなく紹介し、特定事業所集中減算を回避できた。(福祉用具・訪問介護・通所介護)

4. その他

- Ⅰ 他市町村からの認定調査依頼を積極的に受託し、前年比（半期）145%となった。有効期間が最長3年になっており、今後も減少する可能性があるため、他市の認定調査を積極的に受け入れていく。
- Ⅱ 昨年度末より非常勤の専任認定調査員の入職あり、ケアマネの兼務がなくなり兼務による担当利用者数制限がなくなった。
- Ⅲ ささゆり会福利厚生の人間ドック助成制度を利用し1名受診した。

5. 収入

《総収入》

単位：千円

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
平成29年度収入	1,371	1,421	1,416	1,374	1,331	1,455	8,368
平成30年度収入	1,392	1,382	1,347	1,348	1,375	1,323	8,167
平成30年度目標	1,425	1,433	1,441	1,457	1,447	1,477	8,680
平成30年度支出	1,584	1,542	1,188	1,397	1,791	1,435	8,937
収支差	-192	-160	159	-49	-416	-112	-770
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成29年度収入	1,421	1,425	1,452	1,371	1,367	1,332	16,741
平成30年度収入	1,358	1,465	1,409	1,374	1,428	1,389	16,596
平成30年度目標	1,502	1,514	1,531	1,506	1,450	1,493	17,676
平成30年度支出	1,449	1,132	2,281	1,215	1,407	1,633	18,060
収支差	-91	333	-872	159	21	-244	-1,460

《要介護 利用者数》

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
平成29年度実績	92	98	93	94	95	102	574
平成30年度実績	99	99	96	98	98	96	586
平成30年度目標	98	99	100	101	101	103	602
目標差	+1	0	-4	-3	-3	-7	-16
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成29年度実績	101	102	102	100	97	97	1,173
平成30年度実績	99	102	97	96	96	96	1,172
平成30年度目標	105	106	107	105	100	104	1,229
目標差	-6	-4	-10	-9	-4	-8	-57

《要支援 利用者数》

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
平成29年度実績	2	2	2	2	2	2	12
平成30年度実績	3	4	3	3	3	5	21
平成30年度目標	3	3	3	3	3	4	19
目標差	0	1	0	0	0	1	2
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成29年度実績	2	2	2	2	3	3	14
平成30年度実績	6	7	7	7	6	6	60
平成30年度目標	5	5	6	6	7	7	55
目標差	1	2	1	1	-1	-1	5

○ 研修報告

研修日	研修名	場所	参加者
4/13	認定調査員研修	勤労会館	曾根
5/16	事業者連絡会	サンライフ魚崎	柳本
6/27	事業者連絡会	魚崎西町会館	島田
9/26	認定調査員現任研修	勤労会館	柳本
9/11	介護予防ケアマネジメント研修	兵庫県農業会館	正垣
9/18	自立支援型ケアマネジメント研修	神戸市医師会館	柳本
9/25	自立支援型ケアマネジメント研修	神戸市医師会館	柳本
9/26	地域ケア会議	サンライフ魚崎	島田
9/26	事業者連絡会	サンライフ魚崎	島田
9/21	事業者連絡会	住吉南部あんすこ	正垣
11/22	介護予防普及啓発 元気いきいき講座	横屋会館	正垣
1/15	介護支援専門員更新研修	兵庫県社会福祉研修所	柳本
1/16	介護支援専門員更新研修	兵庫県社会福祉研修所	柳本
1/17	認知症保険説明会	兵庫県農業会館	正垣
1/30	地域ケア会議	サンライフ魚崎	島田
1/30	事業所連絡会	サンライフ魚崎	柳本
3/4	介護支援専門員更新研修	兵庫県社会福祉研修所	柳本
3/5	介護支援専門員更新研修	兵庫県社会福祉研修所	柳本
3/13	介護保険事業者説明会	神戸文化ホール	正垣
3/29	新規特養見学会	かもこの風	島田・正垣・柳本

以 上

平成 30 年度事業報告書

地域包括支援センター

魚崎北部あんしんすこやかセンター

「利用者と共に生活を考える介護職になろう」

「思ったこと、感じたことを伝えてみよう、伝えよう」

「迅速にかつ素早く対応できるチームワークの良い明るいセンター」

センター内のいつも言っているのは「挨拶を徹底し、個人情報には注意しながら連携を図り、気持ちよく楽しく仕事ができるような職場にしていこう」である。

4 月に社会福祉士が入れ替わったが、福祉関係の経験者であり、すぐに戦力になった。また、週 4 日プランナー 1 名追加となり、ケアマネ 8 年目の経験者で戦力になっている。30 年度センターのモットーである「迅速にかつ素早く対応できるチームワークの良い明るいセンター」を実践できた。

1. 高齢者への虐待防止、消費者被害防止、成年後見制度の活用等の権利擁護支援

4 月 25 日の介護リフレッシュ教室にて高齢者虐待防止の広報。

5 月 16 日の事業者連絡会において、高齢者虐待防止、事業所の早期通報についての広報、呼びかけを行った。消費者被害については消費者センターからの広報誌の配布や圏域で起きた消費者被害、還付金詐欺や電話勧誘販売の事例については消費者センターと市区への報告と広報を行った。また各個別相談の際にもチラシを配布し、注意喚起を行った。

成年後見制度に関しては 7 月 18 日元気いきいき講座にて実際の成年後見業務を行っている社会福祉士を招聘し講演を行った。

9 月 26 日には事業者連絡会において成年後見制度の利用にあたっての留意点について説明し、広報した。また各個別相談の際、認知症が強くからむ事例、あるいは身寄りのない高齢者が対象となる事例は成年後見制度を念頭におきながら支援を行い、必要性を協議しながら、必要と思われた際には、パンフレットを用いてその必要性について、ご本人、関係者に説明を出来るだけ早期に行い、司法書士や法テラス、成年後見支援センターにつなげることが出来た。

11 月 21 日には元気いきいき講座にて専門用語を使わないやさしい相続・遺言講座として、相続診断士を招へいし、相続・遺言に関わり、慎重に準備をしておくことが重要であることを広報した。

平成 31 年 1 月 30 日は事業所連絡会にて、法テラスの新制度「特定援助対象者法律相談援助制度」を広報し、この新制度は家族や本人による相談では使えず、支援者からの申込みが必要であることを強調した。

平成 30 年 10 月に強引な電話勧誘、平成 31 年 2 月にオレオレ詐欺の事例が圏域内でおこり、チラシを作成し注意喚起を行った。平成 31 年 4 月には新元号にちなんだ詐欺がある可能性を予想し、チラシを作成し注意を呼びかけた。

2. 認知症サポートネット「お魚の会」の更なる推進

神戸市が認知症の人にやさしいまちづくり条例施行し、平成 32 年度までに全中学校区で声かけ訓練実施する事となった。まずは、魚崎中学校区の川井公園にて、声かけ訓練を実施する事と決めた。

6 月 20 日、声かけ訓練の前に認知症についての啓発、声のかけ方、認知症行方不明者の取り組み、声かけ訓練とは何か講演を実施。参加者 19 名（センター職員 5 名含む）病院や訪看等経験豊富な看護師による認知症の人に起こっている現象や心理、周囲の人の関わりによる効果や声のかけ方等講演して頂き、認知症の理解度が増したと感想あり。神戸市の取り組みを講演し DVD で他の地域の取り組みを知って頂き、地域のネットワークの必要性を感じて頂けた。また参加者でペアになり、声かけのデモンストレーションも実施し、声かけのむずかしさを楽しく体験して頂けた。

10 月 11 日地域ケア会議と兼ねて、声かけ訓練を実施。参加者 59 名（センター職員 5 名含む）区役所保健センター長の挨拶、「いつ通報したらいいの」実行委員と警察管による寸劇。参加者を 6 グループに分け、グループで、軽い認知症役と重い認知症役の人に声を掛ける訓練を実施した。地域に向けた活動力や発信力のある、婦人会、民生委員、自治会役員、ボランティアの方々にも参加頂き、声かけ訓練の目的や必要性、地域で見守るネットワーク作りを意識して頂けた。「定期的に開催してほしい。認知症役もやってみたい。誰にでも気軽に挨拶の出来る町になれば良いなあ。勉強になった。楽しかった。」等意見あり。

2 月 20 日地域ケア会議と兼ねて、室内声かけ訓練を実施。参加者 28 名（センター職員 5 名含む）10/11 の振り返りを実行委員よりお話をして頂き、センター職員より「認知症神戸モデル」の説明。東灘警察より「行方不明者の現状」「自動車免許返納制度」「振り込み詐欺防止」の説明あり。その後ペアで、認知症役と声掛け役を交代で行った。声掛け役のむずかしさ、認知症の人の気持ちが理解できた。どのように声掛けしたら安心して頂けるか、具体的な話し合いが出来た。

3. 地域包括ケアシステム構築の為、地域ケア会議の推進。（神戸市から 1 回に付 6,000 円委託料あり。）

5 月 28 日に第 1 回目地域ケア会議開催。前年度に引き続いて、居場所づくり、というテーマで「畑の会」「囲碁・将棋の会」というグループをつくり、グループワークを

した。薬局の空きスペースでお花のイベントをする「お花の会」とグループホームの花壇を利用してお花を植える「畑の会」のそれぞれのリーダーが決まり、参加者が中心となり「居場所」を作る方向性となった。「囲碁・将棋の会」では、「福祉センターを利用してはどうか、今回のメンバーで再度集まり話し合いたい。」と継続し検討予定となった。27名参加（センター職員5名含む）

9月26日に第2回目地域ケア会議開催。事例検討会を開催。認知症の母と精神疾患のある息子家族の事例についてグループワークを行った。司法書士の先生にも参加して頂き、成年後見制度の事等もお話しして頂き、皆さん制度を身近に感じられていた。参加者21名（センター職員4名含む）

10月11日 認知症サポートネット「お魚の会」合同で「声かけ訓練を実施。59名もの参加者にて、実際の「声かけ訓練」を実施。認知症役や声かけ役になり、勉強になった。

11月29日には「お花の会実施。

1月30日は「認知症の方が、皆さんと一緒にここで暮らしたい」をテーマに事例検討会を行った。

5月28日に事業者連絡会開催。制度改正について。高齢者虐待防止について。参加者18名（センター職員3名含む）

9月26日に事業者連絡会開催。生活保護について。成年後見制度について。参加者11名（センター職員3名含む）

1月30日事業所連絡会開催。認知症神戸モデルについて。参加者25名（センター職員5名含む）

・包括的継続的ケアマネジメント（ケアマネ等支援）

ケアマネ等支援の為の連絡会、研修会を、ほぼ隔月テーマを変えて開催できた。東灘区あんしんすこやかセンター合同にてケアマネ支援の立場から研修会を行う事ができた。

6月12日 医療と介護の連携を深める研修会 参加者 80名

8月23日 口腔内研修会。 参加者 44名

10月26日 感染症研修 参加者 35名

3月19日 知的障害者の理解を深める研修会 参加者 80名

4. 単身高齢者・老々世帯の孤立化を防ぎ、地域に出かけていけるように。地域支え合い推進員の地域での見守りと居場所づくりの推進。

地域貢献をしたいと希望する企業への地域見守りのアプローチを行い、集い場の提案を行っている。また、参加しやすい活動やニーズは個々により違いがあり、活動や集い場を選択できるよう多様な対応が求められ、地域とのつながりが薄い高齢者が今後増えていくことが予想されるため、自治会・マンション管理人、民生委員、婦人会、老人会

等、様々な団体とも共同できるよう広報に力を入れている。

新しい取り組みとしては魚崎地区を対象地区として「魚崎つどいばめぐり」マップを魚崎南部あんしんすこやかセンターと共同で作成し、病院、薬局、郵便局、スーパー、コンビニ等、従来まで広報協力の依頼をしていなかった場所にも行うこと、地区のつどいばの主催者を対象にボランティア交流会を開催し、地区のマンパワー強化に取り組んだ。

・法人事業として、「ふれあい喫茶カフェ魚崎」をケアハウスの4階で引き続き行った。

開催月	内容	参加者	ボランティア
5月26日	相撲甚句	34名	9名
7月28日	詩吟、体操	25名	18名
9月29日	ハーモニカ	13名	9名
11月24日	歌謡曲	19名	7名
3月30日	弦楽	17名	16名

*9月29日は台風の影響で参加者少なかった。

*1月は感染症予防のため、中止した。

・ **介護リフレッシュ教室の開催※神戸市より年間最高 36 万円委託料あり。**

介護者を対象にした介護リフレッシュ教室

4月25日：老化を防ごう 8名参加

7月11日：ハンドマッサージ 9名参加

10月31日：フラワーアレンジメント 12名参加

2月14日：絵手紙作成 12名参加

5. 介護予防普及啓発事業（神戸市年間 80 万円委託料あり）

平成 30 年 7 月 18 日 私たちに役立つ身近の制度「成年後見制度とは」を開催。

社会福祉士事務所の方に講義をお願いした。参加者 21 名（センター職員 5 名含む）

平成 30 年 11 月 21 日 専門用語を使わない～やさしい～相続・遺言講座と脳トレリズム体操を開催した。前者は税理士の方、後者は NP0 の方をお願いをした。参加者 32 名（センター職員 5 名含む）

6. 介護予防マネジメント 総合相談支援

29 年 4 月から総合事業が始まり、更新時、順次総合事業へ移行しているが、福祉用具貸与等介護予防支援が含まれる方と総合事業への切り替えをされる方を分けるのに、戸惑いがある。新規相談も多いが、総合事業の簡易型の方もあり、その分、収入が減っている。

委託料は、**国民保険団体連合会**から直接委託の事業所に振り込まれるようになった。

30 年 9 月末現在、サービス利用者 202 件（受託 138 件、委託 64 件）（前年比 101%）
委託割合 32%。委託事業者（法人含む）契約件数 16 件。

介護予防支援 117 件。総合事業 85 件。

新規件数 45 件。要介護に移行した件数 17 件。中止件数 26 件。

表. 1 H30 年度 収入 (単位：円)

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
H29 年実績	953, 555	931, 034	992, 686	1, 005, 260	990, 843	956, 373	5, 859, 751
H30 年予想	958, 080	958, 080	958, 080	958, 080	958, 080	958, 080	5, 748, 480
H30 年実績	975, 885	926, 564	934, 477	952, 146	957, 759	964, 739	5, 711, 570
前年度差異	22, 330	-4, 470	-58, 209	-53, 114	-33, 084	8, 366	-148, 181
月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	小計
H29 年実績	940, 547	925, 155	961, 034	926, 564	931, 659	906, 511	5, 591, 470
H30 年予想	998, 142	998, 142	998, 142	998, 142	998, 142	998, 142	5, 988. 852
H30 年実績	935, 406	946, 137	998, 276	1, 007, 617	1, 014, 597	973, 166	5, 875, 199
前年度差異	-5, 141	20, 982	37, 242	81, 053	82, 938	66, 655	283, 729

収入	30 年度収入	31 年度収入	収益（円）	up 率
人件費	13, 500, 000	13, 500, 000		
事務経費	4, 800, 000	4, 800, 000		
介護予防普及	800, 000	800, 000		
評価事業	60, 000	60, 000		
地域ケア会議	12, 000	24, 000		
地域支え合い	4, 500, 000	4, 500, 000		
介護予防	11, 498, 963	11, 730, 881		
シハ [※] -ハウジング [※]		529, 000		
合計	35, 170, 963	35, 943, 881	772, 898	102%UP

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
支出	2, 235, 289	2, 327, 301	1, 91, 104	2, 143, 477	2, 529, 832	2, 076, 972	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
	2, 689, 351	2, 168, 050	4, 046, 940	2, 213, 640	2, 461, 848	2, 716, 340	31, 765, 796

7. 包括的、継続的ケアマネジメント

表. 2 H30 年度相談対応者数

(単位：件数)

月	総合相談支援	※介護予防ケアマネジメント	権利擁護	包括的継続的ケアマネジメント	地域支え合い活動推進事業	その他	合計	前年	前年比
4 月	238	308	7	54	99	23	729	871	84%
5 月	139	326	0	29	19	18	531	617	86%
6 月	167	360	7	32	13	56	635	825	77%
7 月	142	301	10	47	27	54	581	982	59%
8 月	213	371	4	44	21	42	695	805	86%
9 月	152	344	11	41	79	41	668	771	87%
10 月	130	363	7	56	16	40	612	726	84%
11 月	154	343	6	59	21	75	658	743	89%
12 月	116	327	13	51	15	51	573	673	85%
1 月	164	341	15	61	23	55	659	638	103%
2 月	148	298	35	62	13	55	611	796	77%
3 月	129	360	17	58	21	54	639	743	86%
合計	1,892	3,888	108	594	333	564	7,379	9,190	80%

表. 3※介護予防支援ケアマネジメント内訳

(単位：件数)

	電話	来所	訪問	その他	合計	前年	前年比
4 月	171	2	113	22	308	325	95%
5 月	191	3	110	22	326	388	84%
6 月	239	1	115	5	360	401	90%
7 月	154	1	140	6	301	388	78%
8 月	228	8	115	20	371	354	105%
9 月	216	8	91	29	344	297	116%
10 月	225	5	103	30	363	348	104%
11 月	188	1	123	31	343	332	103%
12 月	192	1	98	36	327	334	98%
1 月	227	8	97	9	341	325	105%

2 月	194	2	83	19	298	305	98%
3 月	231	6	104	19	360	356	101%
合計	2,456	46	1,292	248	4,042	4,153	97%
前年	2,328	39	1,681	105	4,153		

8. 平成30年度研修

《外部研修と復講研修》

日付	研修名	参加者	復講研修(人数)
4/26	神戸市介護予防ケアマネジメント従事者研修	奥田・鈴井	6名
5/8	あんしんすこやかセンター-新任者研修	奥田	6名
5/9	地域支援事業等市町新任職員研修	奥田	6名
5/1, 2, 11	高齢者福祉関係新任者基礎研修	奥田	6名
5/24	お結びの会	岸	6名
5/31	東灘区自立支援協議会ネットワーク会議	奥田	6名
6/21	社会福祉士情報交換会 虐待対応勉強会	奥田	6名
7/10	神戸市「地域診断」研修	野田	6名
6/14	第7回 神戸市東部認知症連携協議会	野田	6名
6/29	神戸市高齢者虐待研修会	奥田	6名
7/27	お結びの会	岸	6名
7/30	地域支援センター-研修会 H30 年度総会	野田	6名
7/31	認知症地域支援推進員研修	野田	6名
7/20, 8/23	H30 年度高齢者虐待対応力研修	奥田	6名
8/27	H30 年度神戸市介護予防フレイル予防対応研修	野田・白井	6名
9/11~12	ケアマネジメント従事者現任者研修	全員	
9/12	お結びの会	岸	6名
10/15	困難事例対応力向上研修	奥田	6名
10/17	こぶしの会	野田	6名
10/24	東灘区自立支援協議会ネットワーク会議	奥田	6名
11/2	認知症地域医療連携関係者スキルアップ研修	野田	6名
11/13	困難事例対応力向上研修 事例演習①	奥田	6名
11/20	お結びの会	岸	6名
11/26	虐待対応研修 初動期②	奥田	6名
11/27	平成30年度 法テラス兵庫地方協議会	奥田	6名
11/30	E研修 地域豊穰化	白井	6名

12/6	地域包括・在宅介護支援センター協議会	奥田	6名
12/10	神戸市若年性認知症支援研修会	岸	6名
12/17	困難事例対応力向上研修 事例演習②	奥田	6名
12/21	ゲートキーパー養成研修	岸	6名
1/17	認知症ライフサポート研修	岸	6名
1/23	東灘区自立支援協議会ネットワーク会議	奥田	6名
1/24	お結びの会	岸	6名
1/24	介護予防サロン推進事業進捗報告会	白井	6名
1/29	地域診断研修	奥田	6名
2/4	テーマ別研修発表会	白井・奥田・野田	6名
2/18	地域包括職員課題別研修	白井	6名
2/23	成年後見の過去・現在・未来	奥田	6名
3/22	地域包括職員テーマ別研修全市発表会	岸	6名
3/22	お結びの会	岸	6名

・介護支援専門員更新研修(前期)：白井参加

《内部研修》

月	内容	参加者
4月	新入社員研修	奥田・鈴木
5月	虐待研修（全体会議）	岩佐・奥田・鈴木
6月	虐待研修（全体会議）	岸・野田・白井
7月	復講研修のみ	全員
8月	復講研修のみ	全員
9月	復講研修のみ	全員
10月	身体拘束の適正化（全体会議）	全員
11月	復講研修のみ	全員
12月	復講研修のみ	全員
1月	身体拘束の適正化（全体会議）	全員
2月	復講研修のみ	全員
3月	復講研修のみ	全員

以上